

法學博士穗積八束講述

中央大學
一九二一年

憲

法

完

中央大學發行

憲

法

目次

第一編	國家	一
第一章	法ノ觀念	同
第二章	國家	九
第三章	國體及政體	二一
第四章	憲法	二九
第二編	統治ノ主體	三二
第一章	總論	同
第二章	皇位	三五
第三章	皇位繼承	三八
第四章	攝政	五〇

憲法目次

第三編 統治ノ客體

第一章 總論

第二章 領土

第三章 臣民

第四章 臣民ノ權利

第四編 統治ノ機關

第一章 總論

第二章 帝國議會

第三章 帝國議會ノ地位

第四章 帝國議會ノ構成

第五章 帝國議會ノ職權

第六章 政府

二

五六丁

同丁

六〇丁

六六丁

七一丁

七四丁

同丁

七六丁

八〇丁

八四丁

一〇六丁

一二七丁

第七章 國務大臣

第八章 樞密顧問

第九章 裁判所

第五編 統治權ノ作用

第一章 統治權

第二章 大權

第三章 立法權

第四章 法律

第五章 命令

第六章 條約

第七章 豫算

第八章 司法權

一二二丁

一三三丁

一三六丁

一四二丁

同丁

一五一丁

一六〇丁

一六七丁

一七八丁

一九二丁

一九五丁

二〇二丁

三

憲法目次終

憲法

法學博士 穂積 八束 講述

國家

法ノ概念

第一編 國家

第一章 法ノ概念

憲法ハ國家統治ノ大原則ヲ定メタル法則デアリマス故ニ憲法ノ何タルヲ解釋スルニハ先ヅ法ト云ヒ國家ト云フモノヲ明瞭ニセネバナリマセヌ茲ニ説明スル所ハ日本ノ現行憲法ノ要領デアルガ併シ學問ノ一部分トシテ憲法ヲ研究スルニハ先ヅ緒言トシテ法及國家ノ何タルヲ説ク必要ガアリマス併シ之ハ緒言トシテ特ニ其事ヲ説クノデアアルカラ法理學若ハ國家學ノ説明ニ於ケル國家及法ノ精シキ説明トハ異ツテ居ルト云フコトハ豫メ承知シテ居ツテ貰ヒタイ

法ハ人ノ共同生活ノ規則デアツテ權力ニ依テ維持セラル、モノデアアル、法ノ概念ニハ共同生活ト云フコト、規則ト云フコト、權力ト云フコト、此三ツノ要素ガアル、之ヲ明ニスルコトニ依テ自ラ法ノ法タルノ特質ガ知ラル、デアラウ、人ハ常ニ文野ヲ問ハズ共同生活ヲ爲スニ依テ其生ヲ遂グルモノデアアル、個人孤獨ニ絶對ニ孤立シテハ其生ヲ遂グルコト能ハズ、人類ハ則チ滅亡スルデアラウ、即チ如何ナル野蠻原人ノ社會ヲ見テモ夫婦、親子、家ト云フ一團體ヲ成シテ先ヅ共同生存ヲ爲ス、較大ニシテハ部落ヲ成シ、尙ホ進ンデハ國家組織ヲ成シ、以テ其生存ヲ全ウスルモノデアアル、故ニ人ハ團體ヲ成スニ依テ其生存ヲ永遠ニ傳ヘ得ルモノデアアルト云フノデアリマス、團體ト云フハ唯機械的ニ木石ガ原野ニ竝ビ存スルガ如キ意味ニテ謂フノデハナイ、單純ナル群衆トハ異ツテ居ル、團體ト云フトキハ個人ガ全體ノ一分子ヲ成シ相寄ツテ團體其モノ、統一ノ下ニ團體トシテノ自主ノ目的ヲ有スルコトヲ意味スル、例バ血族ノ者ガ相寄ツテ家ヲ成ス場合ニハ個人孤獨ノ生命目的ノ外ニ家ト云フ團體ガ永遠ニ亘ルノ生存ヲ有スルモノデアアル、進ンデ國家組織ト成ルニ於テハ個人ハ國家ノ分子トシテ相寄ツテ國ヲ成セルノデアツテ個人一時ノ生

命目的ノ外ニ國家トシテノ團體其モノ、永遠ノ目的ト生命トガアル、此意味ニ於テ人ハ團體ニ依テ生存ヲ遂グルモノデアアルト云フノデアリマス、規則ト云フハ人ノ行ヒノ準則ヲ指ス、人ガ之ニ依テ之ヲ行フノ規矩準繩タルモノヲ指スノデアリマス、法ハ規則デアアル、前ニ言フ通り、人ハ共同生活ヲ必然ノ状態トスル、共同生活ヲ爲スニハ人ト人トガ相寄リテ共同ノ目的ノ下ニ相調和シテ働クコトニ依テ成ル、若モ個人各ガ各自自由我儘ナル舉動ヲ爲シ、自己ノ目的ノ爲メノミニ活動シテ人ノ目的ヲ無視スルガ如キコトアラバ禽獸カ食ヲ争フガ如キ有様トナツテ社會ニ秩序ハナク共同生活ハ成立チマセヌ、故ニ共同生活ノ要件トシテハ人ト人トノ間ニ於ケル意思ノ衝突ヲ避ケ其行爲ヲ調和シテ秩序ヲ保ツト云フコトガ必然ノ要求デアアル之ナクンバ共同生活ハ成立チマセヌ、共同生活成立タザレバ民族ハ即チ亡ブルノデアアル、故ニ法ノ存在ハ社會ノ存在ヲ意味シ、社會ノ存在ハ當然ニ法ノ存在ヲ意味スル、二ツノモノ離ルベカラザル關係ガアツテ相寄ツテ以テ人類進化ノ要件ヲ成スノデアリマス、

權力ト云フハ強キ意思ヲ以テ弱キ意思ヲ制スルノ意義デアアル、前ニ言フ共同生活

ノ社會ニ於テ一定ノ規則ヲ設ケテ各個人ヲシテ之ニ據ラシムルト云フニハ權力ノ存在ガ必要デアル、何トナレバ人ハ各自我ノ念ノ極テ強キモノデアルカラ一身一己ノ一時ノ利慾ヲ貪ルガ爲ニハ他人ノ身體、生命ヲモ傷ケ社會ノ秩序ヲモ紊ツテ其欲ヲ恣ニセントスルノ自然ノ傾ガアル之ヲ抑ヘ制スルニアラザレハ秩序ヲ維持スルコトハ出來ヌ、而シテ之ヲ治ムルノ方法トシテハ或ハ宗教ノ教モアラウ、或ハ聖人カ説ケル道德、倫理ノ教モアラウ、皆此目的ノ爲ニ存在スル、去レド宗教若ハ道德ノ教義ハ各人ノ良心ニ懇ヘルノデアツテ各人自ラ守リ聖人ノミ集ツテ居ルモノナラハ之ニテモ社會ハ十分ニ維持セラル、デアラウ、去レド悲シキコトニハ人類ノ大多數ハ自己ノ良心ノミニ依テ此德義ヲ守ルコトノ出來ヌモノデアアル故ニ社會ノ秩序ヲ維持スルニハ權力ナルモノガ必要デアル、各人孤獨ノ力ヨリモ強キ團體ノ主權ナルモノガ存在シテ共同生活ノ規則ニ背ク者ニ向ツテハ制裁ヲ加ヘ其意ニ反シテ之ヲ強制スルト云フコトガ止ムコトヲ得ザルニ出ヅルノ必然ノ要件デアル、法ハ此要件ヲ充タヌ爲ニ生レタ、團體ニ於ケル主權ニ依テ維持セラ

以上ニ述ベタル三ツノ要素ガ法ノ法タル特質ヲ示スモノデアツテ之ニテ團體ノ觀念ヲ得ルコトカ出來ルデアラウト思フ、茲ニ謂フ法トハ固ヨリ今日憲法以下ニテ定メテアル成文ノ法律命令ノ如キ形ヲ文字ニ現ハシタルモノ、ミヲ指スニアラザルハ言ハズシテ明デアラウ、法ハ慣習トシテ發達スルコトガ其初デアアル、例ハ往昔ノ社會ニ於テ家族的、小團體ニテ秩序ヲ維持シタル時代ニハ家長權アツテ家族タル者ガ其レニ服從シ、家内ニ於ケル慣例、習慣ガ存在シテ各人之ニ據リ、又權力ヲ以テ之ニ違フ者ヲ制シ、以テ家ト云ヘル團體ノ秩序ヲ保チ得タルノデアアル、後世大民族ヲ成シ大國家ヲ形造リタル後ト雖モ所謂法ハ國民ノ慣習、禮儀ノ形ニテ行ハレタ、例ハ婚姻トカ、夫婦ノ關係トカ、所有權トカ、貸借關係トカ云フ法律關係ハ固ヨリ法ト云フ文字上ノ特別ノ觀念ナクシテ社會生存ノ要件トシテ或ハ慣習ノ形ニ於テ或ハ社交的ノ禮儀ノ形ニ於テ實質上法トシテ行ハレタルモノデアアル、今日進歩セル國家組織ニ於テハ民法ノ如キ成文ノ法典モ備ハリ其大原則ヲ文字ニテ現ハシ之ヲ明ニスルコトガ行ハルレドモ、之ハ大部分慣例、習慣、禮儀ニ由リテ發達セル蹟ヲ拾フテ文字ニ現ハヌダケルコト

デアツテ尙ホ成文法律以外ニ慣習ガ法ノカヲ有スルモノガ甚ダ多イ之ハ單ニ民法ニ限テ言フコトデナイハ無論デアアル國體政體ヲ定ムルノ憲法其レ自身ガ近頃ニ於テコソ其大原則ヲ法典ニ編纂スルコトガ行ハレテ來タ然レドモ今日マデ其國ヲ建テ國ヲ維持シタル蹟ヲ觀來レバ不文ノ法則トシテ嚴然タル憲法ガ孰レノ國ニモ存在シテ居ツタモノデアアル殊ニ我邦ノ如キ國ヲ建ツル以來二千五百年以上ノ久シキニ亘リ國體ノ動搖セザルコト斯ノ如キハ世界ノ歴史ニ他ニ絶エテ其例ヲ見ザル所デアアルガ其憲法即チ國體ノ大原則ハ文字ニ書キテ發布シタルニ由リテ萬世ニ維持セラル、ニハアラズ古來ヨリ民族一致ノ確信アツテ不文ノ根本法ヲ維持シ來リシニ由ルノデアアル吾輩ガ茲ニ説ケル法ノ觀念ハ或ハ他ノ學說ト一致セザル點モアルデモアラウ細目ノ相違ハ別論トシテ強テ茲ニ辨明セズ唯從來ノ學說中二ツノ極端ニ涉ツタル説明ガアルカラ之ハ吾輩ノ採ラザル所デアアルコトヲ一言シテ置カウ

其第一ハ法ハ自然的ノモノデアリ社會ニ獨立シテ存在スルモノデアツテ權力ノ觀念ニ必然伴フモノニアラストスル説デアアル之ハ所謂歴史派ノ法理論ニ多ク見

ル所デアアル吾輩ノ説明ノ特色ハ法ハ權力ノ觀念ト離レザルモノデアアルトスルコトニ在ル反對ノ學說ハ法ト權力トハ恰モ氷炭相容レザル觀念ノ如クニ想像シテ權力ヲ否認スルノ説明ヲ爲ス例ハ歴史派ノ大家ザビニト云フ人ノ法律ノ變遷ヲ説ケルハ近來罕ニ見ルノ卓見デアツテ今ノ法理論ハザビニノ跡ヲ追フコト最モ多イノデアアル然レドモ彼レノ説ヲ極端ニ敷衍スレバ法ハ國民ノ自然ノ慣習ニ出ヅルモノデアツテ權力ニハ何等關係ナキカ如ク聞ユル吾輩ハ權力ヲ以テ要素ノ一ツト看做ス是等ノ點ニ付テ精シキ話ヲスルハ此短簡ナル講義ノ範圍ニ於テハ不能ノ事デアアルカラ省ク去レド權力ナクシテハ家又ハ國ト云フ組織ハ成立タザルコトハ明瞭デアアル權力ヲ後援トスルコトナクシテハ法則ト學問若ハ宗教ノ教トノ區別カ明ニナラヌ道德ト法トハ固ヨリ目的ヲ同ウシ作用ヲモ同ウスルニツノモノ共ニ社會ノ秩序ヲ維持スル道具デアアル然レドモ何カ故ニ單純ナル道德ノ教ト國家ノ法則ト區別アルカ蓋一ハ權力ニ依ラス專ラ人ノ良心ニ懇ヘテ守ラシムルモノデアアル一ハ權力ニ依テ本人ノ意思ニ反シテモ強制シテ之ニ據ラシムルモノデアアル二ツノモノ共ニ共同生活ノ規則デアアルガ權力ヲ以テ後援トス

ルト權力ヲ後援トセザルトノ點ニ於テ其區別ガアルモノト思フ故ニ吾輩ハ法ト云フ觀念ニハ權力ノ觀念必ズ隨伴スルモノト言フノデアリマス諸君ガ多數ノ教科書ヲ見ラル、ナラバ法ノ定義トシテハ唯單純ニ人ノ共同生活ノ規則デアルト云ヒテ權力ノ觀念ヲ明示セザルモノガ多イ之ガ吾輩ノ説明ト通常ノ説明ト稍異ル點デアリマス又一方ニ於テハ極端ナル權力説ガアル之モ亦吾輩ノ同意セザル所デアリマス英國ニ近頃行ハレタルベシム、フースチン一派ノ法理論ニ於テハ法ハ主權者ノ命令デアルト單純ニ定義シテ居ル其意味ハ法ト法其レ自身ヲ維持スルノ權力其モノトヲ混同セルモノト云ハザルヲ得マセヌ法ハ權力デアルト云フ意味ト爲ル之ガ歴史派ノ反對ニテ他ノ一方ノ極端ニ走レルモノデアツテ單純ナル權力説デアアル之ハ亦吾輩ノ意ト大ニ異ツテ居リマス法ト云フハ人ノ行ヒノ規則デアアル其規則自身ハ必ズシモ君主政府ノ命令ニ依テ成ルモノデアリナイ其大部分ハ前ニ言フ通り社會ニ發達セルモノデアアル而シテ國ノ主權ガ之ヲ認メテ之ヲ保護スルニ依テ之ガ法則ト成ルンデアリマス單純ニ權力ガ法デアルト云フハ未ダ法

ノ眞價ヲ知ラザルノ僻論デアアルコトヲ免レヌ依テ吾輩ハ自然法ノ説モ採ラヌ極端ナル權力説モ採ラヌ法ニハ形式的要素ト實質的要素ノアルモノト信ズル其實質的要素トハ共同生活ノ規則デアアル其形式的要素トハ團體ノ主タル權力デアアル法ハ規則ヲ實質トシ權力ヲ形式トシ實質形式相俟テ社會ニ現ハレタルモノデアアル其一ヲ缺カバ茲ニ謂フ法ニハアラスシテ唯單純ナル道德宗教ノ教デアアル或ハ單純ナル權力者ノ命令デアアル權力ト法トヲ離ルベカラザル關係アリト云フハ吾輩ノ説デアアルガ之ヲ同一物ト看做スハ吾輩ノ意デナイ此事ヲ誤解ナキ様ニ致シタイ

第二章 國家

國家ハ一定ノ民族ガ一定ノ土地ニ據テ獨立ノ主權ヲ有ツテ之ヲ統治スルノ團體デアアル國家ト云フ觀念ハ之ヲ深奥ナル——深キ高尚ナル觀念トシテ説明スル種々學說モアルコトデアアルガ茲ニハ憲法ノ觀念上具體的ニ國家ト云フコトノ大體ノ意義ヲ説明スルニ止ムル之ヲ了解スルニハ第一ニハ國家ハ團體デアルト云フ事第二ニハ一定ノ民族ヲ以テ要素トスル事第三ニハ一定ノ區劃ニ據ル事第

四ニハ獨立ノ主權ヲ有スル事、此表目ヲ明ニスルニ依テ其性質ヲ示スコトガ出來ルデアラウト思フ

第一 團體ト云フ觀念ハ人ノ集合體ヲ意味スルノデアアルガ、併シ唯亂雜ニ多クノ人ガ群集シテ居ルト云フ事ノミノユテハ未ダ國家團體ヲ成サハルノデアアル團體ト云フトキハ個人ガ分子トナリ合同ノ目的ヲ有シ其合同ノ目的ノ下ニ統一セル組織ヲ有スルモノナルコトヲ意味スル、單純ナル群集ト團體トヲ分ケテ觀ネバナラヌ、群集ハ如何ニ大ナルトモ個々ノ人ノ箇々ノ目的ノ外ニ合同ノ目的ヲ有セル——箇々ノ目的ノ外ニ其上ニ存在スル合同ノ目的ナルモノ存在スルニ由テ群集ヨリ一變シテ之ヲ團體ト云フノデアアル、國家ハ此意味ニ於テ團體デアアル、又團體ト云フ觀念ニハ團體トシテノ自主ノ目的アリ自主ノ生命アツテ個人孤獨ノ生滅如何ニ拘ラズ團體トシテノ生命ガ永久ニ繼續シテ存在スルモノデアアルコトヲ意味スル、此觀念ナクシテハ之ヲ團體ト云フ能ハザルノデアアリマ、國家ハ人ノ社會的團結デアアル、其分子タル個々別々ノ人ノ各ノ目的ト生命トノ外ニ又國家トシテノ自主ノ目的ト自主ノ生命トヲ有スル、夫レ故ニ法律關係

上國家ハ國家トシテ存在スルモノト看做サル、國家ノ此性質ヲ指シテ法律關係上ノ學術觀念トシテ國家ハ人格ヲ有スト云フ、人格ト云フコトノ高尙深遠ナル解釋ハ暫ク別ノ法理論ニ讓ルトシテ我輩ノ論結タル所ニ依テ之ヲ簡短ニ示セバ人格トハ自主獨立ノ目的ノ主體タルコトデアアル、通常ノ法學通論ノ説明ニテハ人格ト云フ觀念ノ解釋ニ重ヲ措カズ唯單純ニ權利義務ノ主體デアアルト説明スル、實際上ノ法律解釋ニハ之ニテモ通用スル、去レド實ハ人格者デアアルカラ權利ヲ有シ義務ヲ負ヒ能フノデアアツテ權利能力ハ寧ロ人格ノ結果デアアル、人格ノ人格タル所以ハ社會的ニ自主ノ目的ヲ有シ自主ノ生存ヲ有スルコトニ存スル、吾々自然人ハ(肉體人)法律上人格者デアアル、是レ唯目、鼻、口ヲ有スルト云フ動物生物ナルガ故ニ法律上人格ヲ有スルト云フ意味デハナイ、自主ノ目的自主ノ生存ヲ有スルト云フコトガ其本領デアアル、自我ト云フ觀念ノ主體ガ即チ法律關係ノ上ニ表ハレテ人格トナツテ居ルノデアアル、自主ノ目的ト云フハ自己ノ爲メニ自己ガ存在スルノデアアツテ法律關係ニ於テ之ヲ認メテ保護シテ居ルコトヲ意味スル、國家ト云フ團體モ吾々肉體ヲ有スル自然人ト同様ニ社會上國家ト云フ

自己ノ自主ノ生存ヲ有シ獨立ノ目的ヲ有スル、此故ニ之ヲ法律關係ノ上ニ觀テ人格者デアルト云フノデアリマス。

第二 國家ト云フ社會的ノ團體ヲ客觀的ニ分析シテ見レバ三ツノ要素ヲ備ヘテ居ル、其一ハ民族ノ結合デアル、其二ハ領土デアル、其三ハ主權デアル、今此三要素ヲ簡略ニ述ベマセウ。

國家ハ民族ノ組織ニ其根據ヲ有シテ居ル、國家ハ人間ノ集合體デアルト云フコトハ言フヲ埃タザルノデアル、併シ唯人間ノ集合トノミ概念シテハ今日ノ歷史上ノ國家組織ノ精神ヲ發揮スルニ足ラヌ、今日ノ人類發達ノ程度ニ於テハ所謂國家組織ハ民族組織ヲ基礎トシテ成立シテ居ル、必ズシモ機械的ニ一民族ガ一國家ヲ成スト云フノデハナイ、民族ガ分レテ數箇ノ國ヲ成スコトモアリ、又許多ノ民族ガ同一國家ノ内ニ包括セラレテ居ル例モ甚ダ多イ、故ニ絶對的ニ機械的ニ民族ノ區劃ガ國家ノ區劃ト一致スルト云フノデハナイ、去レド今日マデノ人類發達ノ歴史ヲ觀レバ人ガ相寄ツテ團體ヲ成セル其根本的ノ繋キ合セハ民族的結合ヲ以テ普通ナルモノトシテ居ルノデアル、蓋人類ガ始テ團結ヲ成スノ所

以ハ血統ヲ同ウスル家族的組織デアラウ、其家族的組織ガ漸々ニ擴ゲラレテ年代ヲ歷テ民族組織ヲ成シタノデアラウ、民族トハ同ジ血統ノ同類デアルト云フコトノ意義デアル、血縁ノ最モ近キ者即チ人種ノ最モ近キ者ガ自然ニ一團ヲ成スト云フコトガ今日マデノ人類ノ發展ノ跡デアツテ國家ハ此形ニ於テ發達シ來ツタ、日本民族ノ如キ純粹ナル同民族ガ繁殖シテ大國組織ヲ成シタルハ歴史ニモ最モ顯著ナル其例デアル、歐羅巴、亞細亞等ノ大陸ノ諸國ニ於テハ我民族ノ如ク純白ナル組織ヲ維持シ得ザリシモノガ多クアレドモ而モ社會上政治上或特種民族結合ヲ以テ建國ノ基礎ヲ成シテ居ルコトハ疑フベカラザルノデアリマス、最モ極端ナル例ハ今ノ大英國即チグレートブリテン國ノ例デアル、其領土ハ世界ノ各部ニ亘リ許多ノ人種ヲ其權力ノ下ニ含ンデ居ルノデアアルガ、併シ歷史上又政治上其建國ノ基礎ハ所謂「アングロサクソン」民族ノ結合ニ存スル、斯ノ如ク今日ノ國家ト云フ思想ヲ歴史的ニ觀察シテ見レバ其組織ノ本質ハ民族的結合ニ在ルコトハ疑フベカラザルモノデアアル、通常ノ國法學ノ説明トシテハ國ハ人間ノ集合體デアルト言フ、是レ最モ文字上安全ナル定義デアラウガ、餘リニ

機械的ニシテ何故ニ世界ノ人類ガ許多ノ獨立國ニ分レテ居ルカノ原因ヲ指シ示スニ不足デアアル故ニ唯機械的ニ人ガ群集シタト云フニハアラズ、民族的結合ガ今日ノ國家組織ノ基礎ヲ成シテ居ルト云フコトヲ諸君ノ觀念ニ措カレムコトヲ望ムノデアアル

第三 國家ハ一定ノ土地ニ據リテ存立スルモノデアアル、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ國家ハ領土ヲ有スルコトヲ以テ其存立ノ要素トシテ居ル抑、國家ト云フ觀念ハ歷史的ノモノデアアル、故ニ或時代ニ於テハ國家ノ觀念ガ近世ノ觀念ト異ツテ居リシコトモアラウ、去レド吾々ハ最モ發達セル國家組織ニ付テ其要素ヲ掲グルノデアアル、近世ノ國家思想ニハ領土ト云フ觀念ガ必然ノ條件デアアル、上世蒙昧ノ時ノ事ヲ想像シテ見レバ民族ガ唯水草ヲ追フテ轉々シテ或場所ニ定住スルコトモナク、恰モ鳥獸ノ群ガ場所ヲ轉ズルガ如クニ動クコトノ時代モアツタデアラウ併シ之ハ極テ罕ナルコトデアアル、常ニ農業耕作ノ利益ヲ知ツテ居ル時代ニハ民族ハ必ズ一定ノ土地ヲ占領シテ之ニ據ツタモノデアラウ、去レド想像シテ見レバ古ハ土地廣ク人少ナキガ故ニ人ト土地ヲ争フコト少ナクシテ從テ土地所有

權ト云フ觀念モ起ラナカツタデアラウ夫レ故ニ之ヲ自己ノ領土トスル觀念モ起ラナカツタデアラウ、去レド許多ノ民族ガ各繁殖シテ生存競争ヲ爲ス時代ト爲ツテハ一定ノ土地ヲ自己ノ占領ノ下ニ置キ他ノ民族ガ之ヲ侵スコトヲ防クト云フ觀念カ生ズル、是ニ於テ民族ハ土著シテ一定ノ土地區劃ヲ自己ノ生活ノ本據ト爲ス、斯ノ如クシテ變遷シ來リ發達セル今日ニ於テハ寸尺ノ地ヲモ各領土トシテ之ヲ争フ状態ト爲ツタ、今ハ國ト云フ觀念ガ人ノミヲ指スニアラズ、又土地ノミヲ指スニアラズ、人ト土地トノ結合ヲ指スコト、爲ツタ我輩ハ此意味ニテ一定ノ土地區劃ヲ國家ノ存立要素デアルト云フノデアリマス、領土ノコトハ後ニ章ヲ設ケテ特ニ其法律上ノ性質ヲ説明スル考デアアルカラ此處ニハ其大體ノ緒言ヲ掲グルニ過ギナイノデアリマス、後ノ第二編ノ領土ト云フ章ヲ併セテ了解スルコトガ必要デアアル

第四 國家ハ獨立ノ主權ヲ有シ之ヲ以テ國ヲ統治スルモノデアアル、國家主權ノ存
在ハ國家ノ、國家タル所以デアツテ主權ナケレバ國家ナシ、主權ノ存否ガ國家ト
他ノ相似タル團體トノ區別ノ要點デアリマス、例バ家ト云フ團體モアル、又町村

ト云フ團體モアル、其他種々ナル形式ニ於テ種々ナル團體ガ社會ニ存在スル、去レド獨立ノ主權ヲ有スルモノニ於テ始テ之ヲ國家ナリト云フベキノデアリマ
 ス主權トハ團體ニ於ケル最高絶大ノ權力デアツテ團體ノ生存目的ノ爲メニ存
 在スルモノヲ謂フ、主權ノ何タルヲ知ル前ニ聊カ權力ト云フコトヲ正當ニ解セ
 ネバナラヌ、無論主權ハ權力デアアル、法律上ノ觀念ニテ權力ト云フハ何デア
 ルカ之ガ問題デアアル、此事ハ公法私法ノ別ヲ論ズル所ニテ尙ホ話シテ置クコトデア
 ラウト思フ、之ヲ約メテ言ヘバ權力ハ意思デアアル、弱キ意思ニ對スル強キ意思ヲ
 指シテ權力ト云フ、意思ノ強弱トハ一方ノ意思ヲ以テ對手方ノ意思ヲ束縛シ得
 ル關係ヲ謂フノデアアル、權力トハ對手方ノ意思ヲ束縛スルノ力デアアル、服従トハ
 對手方ノ意思ニ束縛セララル、ノ關係デアアル、權力服従ハ意思ノ意思ニ對スル關
 係デアアル、而モ不平等ナル意思ノ關係デアアル、強キ意思ガ弱キ意思ニ對スルノ關
 係デアアル、言フマデモナク權力トハ腕力ノ意味デハナイ、之ハ繰返ヘシテ説明セ
 ズトモ誤解ハナカラウト思フ、凡ソ人ノ社會的組織ニハ秩序アルコトヲ其平和
 ノ要件トスル、秩序トハ何デアアルカ、個々人ノ意思ヲ抑ヘ以テ團體合同ノ目的

ニ背カザラシムル状態ヲ謂フノデアアル、併シ箇々ノ意思ヲシテ合同ノ目的ニ背
 カザラシムルニハ之ヲ束縛スル力ナクシテハ其事ヲ爲シ能ハヌ、故ニ社會進化
 ノ自然ノ要求トシテ團體アラバ必ズ權力ガ發生シテ居ル、例バ一家族ガ家ト云
 フ小團體ヲ成セバ家族的秩序ヲ維持スル爲メニハ家長權ト云フモノガ自然ニ
 發生スル、若シ親モ子モ皆全然同權デアツタナラバ家族ヲ一團體トシテノ秩序
 ハ維持シ能ハヌ、之ト同シ道理ニ於テ較大ナル社會的組織ニ於テハ較大ニシテ
 且複雑ナル權力關係ノ發生ヲ必要トスル、國ニ國權アルハ此社會進化ノ自然ノ
 必要ニ促サレテ存立シ來ツタモノデアツテ何モ父タリ君タリ又ハ政府タルモ
 ノガ自己ノ便益都合ノ爲メニ突然權力ナルモノヲ有シ得タ譯デハナイ、社會其
 レ自身ニハ社會自衛ノ方法トシテ或形ニ於テ社會的權力ヲ生ミ出ダシタルモ
 ノデアリマス、是ガ國ニハ必ズ國權アル所以デアアル、又考ヘルニ一社會ニ許多ノ
 權力ガアツテ相對抗スルトキハ秩序ガ紊亂スル、秩序カ紊亂スレバ其社會ハ遂
 ニ滅亡スル、唯社會ニ唯一ノ權力アツテ社會ノ各人ガ之ヲ仰ヒテ侵サズト云フ
 コトアル有様ニ到著スルニ依テ其社會ノ秩序ガ最モ能ク維持セララル、秩序ノ

最モ良ク維持セラル、ノ社會ハ歴史ノ上ニ生存シテ繁昌スル、此故ニ唯一絶大ノ社會的中心力ヲ維持シ得タル民族組織ガ今ノ世界ニ生キ殘ツテ國家組織ヲ成シ居ルノデアリマス、茲ニ謂フ主權トハ斯ノ如クニ社會進化ノ理法ニ基テ生存競争ニ打勝ツテ生キ殘ツテ繁榮セル權力ヲ謂フノデアリマス、主權ハ最高ノ權力デアル、最高トハ他ノ權力ノ下ニ立タザルモノト云フ意味デアル、主權ハ唯一ノモノデアル、唯一トハ一國內ニ之ト同等ナル他ノ權力ナキコトヲ意味スル主權ハ圓滿ニシテ絶對ノ權力デアル、其意味ハ法律上ノ觀念トシテ國內ニ於テ能ハザル事ナク及バザル所ナキモノデアルト云フコトデアル、固ヨリ主權ハ法律上ノ關係ニ於テ主權デアルノデアルカラ絶對デアリ萬能デアルト云フトモ自然力ニ對抗シ得ベキモノデハナイ、又事實上百事自己ノ欲スル如クニ爲シ得ルモノデモナイ、去レド法律上ノ權能トシテハ如何ナル事ヲ爲スモ權限外ノモノデナイト云フ意味デアル、又如何ナル場所ニモ領土ノ上ニハ充滿シテ及ンデ居ルモノト看做スノデアアル、事實上ハ法律即チ主權ニ背テ惡事ヲ働ク盜賊モアル罪人モアル、或ハ兵力ヲ以テモ抑ヘ能ハザル謀叛ノ民ト云フ者モアリ得ル、併

シ之ハ事實ノ關係デアル、法理上國家主權ハ如何ナル法律ヲ作ルモ命令ヲ發スルモ自由ナル全權者デアルト云フコトガ其性質デアル、固ヨリ國家主權ハ國家團體ノ保全ノ爲メニ存スルノデアアル、故ニ國家ノ保全ノ目的ニ違フ事ニ活動スベキ筈ノモノデナイ、恰モ人間ハ意思ヲ有スルガ、其意思ハ自由デアル、何事ヲ欲スルモ自由デアル、去レド人ノ意思ハ人ノ目的ヲ達スル爲メニ存在スルノデアアルカラ人生ノ目的ノ爲メニ働クト云フコトハ本來言ハズシテ當然ニ具ハルノ性質デアアル、之ト同ジ様ニ國家主權ハ何事ヲ爲スモ法律上自由デアルト云フハ固ヨリ國家保全ノ爲メニ存在スルノデアアルカラ國家ノ目的ニ違フ事ニ働クト云フコトハ自家撞着ノコトデアツテ想像シ得ベカラザルノデアアル

以上説明スル所ニテ國家ノ存立ノ要素ハ略ボ明瞭デアラウト思フ、是等ノ要件ヲ備ヘタル團體ヲ指シテ國家ト云フ、唯序ニ誤解ヲ防グ必要ガアルモノハ國家ト云フ文字ガ通常嚴格ナル公法ノ法理論以外ニ政治的ニ種々ナル意味ニ用キラル、コトガアル言フマデモナク我輩ノ茲ニ説ク所ハ國トカ又ハ歐羅巴語デ「ステート」トカ云フ文字ノ字引的ノ註釋ヲ示ス意味デハナイ、通俗ニ又政治上ニ國ト云フ言

葉ハ公法ノ法理上茲ニ謂フ國家ニアラザル團體ニモ用キラレテ居ルコトガアル例バ歴史ノ通常ノ例トシテ許多ノ小國家ガ漸々ニ合同シテ一ノ大國組織ヲ成スモノデアアル此合同ヲ遂ゲタルトキハ公法ノ目ヲ以テ觀レバ合同シテ成レル所ノ新タナル大國組織ガ即チ國家デアツテ合同セラレタル舊小國家ハ純粹ナル國家デハナイ去レド歴史ハ自然ニ變遷スル漸々ニ轉化スル例バ一國內ノ法律ノ下ニ商法又ハ民法等ニ依テ會社ガ合併スルト云フ様ニ一刀兩斷ニ或時期ヲ限リトシテ其事ガ成立スルモノデアアリマセン所謂過渡時代變遷時代ノ間ガ頗ル長ク頗ル曖昧タルモノデアアル歴史ハ一足飛ビヲセズト云フ格言ガアル徐々ニ歩ム故ニ許多ノ小國家ガ合併シテ一大國組織ヲ成シツ、アル過渡時代ニ在ルモノガ頗ル多イ此故ニ法理上ハ國家ノ定義ニ當嵌マラズトモ歴史上尙ホ國家ト云フ名稱ヲ保存スルモノガ多イ例ハ獨逸諸國ハ今聯合シテ一ノ帝國ヲ成シテ居ルガ各國獨立ノ歴史ハ新帝國ノ存立ガ日尙ホ淺キコトデアアルカラシテ各國モ尙ホ體面上獨立ノ國家ノ如ク稱ヘラレ新帝國モ亦固ヨリ國家ト看做サル、歴史ノ眼ヲ以テ遠觀スレバ是等ハ今過渡時代ニ在ルノデアアルガ併シ獨逸ノ國法學者ハ自己ノ歴史

ニ固著シテ居ルカラ國家ト云フ意義ヲ曖昧ニシテ各小國家モ國家デアリ全體ヲ合併セル帝國其レ自身モ國家デアアル國家ニハ二様ノ種類ガアツテ主權ヲ有スル國家モアレバ主權ヲ有セザル國家モアルト云フ様ニ說テ居リマス其獨逸學者ノ自己ノ國情ニ顧ミテノ過渡時代ノ説明方法ハ我邦ニモ傳テ爲メニ我國法ヲ論ズル學者モ國家ト云フ觀念ニハ主權ト云フ觀念ハ必要デナイト論ズル人々モ多イ併シ之ハ兎ニ角我國法ノ議論トシテハ無用ノ論デアアル我邦ノ如ク純粹單一ニ發達セル國ガ國トシテノ標本デアアル故ニ國家ノ觀念ヲ其最モ進化セルモノニ就テ吟味シテ觀レバ茲ニ示ス如ク一定ノ民族一定ノ領域獨立ノ主權此三ツヲ兼ネ有スルモノガ其代表的ノモノデアアルト云フコトヲ斷言スルヲ憚ラナイ唯國家トカ一ステートトカ云フ文字ノ政治的ニ又通俗的ニ種々ナル團體ニ用キラル、コトニ依テ學理的ノ觀念ヲ誤解セザルコトヲ要スルノデアアル

第三章 國體及政體

國體ハ主權ノ所在ノ別デアアル政體ハ主權行動ノ形式ノ別デアアル國ニ主權アルコトハ皆一樣デアアルガ主權ハ何レノ所ニ在ルカト云フ問題ハ各國ノ歴史ニ依リテ

各異ルモノデアル、國家トシテ皆同一ナルモノデハナイ、近來國法學者ガ國家ハ法人デアルト謂ヒ、主權ハ國家ニ在リト謂ヒ、國體ノ區別ヲ否認シテ各國々體ハ皆一様ノモノデアアルカノ如クニ説ク、此説ハ唯言葉ノ上ニ於テノミ一様デアツテ事實ノ上ニ於テ各國ノ主權ノ所在ヲ一様ナラシムル結果アルモノデハナイ、國家ハ法人デアルト云フハ國家ハ法律關係上權利ノ主體デアルト云フコトニ止ツテ國權ナルモノハ何ニ由リテ存立スルカノ問題ヲ決シタルモノデハナイ、唯主權ハ國家ニ在リト云フタラバトテ國家ノ何レノ部分ニ之ガ存在スルカノ問題ハ決シ得タルモノデハナイ、君主々權トカ民主々權トカ云フ觀念ヲ打消ス爲メニ唯主權ハ國家ニ在リト云フタラバトテ何ノ意味ヲモ成ササルノデアアル、故ニ我輩ハ憲法ノ説明トシテ國體論ノ必要ナル所以ヲ否認スルコトガ出來ヌ

權カトハ意思ノ力デアルト云フコトハ前ニ述べタ、法律上權カト云フハ腕力ノ意味デハナイ、意思ノ力デアアル國家ハ其レ自身ニ天賦自然ニ意思ヲ有ツテ生マレテ居ルモノデハナイ、國家組織ハ法ノ作成物デアアル、國家ガ法律ニ依テ作ラレタト云フ意味デハナイガ、法律上國家ト云フ觀念ハ之ヲ無形ニ想像シタルモノデアツテ

具體ニ存在スル自然人ノ如キモノデハナイ、自然人ニ付テハ意思ノ存在ヲ法律問題トスル必要ガナイ、國家ト云フ無形ノ觀念ニ付テハ國家ノ權カナルモノハ如何ニシテ成立チ如何ナル所ニ存在スルカヲ研究スル必要ガアル

凡ソ意思ハ自然人ノ自然意思ヨリ成立ツモノデアアル、國家ノ權カトカ國家ノ意思トカ云フモ實ハ或自然人ノ自然意思ガ其發動機トナツテ之ニ依リテ存立スルモノデアアル、全ク自然意思ヨリ絶縁シタル法律意思又ハ權カト云フモノハナイ、自然人ハ自然意思ヲ有スル、法人ハ唯能ク法律意思ノミヲ有シ能フ、茲ニ法律意思ト云フハ自然意思ヨリ組立テラレテ法律上獨立ノ意思ト看做サル、組織ヲ指シテ云フノデアアル、國家ノ意思又ハ權カト云フハ茲ニ謂フ法律意思ノ一ツノ場合デアリマス

國體ノ區別ト云フハ如何ナル人ノ自然意思ヲ以テ國家ノ意思即チ國權ト看做スカノ問題デアアル、特定ノ自然人ノ自然意思ヲ以テ國ノ主權ト仰グモノハ即チ君主國體デアアル、人民ノ自然意思ノ綜合ヲ以テ其國ノ主權ト仰グモノハ民主國體デアアル、國體ノ別ハ斯ノ如クニ法理上必然ニ存スルモノデアツテ唯單純ニ主權ハ國家

ニ在リトノミ云ヒテハ其國ノ主權ノ本體ヲ指示スコトガ出來ヌ、何故ニ或國ニ於テハ特定ノ一人ノ意思ヲ國家ノ權力ト看做スカ、又或國ニ於テハ人民ノ意思ノ綜合ヲ以テ國ノ主權ト看做スカノ區別ノ生ズル所以ハ歴史ノ問題デアツテ法理解釋ノ問題デハナイ、政略ノ問題デアル、是非善惡ノ問題デアルガ法理上ノ解釋問題デハナイ、國ト云フ政治團體ハ民族ノ社會的變遷ノ歴史ノ產物デアル、或國或時代ニ於テハ人民一般ガ君主ヲ仰ゲ主權者トシ、或ハ國民一般ノ意思ノ綜合ヲ以テ國ノ主權トスルト云フコトヲ確信シテ疑ハザルノデアアル、何ガ故ニ日本ハ日本、支那ハ支那トシテ別ノ國家ヲ成セルカト云フ問題ガ憲法ノ法理論ニアラザルト同様ニ、何故ニ我邦ニテハ萬世一系ノ皇位ヲ以テ主權者ト仰グカハ法理ノ問題ニハアラズシテ民族變遷ノ結果タル事實デアアル、憲法ハ斯ク成立ツタル其國ノ主權ガ其國ノ政體ヲ定ムルモノタルニ過ギザルノデアアル

政體ノ別ハ國權行動ノ形式ノ別デアアル、主權ノ所在ノ問題トハ全ク別事デアアル、主權者ガ國ヲ統治スルノ形式デアアル、此故ニ國體同シクシテ政體ノ異ルコトモアリ、政體同シクシテ國體ノ異ルコトモアル、從來ノ學說モ政治論モ國體ト政體トノ區

別ヲ辨ゼズシテ政體ノ改正ヲ以テ國體ノ變更ト看做シ、或ハ政體ヲ變更スルニハ國體ヲモ亦改メネバナラヌ様ニ考ヘ來ツタルハ全ク誤解デアツタ、例バ今我國ハ固ヨリ立憲政體ニ則ルガ、國體ハ國ヲ建テシ以來會テ變更シタルコトハナイノデアアル、所謂立憲政體ハ君主國體ノ下ニモ民主國體ノ下ニモ存在シ得ルモノデアリマス、政體ノ區別ハ固ヨリ數ヘ掲グルコトノ出來ルモノデナイ、國ヲ統治スルノ方法形式ハ歷史上千差萬様デアリ得ベク、全ク同一ノ形式ガ繰返ヘサル、ト云フコトハ殆ドナキコトデアアル、唯其大原則ニ付テ稍相似タルモノト大ニ異ルモノトヲ便宜上分ケテ政體ノ種類ヲ論ズルニ過ギザルノデアアル、今茲ニハ現今ノ文明國ニ於テ現ハル、最モ顯著ナル政體ノ區別ヲノミ一言述ブルニ過ギザルノデアアル

近來ノ發達セル政體ニ就テ觀レバ專制政體ト立憲政體トノ區別ガ政治上最モ顯著ナルモノデアアル、專制政體トハ立法、行政、司法ノ權力ヲ分タズ總テ之ヲ混ジテ一人若ハ一機關ノ專ラ行フ所トスル政體デアアル、專制スル者ハ君主デアアルコトモアリ國會デアアルコトモアル、必ズシモ專制者タルモノガ定ツテ居ル意味デハナイ、例ハ君主專制ノ政體ニ在ツテハ百官有司ヲ備ヘテ儼然大ナル政府ノ組織ハアル、事

實上君主一人ガ政務ヲ決裁スルモノデハナイ、實權ハ多ク下ニ存スル、去レド立法
 シ、行政シ、司法スルノ機關ヲ分チ權力ヲ分ツト云フコトハ同一ノ官府ガ法律ヲモ
 作り裁判モ爲シ行政モ行フト云フ體裁デアアル、例ヲ想像シテ言ヘバ多數地方ニ知
 事ヲ置クナラバ其知事トカ總督トカ云フ官府ガ其管轄内ニ於テハ法律モ作り裁
 判モ爲シ總テノ行政ヲ行フト云フ様ナ組織ヲ指シテ專制的ノ政體ト云フノデア
 ル、專制ト云フコト、中央集權ト云フコト、ハ必ズシモ一致シタル觀念デハナイ、
 萬機悉ク中央ノ君主ガ親ヲ決裁スルト云フモ固ヨリ專制政體ノ一ツデアアルガ、
 極端ナル地方分權トシテ國內ノ各部ニ全權ヲ委任シタル總督ヲ置クト云フ制度
 モ尙ホ專制ノ政體ノ一例デアアル

立憲政體ト云フハ權力分立ノ原則ニ則ツタル政體デアアル、モンテスキューノ所謂三
 權分立ノ主義ヲ採用セル政體デアアル、立法權、司法權、行政權ノ三ツノモノヲ分チ之
 ヲ各獨立シテ行ハシムルト云フ政體ガ近來ノ政治上ノ用語トシテ立憲政體ト稱
 ヘラル、文字上立憲ト云ヘバ憲法ヲ有スルト云フコトニ外ナラヌノデアアルガ、佛
 蘭西ノ革命以來立憲ト云フ言葉ニ特殊ノ意味ヲ含マシ來ツタモノデアアツテ三權

分立ノ主義ヲ採用セル憲法ヲ特ニ憲法ト稱フル習慣ト爲ツタ、三權分立ノ主義ト
 云フコトハ政治上ノ言葉デアアツテ法理上語弊ガアル、故ニ文字ニ拘ラズ其精神ヲ
 了得スルコトガ必要デアアル、國權ヲ三ツニ分ツト云フ様ニ聞ユルガ、法理上國權其
 モノヲ分ツ意味デハアリマセン、統治機關ヲ分ツノデアアル、而シテ尙ホ深ク其意味
 ヲ索テ見レバ唯機械的ニ統治ノ機關ヲノミ分ツト云フニハアラズシテ機關ヲ
 組織セルノ自然人ノ自然意思ヲ分立セシムルト云フ意味デアアル、若シモ同一ノ人
 ガ三ツノ事務所ヲ開キ立法、司法、行政ノ事ヲ各別々ノ事務所ニテ取扱フタラバト
 テ之ガ所謂三權分立トハナラヌ、憲法上機關ヲ分ツト云フハ事務所ヲ分ツト云フ
 意味ノミデハナイ、機關ヲ組織スル人ヲ分ツノ意味デアアル、立法スルニハ國會ト云
 フ機關ヲ設ケ國會ヲ成ス自然人ノ自然意思ノ參與ニ依テ之ヲ決スルノデアアル、司
 法權ヲ行フニハ又之ヨリ獨立セル裁判所ト云フノ機關ヲ組織スル自然人ノ自然
 意思ノ參與ニ依テ之ヲ行フノデアアル、而シテ行政權ヲ行フニハ國務大臣ト云フ機
 關ノ輔弼ニ依テ之ヲ行フノデアアル、皆等シク唯一不分割ノ國家ノ權力ノ行動デハ
 アルガ、立法スルニハ或種類ノ自然意思ガ之ニ加ハリ、司法スルニハ又之ト異ルノ

自然意思ノ作用ニ依リ、行政スルニハ又其レ等ト異ツタル自然意思ノ補助ニ待ツ
 斯ノ如ク三權ヲ行フニ付テ各之ニ參與スルノ機關ヲ分ツト云フコトガ三權分立
 ノ精神デアアル、此精神ニテ憲法ヲ定メタルモノガ所謂立憲政體デアアル、我輩ハ立憲
 政體ノ本質ヲ解シテ斯ノ如ク論スル、從來ノ説明ハ甚ダ曖昧トシテ居ル、立憲政體
 ト云ヘバ民主主義ノ原則ニ依ルモノ、如クニ想像スル、去レド民主共和ノ制度ハ
 歐羅巴ニハ昔ヨリ盛ニ行ハレテ居リマス、昔ノ民主共和ノ國ヲ指シテ何人モ立憲
 國トハ言ハヌ、又通常ノ説明ハ立憲政體ト云ヘバ國會ヲ開設スル政體ノ如クニ想
 像スル、之モ固ヨリ誤デアアル、歐羅巴ノ歴史ニ於テハ國會制度ハ君主制度ヨリモ古
 クヨリアル、歐羅巴ノ中世ニ於テハ君主ハ無權力デアツテ國會が大ナル權力ヲ有
 シテ居ツタ、去レド中世ノ獨逸諸國等ヲ指シテ今何人モ之ヲ立憲國デアツタトハ
 言ハヌ、是ニ由テ觀レハ立憲政體ノ本旨ハ唯民主主義ト云フコトニモアラス、國會
 政治ト云フコトニモアラス、其真相ハモンテスキトノ唱ヘタル三權分立ニ則ルコ
 トニ在リト云フコトハ自ラ證明セラル、例バ中世ノ歐羅巴ニ君主アリ國會モア
 リ、君主ノ權力ハ大ニ國會ノ爲ニ制限セラレテアツタガ、併シ立法モ行政モ司法モ

區別ナク之ヲ混合シ三權ヲ分ツト云フコトガナカツタ、故ニ立憲政體ト見ルベカ
 ラザルノデアアル、此例ニテ推シテ其趣意ヲ了解セラレムコトヲ請フ我國ハ固ヨリ
 純粹ナル君主國體ヲ有シ、而シテ又近世ノ所謂立憲政體ニ則ルモノデアリマス、之
 ヲ明言シタルハ現行ノ帝國憲法デアアル、故ニ之ヨリ憲法ト云フ觀念ヲ進ンデ述ベ
 様ト思フ

第四章 憲法

憲法ハ國家統治ノ根本法則デアリマス、根本法則ト云フハ統治ノ大原則ヲ意味ス
 ルノデアツテ國體ヲ宣言シ政體ヲ定ムルモノデアアル、憲法ハ固ヨリ法則デアアル、法
 則トハ國家ガ之ヲ設ケ人ヲシテ之ニ據ラシムルノ準則ト云フ意味デアアル、憲法ハ
 國家ノ作ルモノデアツテ憲法ガ國家ヲ作ルモノニアラザルハ言フマデモナイ、國
 家主權ハ憲法ニ因リテ存在スルニハアラズシテ歴史的事實的ニ獨立存在スル、此
 獨立存在スル主權ガ國家統治ノ大原則ヲ定ムルノデアアル、本末ヲ違ヘテハナリマ
 セヌ

憲法ト云フ觀念ニハ實質的ノ意義ト形式的ノ意義トガアル、同シ憲法ト云フ語ニ

テ相通ジテ言ヒ表ハスガ故ニ屢混雜ヲ招ク虞ガアル、今前ニ言ヘル所ハ其實質的ノ意義デアアル、之ヲ形式的ノ意義ニテ憲法ト云フトキハ國家最高ノ法則ト云フ意味デアアル、最高ノ法則トハ法律、命令等ノ他ノ法則ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得ズ且法律、命令等ハ之ヲ以テ變更シ能フノ效力ノ最高ナルコトヲ謂フノデアアル、此意味ニテ國家最高ノ法則ト云フノデアリマス、通常ノ法令ノ上ニ在ル法則ノ意義デアアル、憲法ト云フ語ガ主トシテ此形式上ノ點ヨリ見テ之ヲ用キラル、コトガ多イカラニツニ觀念ヲ分テ考ヘネバナリマセヌ、事實上ハ國家統治ノ根本規則ハ容易ニ變更スルコトヲ欲セザルモノデアアルカラ之ニ最高ノ效力ヲ與フルノデアツテ、憲法ト云ヘバ其内容ハ統治ノ大原則デアリ其形式ハ最高ノ法則デアルト云フコトガ自然ノ結果デアアル、我憲法ノ如キハ實質及形式ニ付テ此二ツノ特色ヲ備フ然レドモ例バ英國ノ如キハ實質的ニ憲法アレドモ形式的ニハ憲法ガナイ、又憲法ヲ法典トシテ最高ノ效力ヲ有スル法文ノ規定ガ必ズシモ皆實質上統治ノ大原則タルモノ、ミデハナイ、此前置ヲ以テ我憲法ノ性質ヲ説明シマス、我憲法ハ統治ノ原則ヲ定メタルモノデアツテ其效力ハ法律、命令ノ上ニ在リト云フ點ニ存スル、我

憲法ハ主權者タル君主ガ之ヲ定メタルモノデアツテ國會ガ定メタルモノデハナイ、國會ト云フ制度ハ憲法ノ紙ノ上ニ始テ作ラレタル制度デアアル、歐羅巴ノ立憲ノ歴史トハ大ニ異ツテ居ル所ガアル、先刻モ言フ通り、歐羅巴ノ國會制度ハ立憲政體ヨリモ古イ、故ニ憲法ノ制度ハ君主ト國會トガ共同シテ之ヲ定メタルノ外觀ガアル、憲法ガ國會ヲ作ツタノデハナクシテ寧ロ國會ガ憲法ヲ制定シタルモノデアアル、此關係ハ全ク我國ト相反シテ居ル、從テ國會ノ憲法上ノ地位ヲ觀察スルニ付テ大ニ異ラザルヲ得ヌノデアリマス

憲法ノ改正ハ君主ガ大權トシテ獨リ專ラ發議ノ權ヲ執ル、議會ガ改正ノ發議ヲ爲スコトヲ許サヌ、此事ハ憲法發布ノ勅語ニモアリ又憲法ノ條文ニモ明言シテアル、憲法ヲ改正スルトキニハ勅命ヲ以テ議案ヲ議會ニ付スル、議會ハ兩院各三分ノ二以上ノ出席アリ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニアラザレバ之ヲ議決スルコトヲ得ヌ、而シテ議會ハ勅命ヲ以テ下付セラレタル案ヲ可否スルノ外憲法ノ他ノ關係ニ涉ツテ其機會ヲ濫用シテ修正ノ議決ヲ爲スコトヲ許サヌモノデアアル、此事ハ憲法改正ノ發案權ヲ大權ニ專ラ留保セリト云フコトニテ明デアアル

憲法ニ關スル大體ノコトハ是デ了ツテ置ク、次ノ回カラ憲法ノ内容ノ説明ニ移ルヤウニシマセウ

第二編 統治ノ主體

第一章 總論

憲法ハ統治權ノ主體、客體機關及作用ヲ定ムルノ法則デアアル、故ニ現行憲法ノ説明ハ此四ツノ編ニ分ル、茲ニ謂フ統治ノ主體ノ問題ハ統治權ノ本體ハ何レノ所デアルカラ意味スルノデアツテ即チ我國體ノ説明デアアル、此事ヲ説明スル前ニ茲ニ總論トシテ統治權ノ意義ヲ述ベテ置キマス

統治ト云フハ權力ヲ以テ國土臣民ヲ治ムルノ意味デアアル、前ニ説キタル通り、民族ガ社會ヲ成シ社會的生存ヲ永遠ニ完ウセンニハ其社會ニ絶大ナル權力アツテ之ヲ統一シ之ヲ保護スルコトヲ要スル是レ社會變遷ノ自然ノ必要ニ出デタルモノデアツテ、之ナクンバ其社會ハ滅亡スルノデアリマス、歴史上此要件ヲ具備シテ生存シ來リシモノガ即チ國家組織デアアル、故ニ國家ハ統治權ニ依テ保全セラル、ノ民族團體デアアルト定義シテ誤ナイ

借其統治主權ト云フモノハ唯絶對ニ空中ニ存在スルモノニハアラズシテ歸スル所一人若ハ數多ノ人ノ力デアアル、自然人ノ自然意思ニ根據アツテ此權力ガ具體的ニ活動スル、如何ナル種類ノ人ノ權力ヲ以テ其國ノ統治權トスルカハ各國ノ歴史ノ問題デアアル、國ニ於ケル統治ノ主體トハ其國ノ變遷ニ依テ事實トシテ定マレルノ權力ノ所在ヲ意味スル、故ニ君主國ニ在ツテハ君主ノ權力ガ統治主權タリ、民主國ニ在ツテハ國民全體ノ意思ノ綜合ニ依リテ其國ノ統治主權ヲ成立セシムル、之カ茲ニ謂フ統治主體ノ意味デアリマス

統治ト云フハ又社會全般ノ事ニ涉リ絶對ニ無限ニ之ヲ支配シ能フノ權力行動ヲ意味スル、或特殊ノ事ニ就テ特殊ノ權力アルコトハ統治權ノ本質トハ異ツテ居ル例ハ宗教ニ付テ宗教ノ主權ト云フ觀念モ歴史上アルガ、之ハ宗教ヲ信仰スル上ニ付テノ權力關係デアアル、或ハ種々ナル事ニ付テ特別ノ權力ノ關係ハ許多生ズルデアラウ、去レド統治權ト其他ノ權力トノ内容ニ付テノ區別ハ一ハ社會全般ノ總テノ關係ヲ支配シ能フ權能タルコトニ在リ、一ハ或特殊ノ社會的關係ニ付テノ支配シ能フ權能タルコトニ在リ、統治關係ノ唯單純ニ謂フ權力關係トノ區別ハ絶對

的デアリ總括的デアルコトニ存スル
 尙ホ注意ヲ要スル事ハ我憲法ノ解釋トシテ統治權ト云フモ主權ト云フモ或ハ國
 權ト云フモ皆同一物デアルコトニ誤解ガアツテハナラヌ、歐羅巴ノ歴史的ノ國家
 關係ニ付テ論ヲ爲ス者ハ主權ト國權トハ別物デアルトカ統治權ト國權トハ別物
 デアルトカ云フ様ナ觀念ヲ懷ク、去レド其レハ唯歐羅巴ノ特殊ノ歴史上ノ觀念デ
 アツテ我國ニハ通用セヌ、例バ封建政治ノ歐羅巴ニ於テハ各國ハ國トシテ國權ヲ
 有スル、其上ニ皇帝ノ主權ガ在ツテ各國ノ國權ノ上ニ更ニ又最高ノ權力ガアル、今
 ハ名義上彼レノ封建制度ハ破レテ居ルガ形ヲ變ヘテ聯邦制度ナルモノガ存スル、
 獨逸帝國ノ組織ノ如キデアアル、此組織ニ於テハ聯邦各國ハ國權ヲ各獨立シテ有ス
 ルモノト見テ其上ニ帝國ノ主權ガアルト觀テ居ル、此意味ニテ謂フ主權ハ最高權
 デアル、國權ハ主權ノ下ニ在ル權力デアアル、斯ノ如キ組織ハ唯封建制度ノ遺物トシ
 テ尙ホ存在スルモノデアツテ完全ナル國家組織トシテノ觀念デハナイ、我國ニ於
 テ國權ハ即チ主權デアアル、主權ハ即チ國權デアアル、憲法ニハ主權トカ國權トカ言ハ
 ズシテ唯天皇ノ統治權ト言フ、之ニテ國家ノ權力ノコトハ明白ニシテ疑ナン、一ツ

ニシテニツ以上ナキモノデアアルコト明白デアアル、又佛蘭西ノ革命以後一時行ハレ
 タル立憲君主政體ノ觀念トシテハ君主ノ統治權ト國權トハ別物デアルト見テ君
 主ハ憲法ニ依リ統治權ヲ有スル、尙ホ裁判所ガ憲法ニ依リ司法權ヲ有スルト同ジ
 様ナ關係デアルト見ルコトガ一時歐羅巴ノ觀念デアツテ、今尙ホ佛蘭西系統ノ憲
 法ノ國ニハ此主義ヲ採ツテ居ル、之ハ民主國體ノ基礎ノ上ニ君主ヲ戴ケル政體ト
 シテ此觀念アルノデアツテ我國體上容スベカラザル所デアアル、我君主ノ統治權ハ
 主權者トシテノ權力ヲ意味スル、憲法ヲ定メタル者ハ即チ君主ノ統治權デアアル、憲
 法ニ依リテ其紙ノ上ニ始テ統治權ナルモノガ生レタル譯デハナイ、此事ハ國體ノ
 觀念ニ關係シテ頗ル重大ノ事デアアルカラ誤解ガアツテハナラヌ、彼ノ佛蘭西風ノ
 憲法ニ謂フ君主ノ統治權ハ我憲法ノ上ニテハ君主ノ憲法上ノ大權ト云フモノデ
 アル、廣キ意味ニテ謂フ行政權ノコトデアアル、我憲法ニテ謂フ統治權ハ帝國ヲ統治
 スル國家ノ權力ノ意味デアアル、之ヲ混同シテハナリマセヌ

第二章 皇位

皇位ハ天皇ノ位デアアル、憲法第一條ニ「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」ト

アリマス、又皇室典範ノ第一條ニ「大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス」トアリマス、是レ我統治權ノ主體ノ何レノ所ニ在ルカヲ定メタルモノデアツテ皇位ハ統治權ノ存スル所デアルコトヲ宣言セルモノデアアル、此國體ハ我建國以來數千年ヲ經テ益堅ク萬世ニ亘ツテ變ラザル所デアアル、憲法ハ之ヲ文章ニ表ハシテ明言シタルニ過ギナイ、萬世一系ノ皇位トハ我皇室ノ御祖先ノ血統ノ連綿トシテ絶エズ其血統ノ人祖宗ノ位ニ居ツテ祖宗ノ權力ヲ行フト云フ精神デアアル、此國體ハ國民ノ久シキニ亘ルノ一致ノ確信デアツテ民族一致ノ信シテ疑ハザル所ガ即チ其權力ノ由テ基キ存立スル所以デアアル、何ガ故ニ我國ニテハ萬世一系ノ皇位ヲ以テ主權ト仰グカハ道理ノ問題デモナイ、政略ノ問題デモナイ、又法理上ノ問題デモナイ、之ハ單純ニ我民族ガ國ヲ成セルノ事實デアアル、是非善惡ノ問題ハ別ノ事デアアル、我國家ハ歷史上ノ事實トシテ此基礎ニ存立シテ居ル、數千年ノ歴史ヲ經テ國民一般ガ之ヲ確信シテ疑ハズ、如何ニ政體ノ變遷アリトモ主權ノ所在ニ付テハ確信アツテ一致ノ見解ニ出デタルコトガ之ヲ證明シテ餘リアルコトデアアル、之ニ就テ批評ヲ試ミ其意義ヲ曖昧ニスルハ數千年ノ歴史ヲ無視スルノ誤デアアル

故ニ主權ハ皇位ニ在リト云フコトハ今更煩ハシク理論ヲ以テ辯明スル限デナイ、何ガ故ニ我民族ガ之ヲ神聖ナル權力トシテ仰グコト、ナツタカハ歷史上我民族固有ノ特殊ノ觀念ニ基ケルモノデアアル、我固有ノ制度ハ祖先ヲ崇拜スルノ精神ヨリ出デ、居ル、家ノ制度ト云ヒ、祭祀ヲ重ンズルト云ヒ、忠孝ヲ倫理ノ大本トスルト云ヒ、總テ日常ノ民族習慣ノ細目ニ至ルマデ祖先ヲ崇拜スル觀念ヨリ割出サレタルモノデアアル、而シテ祖先ヲ崇拜スルハ子孫ガ父母ヲ敬愛シテ其慈愛ノ權力ニ服從シ其保護ノ下ニ一家族ヲ成スト云フ社會上ノ必要ヨリ出デ、之ヲ推及ボシテ民族全體ノ結合ノ連鎖ト爲ツタルモノデアアル、血統ニ依ルノ結合ガ最モ自然的デアアル、最モ深厚ナルモノデアアル、民族ハ同ジ祖先ヨリ出デタル子孫デアアル、民族ガ民族トシテ結合スルハ同ジ血統ノモノデアアルト云フコトニ外ナラヌ、故ニ若モ民族共同ノ始祖ガ若シ今生キ永ヘテ居ツタナラハ子孫タル民族ヲ支配スル權力ハ此人ニ存スベキガ自然ノ狀態デアツタデアラウ、此觀念ヲ推シテ以テ我國體ノ基礎トシテ居ル、古來ヨリノ我民族ノ觀念トシテハ皇室ノ御祖先ハ即チ我民族ノ祖先デアアル、皇室ハ民族ノ祖先ノ直系ノ血統デアアル、故ニ天祖ノ子孫ガ天祖ニ代ツテ天祖

ノ位ニ居リ以テ天祖ノ慈愛シ給ヒシ其子孫ヲ保護スル皇位ハ即チ天祖ノ位デア
 ル、現在ノ天皇ハ天祖ノ身ノ延長デア、故ニ我々之ヲ仰グコト今尙ホ天祖ノ在マ
 スガ如クニシ、其權力ニ服従スルハ即チ天祖ノ威力ニ服従スルモノデア、皇位ハ
 神聖ニシテ侵スベラズト云フハ此意味ニ於テ之ヲ解スベキモノデア、此觀念ガ
 我國體ヲシテ彌、鞏固ナラシメ、此觀念ニ依テ民族ガ皇位ヲ神聖ナリトシテ之ヲ仰
 デ國ノ主權トシ來ツタ、是ガ我歷史上ノ觀念デア、唯聖人ヲ仰ゲ其德ニ服スルト
 カ、或ハ腕力強キ豪傑ノ爲ニ征服セラレテ其下ニ立ツトカ、或ハ國民ノ代理人トシ
 テ一人ヲ置テ便宜其言フ所ニ從フトカ云フ様ナ觀念ニテ君主ヲ仰ゲルモノデハ
 ナイ歷史上此國體ノ觀念アルニ依テ總テノ事ガ説明シ得ラル、ノデア、若シ之
 ヲ否認スレバ國體ノ本領ハ知ルコトヲ得ザルノミナラズ歷史上ノ總テノ制度ガ
 解釋スベカラザルコト、爲ルデアラウ

皇位繼承

第二章 皇位繼承

皇位繼承トハ天皇ノ位ノ繼承ノ意味デアリマス、即チ國ノ主權者タル地位ノ繼承
 デアリマス、憲法ノ第一條ニ「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」ト云フテア

ル、而シテ皇位ノ繼承ノコトハ皇室典範ノ第一條ニ「大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニ
 シテ男系ノ男子之ヲ繼承ス」ト掲ゲテアル、此憲法及典範ノ規定ニテ皇位ノ繼承ノ
 原則ハ明白ニ定ツテ居ル、故ニ憲法及典範ノ規定ニ依ツテ茲ニ皇位繼承ノ法理上
 ノ性質ト皇位繼承ノ範圍ト、皇位繼承ノ順位トヲ精シク説明シマス

皇位繼承ハ國ノ主權者タル地位ノ繼承ノコトデア、前ニ國家及國體ノ事ヲ述ベ
 タルトキニ詳シク説明セル通り國ノ主權ハ永遠ナルモノデア、而シテ國ノ主權
 ト云フモ實ハ或自然人ノ自然意思ヲ基礎トシテ之ニ依ツテ現實具體的ニ存立ス
 ルモノデア、君主國體ノ性質ハ特定ノ一人ヲ以テ國ノ主權者トスルコトニ在ル
 併シナガラ自然人ノ生命ハ限ラレタルモノデア、國ノ生命ハ永遠ノモノデア、
 カラ特定一人ノ自然人ノ生命ニテハ之ヲ永遠ニ代表スルコトガ出來ヌ、其故ニ自
 然人ニ次グニ又特定ノ自然人ヲ以テシテ國家永遠ノ生存ヲ無窮ニ代表スルコト
 ガ必要デア、皇位ノ繼承トハ法理上此意味ニテ此制度ガ存在スルモノデア、リマ
 ス、皇位繼承ハ權利ノ相續ト云フコト、ハ法理上ノ意味ヲ異ニシテ居ル、從來歐羅
 巴ニ於テモ王位ノ繼承ノコトヲ普通民法等ノ觀念ニテ權利ノ相續ノ法理ヲ適用

シテ解釋スル例デアツタガ、今ハ此說ヲ採ラヌコト、ナツタ、普通法ニ云フ相續ハ權利ノ相續デアル、例ハ財産權ヲ相續スルトカ或ハ人ニ對シテ行フ所ノ支配ノ權利ヲ相續スルトカ云フ意味デアル、前ニ皇位ノ性質ヲ述ベタルトキニ精シク辯シタル通り我國體トシテ君主ガ國ヲ統治スルハ法律ニ依ツテ得タル權利デハナイ自己ノ財産ヲ子孫ニ傳フルト云フ如キ意味ニテ皇位繼承ノ制度ガ存シテ居ル譯デハナイ、君主タル其人ヲ以テ國ノ主權ノ本體トスルノデアル、故ニ先帝ガ其權利ヲ其子ニ讓ルト云フ意味ニハアラスシテ、法理上ハ人格其モノ、繼續延長ノ意味デアル、皇位ヲ授クルトカ讓ルトカ受クルトカ云フハ形容ノ言葉デアツテ法理上ノ性質ハ人格其モノ、繼續延長デアル、事實上ハ前天皇ト現天皇トハ異ツタル人デハアルケレドモ、法理上ハ同ジ人ガ千萬年ノ生命ヲ保ツテ尙ホ引續キ國ノ統治者タリト云フ觀念デアル、皇位ハ我天祖ノ御位デアツテ、天祖直系ノ御子孫ガ相續デ此位ニ居ラル、國體上法理上天祖御自身ガ今尙ホ此世ニ永ヘテ此民族ヲ支配シツ、アルガ如クニ見做サレテ居ル、今ノ天皇ハ我祖宗ノ身ノ延長デアルト見テアル、此故ニ民族ガ皇位ヲ神聖ナリトシテ仰グノデアル、皇位ヲ崇敬スルハ即チ天

祖ヲ崇敬スル意ヲ以テスルノデアル、管ニ權利ヲ人ニ讓渡ストカ讓受ケルトカ云フ觀念トハ異ツテ居ツテ人格其モノ、繼續延長ト見ルノデアル、此故ニ皇位繼承ノ法理ハ相續ノ觀念ヲ以テ論ズベカラザルノデアル、此意味ニテ皇位繼承ノコトガ憲法及典範ニ定メラレテアリマス、法律ノ格言ニ君主ハ死セズト云フ其言葉ハ矛盾セルコトノ様デアアルガ、即チ此法理上ノ性質ヲ言現ハシタルモノデアル、事實上君主ハ崩御スレドモ國法上君主ノ位ハ間斷ナク引續イテ同ジ人ガ之ニ居ルモノト見做サル、ト云フ意味デアル、故ニ君主ガ崩御スルト同時ニ皇嗣ガ即チ通常ノ場合ニ於テハ皇太子ガ其瞬間ニ天皇タルノデアル、何等其間ニ儀式モ手續モ必要デナイ、天皇崩御スレバ即チ天皇立ツト云フコト、ナツテ居ル、踐祚ノ式トカ即位ノ禮トカ云フモノハ天皇ノ位ニ即キタル後ニ之ヲ公ニ示スノ儀式デアツテ法理上人ヲ任命シテ天皇トスルト云フ意味デハナイ、故ニ即位ノ禮ハ位ニ即キテヨリ一年モ後ニ行フ習慣ガアル、即位ノ禮ト皇位繼承其モノトハ別事デアルコトヲ知ラネバナリマセヌ

皇位繼承ノ範圍ハ典範ノ第一條ニモ明言セラレテアル通り祖宗ノ皇統ニシテ男

系ノ男子ト云フコトニ定ツテ居ル、皇統ニアラザレバ位ニ即クコトヲ得ズ、祖宗ノ血統ニアラザレバ皇統ニアラズ、男系ニアラザレバ正統ニアラズ、而シテ男系中ノ男子位ヲ承繼グト云フコトニナツテ居ル、皇統トハ祖宗ノ血統ノ意味デアアル、天皇ノ血統ト云フ意味デアアルガ、之ヲ其源ニ推及ホシテ考フレバ即チ我祖宗ノ血統ノ意味デアアル血統トハ言フマデモナク自然ノ血統ヲ意味スルノデアツテ他ノ血統ノ者ヲ養子其他ノ名義ニテ我血統ニ準ズルト云フコトハ絶エテナキコトデアアル又憲法、典範ノ許サハル所デアアル、養子ト云フ制度ハ一般ノ民間ノ風俗トシテモ極テ新シキモノデアアル、且法制ノ制度トシテモ唯血統内ノ者ヲ養フテ子トスルト云フコトデアツテ、他姓ノ者ヲ養フテ子トスルト云フコトハ極テ新シテ制度デアアル皇室ニ於テハ古來ヨリ今日マデ素ヨリ皇統以外ノ者ヲ養フテ子トスルト云フコトハ決シテ例ノナキコトデアアル、又子ト云フ觀念上許サハルコトデアアル、唯念ノ爲ニ注意シテ置クガ我朝廷ニテ武家ノ時代ノ皇室ニ天皇ノ御養子トカ或ハ御猶子ト云フモノガ歴史ニ見ユル、是ハ變例デアツテ今ノ典範ハ許サハルコトデアアル、併シ此變例ト云フモ極テ近キ血統ノ者ノ中ニ就テノ關係デアアル、例バ天皇ノ甥ニ當

ル人ヲ其地位ヲ進ムルガ爲ニ天皇ノ御養子ト云フ名義ヲ用キテ親王トスルト云フ様ナコトデアアル、決シテ皇統以外ノ者ヲ皇統ニ準ズルト云フコトハ無論意味セザルコトデアリマス、今ノ典範ニテハ明ニ縱合血統内ノ者デアツテモ皇室内部ニ在テハ養子ト云フ制度ヲ嚴ニ禁ジテアル、皇族ノ人ガ出デ、他ノ家ニ養子トナルコトハ特ニ許サル、コトモアルガ、外ヨリ内ニ入ルコトハ決シテ許サハルコト、ナツテ居ル、男系ト云フ意味ハ男子ニ依リテ傳ハルノ血統ト云フコトデアアル、廣ク皇統ト云ヘバ男子ニ依リテ傳ハルモノモ女子ニ依リテ傳ハル血統モ有リ得ベキデアアルガ、我皇室ノ方ハ男子ニ依リテ傳ハルノ血統ヲ以テ正當ナル血統ト見做サレテアリマス、是ハ皇室ノミノ法デアナイ、一般民族ノ固有法ガ我國ハ男系主義デアアル、家ト云フ制度ハ男子ノ血統ニテ繼續セラル、ヲ本則トシテ居ル、分ツテ居ルデアリマセウガ、男子ノ子孫ガ男系デアアル、女ノ子ノ子孫ガ女系デアアル、女ノ子ノ子孫モ血統デアアルガ、併シ男系デナ、イカラ茲ニ言フ皇統ノ内ニ入ラヌノデアリマス、斯ノ如ク皇統ニシテ男系ノ血統ガ皇位ヲ繼承シテ、又男系ノ男子ヲ皇位繼承ノ資格アル者トシテ女子ハ其資格ナキ者トシテアル、言フマデモナク男系ノ者ノ

中ニハ女モアリ男モアル、男系ノ女子ハ皇統ノ人デアル、即チ内親王、女王ノ如キ皆男系ノ女子デアル、去レド皇位ニ即ク資格ハ男系中ノ男子ニ限ルコト、シテ男系ニ出ツルト雖モ女子ハ位ニ即ク資格ナキ者ト定メラレテアル、之ガ今日ノ皇室典範ノ規定デアリマス、此事ニ付テハ從來例外ハアツタ、上代ハ決シテ女子ガ位ニ即クト云フコトハ無カツタ、去レド後ニ稀ニ女子ガ皇位ニ即カレタル例モアル、併シ是ハ極テ稀ナル變例デアル、將來ハ之ヲ禁ズルト云フ趣意ヲ典範ニ定メラレテ之ヲ明言シテアルカラ將來ハ必ズ男子ニアラザレバ位ニ即クコトヲ許サルコトトナツタ、之ガ皇位繼承ノ範圍ノ問題デアツテ、即チ如何ナル種類ノ人ガ皇位ニ即ク資格ガアルカト云フ問題ニ答ヘタルモノデアル

次ニ皇位繼承ノ順位トハ前ニ述ブル範圍内ニ於テ如何ナル人ガ先ニ位ニ即クベキカノ順序ノ問題デアル、男系ノ男子ガ數人アル場合ニ其孰レノ人ヲ先ニスベキカト云フ問題ガ順位ノ問題デアル、此順序ハ皇室典範ノ第一條以下數條ニ亘ツテ具體的ニ例ヲ示シテ定メテアル、即チ皇位ハ皇長子及其子孫ガ之ヲ繼グ、皇長子及其子孫ナキトキハ皇次子及其子孫ガ繼グ、斯ク順序ヲ追フテ直系ノ子孫ナキトキ

ハ傍系ニ入ル、例バ兄弟伯叔ト順次親等ノ近キ人ガ皇位ニ即クト云フコトニナツテ居ル、今一々茲ニ皇室典範第一條ノ條文ヲ讀上ゲルカラ此講義ノ一部トシテ茲ニ參照シテ補充シテ了解セラレンコトヲ乞フ

右ノ具體的ノ例ヲ尙ホ記憶スルニ便利ノ爲ニ主義原則ノ形ニテ茲ニ説明シテ置キマセウ

第一 我皇位繼承ノ法ハ直系ヲ先ニシ傍系ヲ後ニスル主義デアル、直系トハ血統ノ上下相通スル關係ヲ云フノデアル、親ヨリ子及孫等ノ直線ニ上下スル血統ヲ言フノデアリマス、傍系トハ同シ祖先ヨリ出デタルモノデアツテ直系ノ關係ナキ者ヲ謂フノデアル、例バ兄弟伯叔ノ如キハ傍系ノ關係デアル、我繼承法ハ直系ニ下ルヲ原則トシ直系盡キタル後ニ傍系ニ入ルト云フコトニナツテ居ル、之ガ第一ニ記憶スベキ主義デアル

第二 我繼承法ハ嫡出ヲ先ニシ庶出ヲ後ニスルト云フ原則ニ則ル、嫡出トハ皇后親王妃、又ハ王妃等ノ出デアル、其子デアル、庶出トハ其以外ノ者ノ出デアル、年ノ長幼ニ拘ラズ嫡出ト庶出トアルトキハ庶出子ヲ後ニシテ嫡出ヲ先ニスルト云

フコトガ原則トナツテ居ル、嫡庶ノ別ハ個人的ニ云フコトデアアル、血統ノ區別デハナイ、嫡出ノ此子孫ニ亦嫡庶ノ別ガアル、庶出ノ子ノ子孫ニ亦嫡庶ノ別ガアル其人ニ就キ其母ニ就テ個人的ニ其身分ヲ謂フコトデアリマス、從來國學者ノ説明ニ之ト異ツタル解釋モアルガ、今ノ典範ハ斯ク解スベキモノデアルト思フ

第三 我繼承法ハ長系主義デアアル、長系トハ長子ノ系統ト云フ意味デアアル、直系ノ中ニハ長男、次男、三男及各其子孫ガ數多アル、其中ニ就テ長子ノ系統ニ下ル、即チ長男、長男ノ子又其子ト云フガ如ク、先ツ長男ノ系統ヲ盡シテ若シ其盡キタル場合ニハ次男及其子孫ニ移ルノデアアル、此事ヲ指シテ長系ヲ先ニシ次系ヲ後ニスルト云フノデアリマス、尤モ長子ト云フモ次子ト云フモ唯單純ニ年齢ノミヲ見テ云フノデハナイ、年ノ長幼ニ拘ラズ嫡出ノ子ガ先立ツ、併シ同シ嫡出ノ中ニアツテハ年長者ガ先立ツト云フノデアリマス

第四 我繼承法ハ以上ノ範圍内ニ於テハ近親ヲ先ニスル主義デアアル、即チ親等最モ近キ者ヲ先ニスルノデアリマス、親等ノ遠近ハ普通民法ニ言フト同シ意味デアツテ自己ヨリ見テ世數ノ最モ近キ者ヲ先ニスルト云フノデアアル、例バ同シ直

系ノ長系ノ子孫中デアツテモ子ハ孫ニ先立ツ、孫ハ曾孫ニ先立ツ、親等ノ近キ人ガ先立ツト云フノデアアル

第五 同シ順位ノ人ノ間ニアツテハ年長者ヲ先ニスル主義デアアル、例バ嫡出ノ子ガ三人アレバ年ノ順序デ位ニ即ク、庶出子ノ間ニ在テモ同シコトデアアル、前ニ言ヘル長系主義トハ長男系統ヲ意味スルノデアアル、此處ニ言フ年長主義ハ同シ順位ニ在ル人ノ中ニ就テ個人的ニ年齢ノ上ノ人ヲ先ニスルト云フノデアアル、是ハ素ヨリ嫡庶區別ノアツタ後ニ付テ云フコトデアアル、嫡出ノ人ハ年少者デアツテモ年長者デアツテモ庶出ノ年長者ノ上ニ在ルコトハ今ノ説明ニテ自ラ相通シテ居ルト思フ

第六 今マテ述ベタル所ハ主トシテ直系ノ子孫ニ付テ言ヘルノデアアルガ、直系ノ子孫ナキトキハ傍系ニ入ル、傍系ニ於テモ前ニ述ベタル原則ニ依ツテ其順序ヲ定ム、即チ親等ノ最モ近キ者ヲ先ニスル、同シ順位ノ者ニ付テハ嫡出ヲ先ニシ庶出ヲ後ニスル、同シ嫡出者又ハ庶出者間ニ在リテハ年長者ヲ先ニスル、前ニ言ヘル所ヲ推シテ皇室典範ノ條文ト對照シテ解釋スレバ明瞭疑ナキコトデアリマ

ス故ニ餘リ精シクハ述ベマセヌ

以上ノ説明ニテ主義ハ明瞭デアラウガ、唯通常ノ教科書中ニ或ハ誤解ヲ傳フルコトガアルカラ辯明シテ置クベキ點ガアル、其レハ所謂胎兒ノコトデル、若シ天皇崩御ノ時ニ皇后ノ胎内ニ御子ノアルコトガ明白デアツタナラバ未ダ生レザル人ト雖モ皇位繼承ノ資格アリヤ否ヤト云フ問題デアル、我輩ノ解釋デハ胎兒ハ皇位ニ即ケコトヲ得ズト云フノデアリマス、民法ニ於テハ胎兒ニ付テ特別ノ明文ガアル、相續ニ付テハ胎兒ハ既ニ生レタルモノト見做スト云フコトニナツテ居ル、法レド我皇室典範ニ於テハ胎兒ノコトハ規定シテナイ、明文ナキ以上ハ既ニ生レタルモノニアラサレバ其資格ナキ者ト見ルカ當然ノ解釋デアル、且我典範ニ於テハ男女ノ區別ヲ以テ其資格ノ有無ヲ絶對ニ定メテ居ル、胎兒ハ男女ノ區別ヲモ明ニ知ルコトノ出来ヌモノデアアル、此故ニ胎兒ガ即位スルト云フコトハ其精神ヨリ見テモ豫定セザルコトデアアルト解スルガ當然ナルコトデアラウト思フ、唯民法ニ此變例ガアルカラ皇位繼承ノ事ニモ援イテ之ヲ論ズルト云フコトヲ學者ガ往々ニシテ試ムルノデアアル、ケレドモ元來前言フ通り民法ノ觀念デ言フ相續ト皇位繼承ノ

事トハ法理上ノ性質モ同一デナイ故ニ之ヲ援テ論ズルハ當然ノ事デハナイ、皇位繼承ノ順序ハ通常ノ場合ニハ常ニ説明シタル通りニ定ツテ居ルガ、典範中唯一ノ例外ガアル、其レハ其第九條ニ明文ノ定ガアル「皇嗣精神若クハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得」ト云フコトニナツテ居ル、之ハ一タビ即位セラル、トキハ如何ナル事故アリトモ絶對ニ其位ヲ退クト云フコトハナイ、故障アラバ攝政ヲ置クノデアアル、然レドモ未ダ位ニ即カザル前ニ於テハ精神若クハ身體ニ不治ノ重患アツテ或ハ重大ナル事故ガアツテ皇位ニ即クコト能ハザル事實ガ明白トナツタトキニハ其順序ヲ換フルト云フコトモ已ムヲ得ザルコトデアツテ此事ハ典範ニ許シテアル、但皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ之ヲ行フコト、ナツテ居ル、之ハ其事ヲ鄭重ニ熟慮審議セシムルノ精神デアアル、茲ニ順序ヲ換フルト云フハ今ノ原則ニ拘ラズ自由ニ賢明ナル人ヲ選ブト云フ意味デハナイ、唯事故アル人ヲ除クト云フダケノ働デアアル、其次ノ順位ノ人ガ當然ニ位ヲ繼グベキ資格ヲ有スルト云フコトニ過ギナイ、自由ニ其人ヲ置換ヘ選擇スルト云フ意味デハアリマセヌ、以上ノ

説明ニテ皇位繼承ノ事ハ大體大主義ダケハ述ベタ積リデアアル、典範ノ第十條ニ「天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク」トアル、即チ踐祚スルト云フ意味ハ前ニ言フ通り間斷ナク當然ニト云フ法律上ノ精神ヲ言現ハシテ居ル、又祖宗ノ神器トハ天祖以來我皇室ニ傳ヘテ皇位ノ御記標トスル所ノ所謂三種ノ神器デアアル、之ガ皇位ノ記標トナツテ世々之ヲ繼承セラル、例トナツテ居ル、神器ハ須臾モ君主ノ身ヲ離レザルモノデアアル、之ガ皇位ノ在ル所ヲ外形ニ現ハスモノデアアリマス、其他即位ノ禮ハ位ニ即キタルコトヲ公ニ示スノ儀式デアアル、新ニ皇位ニ即カレタル天皇ガ踐祚ノ後之ヲ行フノ禮式デアツテ、踐祚ノ文字ハ唯事實上位ニ即クコトヲ意味スル即位ノ禮ト云フハ重大ナル儀式ヲ指シテ言フノデアアル、踐祚ハ先帝崩御ノ瞬間ニ當然ニ在ル、即位ノ禮ハ時ヲ經テ後ニ行フコトヲ妨ゲザルモノデアリマス

第四章 攝政

攝政

攝政ハ天皇未ダ成年ニ達セザルトキ又ハ故障ニ由テ大政ヲ親ラスルコト能ハザルトキニ置クモノデアツテ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ者デアリマス、要領ハ憲法

ノ第十七條及皇室典範ノ第十九條ニ掲ゲテアル所ニテ明白デアアル、今茲ニ先ヅ攝政ト云フモノ、性質ト之ヲ置クノ場合ト何人ガ攝政タルカノ問題ト、此三點ヲ明瞭ニ話シマセウ

第一 攝政ノ性質ニ付テハ憲法ノ明文ノ言フ通り、天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フト云フコトニテ盡キテ居ル、天皇ニ代ツテ皇位ニ居ル者デハナイ、皇位ニ在ル人ハ天皇デアツテ國ニ二ツノ君主在ル譯デハナイ、又攝政ハ通常ノ法律關係ニ謂フ代理人デハナイ、天皇ニ代ツテ天皇ノ權カヲ行フ者デハアルガ、其代ツテト云フハ形容ノ言葉トシテ用キルノデアツテ私法上ニ謂フ代理關係ヲ意味スル言葉デハナイ、代理ト云フトキハ本人ノ權能ヲ他ノ人ニ移シテ代ツテ行ハシムルノデ代理人ノ行爲ハ代理人ノ行爲デアアル、本人ノ名ニ於テ行フニハアラズシテ代理人自身ノ名ニテ取引ヲ爲シ其取引ガ法律ノ結果本人ニ直接ニ權利義務ヲ負ハシムルモノデアアル、民法ナドニ謂フ代理ノ觀念ハ斯ノ如キモノデアアル、攝政ノ天皇ニ於ケルハ斯ノ如キ法律關係ヲ保ツモノデハナイ、憲法ノ明文ノ言フ通り天皇ノ名ニ於テ天皇ノ權カヲ行フノデアアル、攝政ノ名ニ於テ攝政ノ權限ヲ行フ

モノデハナイ、代理人ハ代理者ノ名ニ於テ代理權ヲ行フ、故ニ攝政ハ所謂代理關係ニアラザルコト明白デアラウ、又古キ説明ニハ攝政ヲ以テ未成年ノ君主ニ對スル後見ノコト、解釋スルモノモ行ハレテ居ツタガ、今ハ大概此說ヲ採ル人ハナイカラ強テ煩ハシク辯駁ヲセヌ、元來後見ト云フ制度ハ民法上ノ特殊ノ制度デアアル、之ヲ憲法關係ニ及ボシテ論ズルハ初ヨリ不當デアアル、加之後見ト云フ制度ノ意味ハ親權ニ代ハルモノデアツテ幼年ノ者父母ナキトキハ保護養育スル者ガナイカラ父母ニ代ツテ之ヲ保育スル必要カラ起ツタモノデアアル、全ク本人ノ身體財產ノ保護及教育等ノ目的ノ爲ニ設クルモノデアアル、攝政ハ大政ヲ行フ爲ニ置ク、天皇自身ノ保育ノ爲ニ置ク意味、デハナイ、外ニ對シテ國ノ大政ヲ執行セシムル爲ニ置クノデアアル、攝政ト後見トハ根本ヨリシテ其性質ヲ異ニスルモノデアアル、此事今ハ深ク辯ゼズシテ何人モ疑ハザルデアラウガ、歐羅巴ノ舊來ノ國法學ハ封建時代ノ餘弊ヲ承ケテ居ツテ公法、私法混淆ノ有様ヲ免レナカツタカラ、憲法上ノ特殊ナル制度ヲ強テ民法上ノ制度ニ牽キ附ケテ或ハ法律上ノ代理人デアルトカ、或ハ後見人デアルトカ云フ様ニ説明シ來ツタノデアアルガ、之ハ

一切誤解デアアル、攝政ト云フ制度ハ攝政ト云フ特殊ナ法律關係デアアル、決ンテ其類似ノモノヲ民法觀念ニ強テ求ムル必要ハナイ、天皇ノ名ニ於テ天皇ノ權力ヲ行フト云フ制度デアアル、攝政ヲ置キタル場合ニハ攝政ノ行爲即チ天皇ノ行爲デアアル、凡ソ憲法其他ノ法令ニ天皇ガ親裁スルコトヲ定メタルモノハ當然ニ攝政ガ之ヲ行フ、而シテ法律上君主ノ親裁タルモノト看做サル、攝政ノ權力ノ範圍ハ即チ天皇ノ統治權ノ範圍デアアル、否實ハ攝政ノ權力範圍ト云フベキモノハナイ、天皇ノ權力ヲ行フノデアアルカラ別ニ攝政ノ權力ト云フベキモノハナイノデアアル、其結果ハ攝政ハ君主ト同様ニ何事ニテモ爲シ能フト云フニト、爲ルノデアリマス、唯一ツ憲法上ノ制限ガアル、攝政ヲ置クノ間ハ憲法及典範ヲ變更スルコトヲ許サヌ、之ハ政治上其精神ハ言ハズシテ明デアラウ、憲法及典範ハ皇室國家ノ大本タル根本規程デアアル、天皇ガ今御幼少デ在ラセラル、トキ又ハ大政ヲ親ラスルコト能ハザルトキニ之ヲ容易ニ動カスコトアツテハ國體ノ動搖ヲ招ク虞モナイデモナイカラ、攝政ハ總テ天皇ノ權力ヲ行フトハ雖モ憲法及典範ヲ改正スルコトダケハ禁ジテアルノデアアル、之ガ唯一ノ制限デアリマス

第二 攝政ヲ置クノ場合ハ二ツアル、第一ハ君主未成年ナルトキ「君主ノ成年ハ滿十八年デアアル、第二ハ久シキニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハザルトキ」此意味ハ君主ガ大政ヲ親ラスルコト能ハザル重大ナル故障アルトキノコトデアアル、大政ヲ親ラスルト否トノ區別ハ事實上ノ勞力ニ耐ユルヤ否ヤノ問題デハナイ、法律上正當ニ自由ニ意思表示ヲ爲シ能フヤ否ヤノ問題デアアル、例ハ不幸ニシテ君主久シク御病床ニ在ラセラル、場合ト雖モ尙ホ正當ニ自由ニ意思表示ヲ爲シ得ラル、場合デアツタナラバ決シテ攝政ヲ置クコトハ出來ヌ、之ニ反シテ若シ不幸ニシテ精神若ハ身體ノ故障ニ由リ正當ニ自由ニ意思表示ヲ爲シ能ハザル場合ガアツタナラバ當然ニ攝政ガ開始スル、而シテ君主未成年ノ場合ハ事明白デアアルカラ當然ニ攝政ヲ置クノデアアルガ、第二ノ場合ハ先決問題トシテ大政ヲ親ラスルコト能フヤ否ヤト云フコトノ事實ヲ認定セネバナラス、此爲ニハ皇族會議及樞密顧問ガ之ヲ議シ其事實ノ認定ヲ爲スコト、爲ツテ居ル攝政ヲ選任スルノデハナイ、事實ノ如何ヲ決定スルノデアアル、攝政タルベキ者ハ法定ノ順序ガアル

第三 何人ガ攝政タルベキカ、此問題ハ明白ニ皇室典範第五章ニ定メテアル、攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫ガ之ニ任ズルコトヲ本則トスル、若シ是等ノ人攝政タルコト能ハザルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任スル

第一 親王及王

第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 内親王及女王

此順序ニ依テ攝政ノ任ニ就ク、第一ノ親王及王ニ付テハ皇位繼承ノ順序ニ依テ攝政タルベキ順序ヲ定ムル、第五ノ内親王及女王ニ付テモ男子ニ於ケル皇位繼承ノ順序ヲ之ニ準用シテ其順序ヲ定ムル、攝政タルベキ人ハ成年ニ達シ且故障ナキ者タルコトハ其性質上明文ヲ缺タズシテ當然ノ事デアアル、而シテ前ニ言フ通り、皇太子又ハ皇太孫ガ攝政タルコトガ本則デアアルカラ若シ是等ノ人ガ成年ニ達セラレタルトキハ攝政タル者ハ其任ヲ退キ之ヲ讓ルベキモノデアアル、其他

ノ人ニ對シテハ讓ルト云フコトハナイ、若シ攝政タル人ガ疾病其他ノ事故ガ起ツテ大政ヲ執ルコトノ出來ヌ様ナ場合ト爲ツタナラバ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其順序ヲ換フルコトヲ得ルノデアアル、特ニ注意シテ置クガ、皇位繼承ハ必ス男子ニ限ル、攝政タルニハ女子モ亦其資格ガアル、但内親王及女王ハ夫ナキ人ニ限ル

第三編 統治ノ客體

第一章 總論

茲ニ統治ノ客體ト云フハ尙ホ統治權ノ及ブ所ト云フガ如キ意味デアツテ前ニハ統治スル者ヲ述ベタカラ此處ニハ統治セラル、者ヲ述ブルノデアアル、統治權ノ目的ハ何デアアルカト云フノデアアル、目的トハ統治ノ支配ヲ受クルモノヲ指スノデアリマス

抑統治ト云フハ權力關係デアアルガ權力關係ハ人ガ人ニ對スルモノデアアル、而シテ統治權ハ絶對ノ權デアアル、物及人ノ上ニ行ハレテ總テノ他ノ權力ニ對抗スルノ絶對ノ權力デアアル、言換ヘテ見レバ統治ノ客體ハ即チ國ノ領土及國ノ臣民デアアル、之

ヲ合シテ言ヘバ我日本帝國デアアル、帝國ト云フ觀念ハ上ニ主權者タル君主在リ下ニ一定ノ土地ト一定ノ人民トガ在ツテ之ヲ綜合シテ唯一ノ統治權ヲ以テ之ヲ貫通スルノ觀念デアアル、統治ノ客體ハ即チ領土ト臣民ノ二ツデアリマス

抑統治ノ主體ト客體トヲ分ツト云フコトハ唯講釋ノ便宜タルノミナラズ我國體ノ必然ノ要求デアツテ我憲法ノ觀念ハ此分界ヲ明白ニスルコトヲ要スルモノデアアル、斯ク言フ所以ハ獨逸、佛蘭西等ノ國法學ノ著書若ハ之ニ倣フノ我學者ノ著書ヲ見ルトキハ我輩ノ説明ノ如クニ統治ノ主體ト客體トヲ判然區劃セザルモノガ多イ、之ハ唯著作ノ體裁論ノミデハナイ、自ラ一種ノ精神ガ之ニ依テ岐ル、所デアアル、蓋歐羅巴近世ノ政治思想ニ於テハ佛蘭西革命以來民主主義ガ流行シタ結果トシテ君主ヲ戴ケル國ニ於テモ君位ハ唯尊榮ノ地位トノミ觀念シテ之ヲ法理上主權ノ本位ト見ルコトヲ否ム精神ガアル、此故ニ名ハ君主國ト云フモ主權ハ國民ニ在リト云フ精神デアアル、白耳義王國ノ憲法ハ明白ニ之ヲ其明文ノ上ニ表明シテ居リマス、此故ニ學者ガ其國ノ憲法ヲ說クニ當ツテ君位ヲ以テ明白絶對ニ主權ノ本位ト斷言スルコトヲ憚ツテ避ケ、人民ヲ臣民デアアルト斷言スルコト

ヲモ避ケ、此問題ヲ曖昧ニスル弊ガアル、唯漠然主權ハ國民ニ在リト言フテ君主ニ在リト云フコトヲ憚ツテ言ハヌ、去レバトテ名義上君主國デアルカラ憲法ノ説明上判然ト人民ヲ以テ主權者ト爲ストハ言ヒ能ハヌ、故ニ彼等ノ著書ヲ見レハ統治關係ヲ説クニ其主體ト其客體トヲ明白ニ分ツコトヲ敢テ爲サズ曖昧ノ裡ニ菲ラントスル形跡ガ見ユル、我輩ハ我憲法ヲ講釋スルニ付テ斯ノ如キ曖昧ノ態度ヲ執ルコトヲ好マヌ、故ニ判然ト統治ノ主體ト客體トニ編ヲ分ケ、治者、被治者ノ分界ヲ明白ニシ、名分ヲ正サント欲スルノデアアル、唯之ヲ書物ノ目錄如何トノミ輕ク視テハナリマセヌ、各趣意ノアルコトデアアル

統治ノ客體ト云フハ統治權ノ絕對ニ且無限ニ及ブ所デアアル、今ノ國家制度ハ一定ノ土地ト一定ノ人民トヲ以テ存立スルモノデアツテ、此土地此人民ハ絕對ニ我獨リ專ラニスルノデアツテ他ノ權力ノ立入ルコトヲ禁ズルト云フ精神ニテ立國シテ居ル、故ニ國ノ存立ハ絕對ニ無限ニ統治權ノ及ブ土地ト人民トヲ有スルコトニ依テ定マルノデアリマス、或學者ノ説、獨逸ノ國法學者ノエリネックノ著書等ニ據レハ領土及臣民ヲ統治ノ客體ト見ルハ國家ノ觀念ニ背クモノデアルト斷言シテ居

ル、其理由トスル所ハ土地及人民ハ國ノ要素デアアル、國ノ要素デアアルカラ統治權ノ客體ト云フコトハ矛盾シテ居ルト云フノデアアル、之ハ我國ニ於テモ頗ル流行スル説デアルケレドモ論理ガ全ク誤ツテ居ル、念ノ爲ニ一言辯シテ置カネバナラヌ、抑彼レノ根本ノ、誤解ハ國家組織ノ要素タル事ト統治權ノ客體タル事トハ矛盾シテ兩立セザルモノ、如ク想像スルコトニ在ル、之ガ根本ノ誤デアアル、我輩ハ却テ一定ノ土地ト人民トハ統治權ノ客體タルコトニ依テ國家構成ノ要素タルモノデアルト言ハント欲スル、國家ハ治者、被治者ノ關係ヨリ成ル、治者アツテ被治者ナケレバ無意味デアアル、統治ト云フ關係ハ必ズ兩端ニ主體タリ客體タルモノアルヲ意味スル、權力ノ權力タルハ或モノニ對スルカラデアアル、茲ニ人民アリ土地アリト雖モ治者、被治者ノ別ナクンバ唯群集ト言フベクシテ國家ト言フコトハ出來ヌ、國家ノ要素ハ土地及人民デアルト言フケレドモ、之ヲ唯冷淡ニ文字通りニ解シテ茲ニ空漠タル原野アリ茲ニ混雜セル人種等ノ群ガアツテ之ガ直ニ二要素アルカラト云ツテ國家ヲ成スモノデアハナイ、土地及人民ハ統治ヲ受クル客體デアルト云フ資格ヲ備フルコトニ依テ國家構成ノ要素ト爲ルノデアアル、簡略ニ言ヘバ近頃ノ獨逸

國法學者ノ間ニ土地、人民ヲ統治ノ客體トスル說ヲ駁撃シテ客體ニハアラズ國家構成ノ要素デアルト言フガ之ハ誤デアル、統治ノ客體タル資格ヲ具フル一定ノ土地ト一定ノ人民トガ國ヲ構成スルノ真正ナル要素デアリマス、念ノ爲ニ此誤解ヲ防デ置イタノデアアル

領土

第二章 領土

領土ト云フハ絶對ニ無限ニ國ノ統治權ノ當然ニ及ブ土地デアリマス、絶對ニト云フハ或條件ニ係ハツテ權力ノ之ニ及ブニハアラズシテ當然ニ之ニ及ブ、之ヲ意味スルノデアアル、例バ我國ト外國政府トノ間ニ約束ガアツテ其約束ノ效果トシテ我國權ガ外國ノ土地ニ及ブ場合ノ如キハ縱令事實上帝國ノ版圖ト同様ニ及ブニシテモ權力ノ之ニ及ブ原因ガ外國トノ條約ニ係ハツテ居ルカラ絶對ニ及ブト云フコトヲ得ザルノデアアル、且又絶對ニ及ブト云フトキハ或期間ヲ限ツテ及ブモノデハナイ、例バ百年間ト云フ様ナ期限ガアツテハ絶對ニ及ブトハ云ハレヌ、元來國家ハ期限附ノモノデハナイ、國權ノ土地、人民ニ及ブハ期限アリ若ハ條件アルノデハナイ、無期限、無條件ト云フコトガ其本質デアアル、故ニ領土ノ性質ハ絶對ニ權力ノ之

ニ及ブ土地ト云フコトニ在ルノデアリマス、又無限ニ之ニ及ブト云フ意味ハ實ハ絶對ニ及ブト云フ意味ノ内ニ籠ツテ居ル、唯詳シク言ヘルニ過ギナイ、法律上ノ觀念トシテハ國權ノ其土地ニ及ブハ能ハザル事ナキヲ意味スル、或事ニ限り或範圍ニ付キテ權力ガ及ブト云フコトデハ領土ノ性質ヲ成サヌ、例バ裁判權ダケハ絶對ニ行ハル、トカ、又ハ軍事上ノ事ダケハ之ニ及ブト云フ様ナ状態デアツタナラバ無論其土地ハ領土ト云フベカラザルノデアアル、其レ故ニ領土ノ定義ハ絶對ニ無限ニ國ノ權力ガ及ブ土地ト解釋シテ簡短明瞭デアツテ疑ナイモノト信ズル、敢テ多言ヲ要セザルノデアアル、併シ此簡短ナル定義ガ世上ニ明瞭トナツテ居ラヌカラ或ハ多少ノ疑義ヲ人ニ懷カシムル憂ガ殘ツテ居ル、學問上ノ議論トシテハ今述ベタル定義ガ明瞭デアツテ之ニ當テ、判斷スレハ疑義アルベキ筈ハナイ、例バ臺灣ノ我權力ノ下ニ立チシ當時ニ臺灣ハ帝國ノ領土ヲ成スヤ否ヤト云フ事ガ世人ノ間ニ問題トセラレタ、之ハ言フマデモナク純然タル帝國ノ領土デアアル、帝國ノ領土デアアル以上ハ帝國ノ一部デアアル、帝國ノ一部デアアル以上ハ帝國憲法ノ支配ヲ受クル事理當然明白デアアルケレドモ世上ニ疑義アルノハ甚ダ失當ナルコトデアアル、臺灣

ハ支那トノ戦争後平和條約ニ依テ割讓セラレタ、併シ今我國權ノ臺灣ニ及ブハ支那トノ條約ノ效力ニ由ルノデハナイ、民法ノ例ハ當ラヌケレドモ諸君ニ分リ易イ様ニ言ヘバ、土地ノ貸借契約ニ依リテ其土地ヲ使用シテ居ルノハ現ニ有效ナル貸借契約ナルモノ、效力デアル、故ニ絶對ニ之ヲ支配スル權ノアルノデハナイ、併シ土地ノ讓渡ノ契約ガ成立ツテ土地ノ所有權ガ我ニ移リタルトキハ其後其土地ヲ自由ニ處分スルハ所有權其モノ、獨立ノ作用^{ハタシキ}デアツテ取得ノ名義タル初ノ讓渡契約ノ效力ニ由ルモノデハナイ、日清ノ臺灣割讓ノ條約ハ臺灣ヲ我ニ引渡スコトニ依テ效力ガ盡キテ居ル、今我國權ノ臺灣ニ及ブハ此條約ノ效力ノ延長ニハアラズシテ絶對ニ我ニ統治權アルノデアル、又他ノ一例ハ近頃日露戦争ノ結果支那トノ條約ニ依テ南滿洲ノ或地方ヲ事實我支配ノ下ニ置テ居ル、所謂租借地デア^ル、此租借地ナルモノハ帝國ノ領土デハナイ、縱シ又領土ト同ジ様ニ支配シツ、アルトモ我國權ノ之ニ及ブ名義ガ支那トノ條約其モノ、現行ノ效力ニ由ルノデア^ル、條約ノ條項ニ依リテ支配シテ居ルノデア^ル、即チ條約ヲ破棄スルカ若ハ期限盡キタラバ我統治權ハ之ニ及バザルノデア^ル、此故ニ所謂租借地ハ絶對ニ無限ニ我

國權ノ下ニ在ルノデハナイ、故ニ領土ニハアラズ、所謂租借地デア^ル、其他一々例ヲ舉ゲテ示サズトモ大概之ニテ御分リデア^ラウ、現ニ韓國ニ對シテハ我權力ガ及ンデ居ルコトモアル、或ハ支那ニ我專管居留地ト云フモノモアル、或ハ治外法權ノ行ハル、コトモアル、皆條約ノ效果トシテ我權力ノ及ブノデア^ラツテ絶對ニ及ブノデナイ、故ニ領土ト云フベカラザルノデア^リマス、以上ノ説明ニテ領土ノ法理上ノ定義ハ明白デア^ルガ、之ニ沿革上ノ觀念ヲ參考ノ爲ニ附加ヘテ置カウ

我國ト歐羅巴諸國トノ國家觀念ニ於テ大ナル主義ノ差異ヲ見ル、歷史上ノ著大ナル點ハ蓋領土ノ觀念ニ在ルト思フ、我國ハ建國以來特殊ノ國體デア^ラツテ萬世一系ノ皇位ガ此國ヲ支配スルハ即チ國ノ公ノ事ヲ司ル意味デア^ラツテ、即チ統治スルノデア^ラツテ土地ヲ皇室ノ私有財産トスル意味ニテ立國シタモノデハナイ、之ハ歴史ノ事實ニテモ明白デア^リ、又此觀念ハ言葉ノ上ニモ表ハレテ居ル、例バ「天皇」ト云フ文字ハ支那文字ヲ以テ翻譯シタモノデア^ラツテ本來ノ國語ハ「スメラミコト」ト云フノデア^ル、國ヲ統ベ治ムル人ト云フ意味デア^ラツテ土地ノ所有者又ハ地主ト云フ意

味デハナイ、支配人ノ意味デアアル、又天皇ガ國ニ臨ム關係ヲ國ヲ知食スト言フタノデアアル〔知食ス〕ト云フ語ハ國ノ公ノ事ヲ聞知スルト云フ意味デアアル、府縣ニ知事ト云フ役人ガアル、彼ノ知事ノ意味デアアル、少シモ土地ヲ私有財産トスル意味ハナイ、現行ノ憲法ニ於テモ「國ヲ統治ス」ト言フ「統治」ハ權力ヲ統ベテ國ヲ治ムルト云フ意味デアアル、權力者デアリ謂ハバ支配人デアアルガ之ヲ財産トスルノ觀念ハ總テナイ、故ニ古來ヨリ我國ノ建國ノ精神ハ國ノ領土ヲ以テ君主ノ所有地ト見ル意味ハナカツタ、而シテ今日ノ立憲政體ノ觀念ニ及ンダノデアアル、之ガ我國ノ憲法歴史ノ一ツノ特徴デアアル、繚ッテ歐羅巴ノ近世ノ立國ノ歴史ヲ見レバ大ニ其立國ノ精神ヲ異ニシテ居ル、彼ノ中世秩序ノ紊レタル時代ニ豪族ガ廣ク土地、人民ヲ橫領シテ之ヲ王室ノ財産ト見テ君主ハ大地主ノ如ク國民ハ君主ノ所有地ヲ耕ス小作人ノ如ク、君主ガ國ヲ支配スルト云フ意味ハ人ガ自己ノ廣大ナル財産ヲ管理シ支配スル意味ニテ之ヲ行フタ、此故ニ領土權ト所有權ト云フ觀念ガ混同シテ居ル、故ニ中世ノ法律思想ニテハ國土ハ國王ノ所有デアアル、國王ノ權力ガ國土ニ及ブハ大地主ノ所有權ガ其廣大ナル所有地ニ及ブモノト見テ居ツタ、今デモ英法ノ不動產法等ヲ

研究爲サレバ名義上尙ホ此觀念ヲ維持シテ居ル、一私人ニ事實上土地ノ所有權ヲ與フルトモ之ハ現所有權ノ上ニ設定セラレタル第二等ノ所有權ノ意味デアアル、譬ヘテ言ヘバ地上權ノ様な意味デアアル、此事ヲ能ク解釋スルニアラザレハ所謂封建制度ト云フモノガ了解シ得ラレヌ、「封建」ト云フ字、何人モ一言ニシテ定義ヲ與フルコトノ困難ナル語デアアル、土地ヲ全然與フルノデモナイ、然ラバトテ唯單純ニ土地ヲ一時貸スノデモナイ、借地ト所有地トノ中間ニ在ル様な曖昧タル觀念デアアル、併シ今ノ民法ノ觀念ヲ以テスレバ「借地」ト云フ字、何人モ一言ニシテ定義ヲ與フルスレハ曖昧タルノデハナイ、即チ土地ヲ封スルト云フ一種ノ法律關係ガ現實ニ存シテ居ルノデアアル、例バ大名ガ領地ヲ有スル、封セラレテ其土地ヲ領スル、封スルト云フ意味ハ全然其土地ヲ君主ノ權力ヨリ拋棄シテ人ニ與フルノデハナイ、去ラバトテ唯通常ニ謂フ土地ヲ一時貸付クルノデモナイ、恰モ大名ガ土地ヲ所有スルガ如ク、併シ其土地ハ君主ノ土地デアアルト云フコトヲ認ムルノデアアル、之ガ所謂封建ノ制度デアツテ現所有權ノ上ニ更ニ第二等ノ所有權ヲ設定スルコトデアアル、此事ハ少シ問題外ニ涉ツタ様ダガ、法律家トシテハ封建制度ノ意味ヲ能ク法律的ニ了

解シテ置クコトが必要デアルカラシテ少シ細目ニ涉ツテ述ベタノデアル、斯ノ如ク歐羅巴ノ今ノ國々モ其興リシ時代ニ於テハ領土權ト云フ觀念ハ土地ノ所有權ト云フ意味デアツテ君主ガ即チ所有者デアツタ、君主ガ國土ヲ有スルハ尙ホ今我我ガ土地ヲ所有スルト同シ意味デアル、云フコトカラ彼レノ領土ノ觀念ガ發達シテ今日ニ至ツタノデアル、今日ニ於テハ君主ヲ以テ所有者トスル觀念ハ廢レテ頻ニ民權ヲ主張スル時代ト爲ツタ、故ニ正當ナル解釋ハ國ノ領土權ト土地ノ所有權トハ全ク別物デアアル、完全ナル所有權ト完全ナル領土權トハ同一ノ土地ノ上ニ行ハレテ少シモ戾ルコトノナイト云フコトガ明白ニ爲ツテ來タ、所有權ハ土地ヲ自己ノ財産トシテ自己ノ利益ノ爲ニ自由ニ處分スル權利デアアル、經濟上ノ觀念デアアル、領土權ト云フハ即チ統治權デアツテ其土地ヲ支配スル權力デアアル、其土地ノ上ニ在ル物ニ對シテ秩序ヲ維持スルノ權力デアアル、二ツノ者目的ヲ異ニシ性質ヲ異ニスル、之ヲ混同シテハナリマセヌ

臣民

第三章 臣民

臣民ハ絶對ニ無限ニ國ノ主權ニ服從スル人デアアル、領土ト云ヒ臣民ト云ヒ共ニ統

治ノ客體デアアルカラ其性格ハ同一デアアルコトハ當然ノ道理デアアル、故ニ臣民ノ臣民タル所以ハ絶對ニ無限ニ國ノ主權ニ服從スルモノデアアルト云フコトノ意味ニテ盡キテ居ル、且其意味ハ唯前章ニ領土ニ付テ述ベタル所ニテ明瞭デアアルカラ茲ニハ簡略ニ述ベテ置ク

或人ハ臣民トハ國權ニ服從スル者デアアルト云フ様ニ廣ク解スルガ、之ハ法理上精密ナル解釋デナイ、同ジク此國內ニ於テ國ノ權力ニ服從スル者デアツテモ臣民ト臣民ニアラザル外國ノ人トハ其之ニ服從スル原因ガ異ツテ居ル、臣民ハ絶對ニ無限ニ服從スル、外國人ハ國權ニ服從セザルガ原則デアアル、唯我領土ノ上ニ足ヲ留メテ居ルカラ其滞在スルト云フ條件ニ伴フテ滞在シテ居ル期間ハ我國權ノ支配ヲ免レザルノデアアル、此區別ヲ無視シテ唯國權ニ服從シテ居ル者ガ臣民デアアルト云フ様ニ餘ニ冷淡ニ説明スル者アルノハ法理論トシテ粗略ニ失スルト云ハネバナラス、併シ普通ノ教科書ニ我輩ノ言フ如ク領土及臣民ヲ嚴格精密ニ定義スルモノガナイ、之ハ大ナル缺點デアアル、併シ之ニハ幾分カ政治的的感覺モ雜ツテ居ルコトデアラウト思フカラ特ニ語ヲ強ウシテ此定義ヲ主張シテ置カネバナラヌノデアアル

抑佛蘭西ノ大革命前後ニ於テ所謂天賦人權説ガ世ノ風潮ニ乘シテ汎ク民心ヲ支配シ來ツタ以來、人ハ本來獨立自由ノモノデアツテ國權ト雖モ侵スベカラザルノ自由ト權利トヲ有スル、專制政府ノ下ニ在ツテハ臣民ハ絕對ニ無限ニ服従シタガ立憲政體ノ下ニ在ツテハ絕對ニ無限ニ服従スルモノデハナイ、若シモ絕對ニ服従スルナラバ人民ハ奴隸デアルト云フ様ニ解シテ、此誤レル思想ガ人心ヲ支配シテ何トナク今日マデモ學者モ亦此政治的感情ニ驅ラレテ臣民ハ絕對ニ無限ニ國權ニ服従スルモノデアルト云フコトヲ斷言スルヲ憚ル形跡ガ見ユル、之ハ法理論トシテ大ナル誤解デアアル、國家ト云フ組織其モノ、性質ハ人民ニ對スル絕對ノ權力中央ニ存在スルコトヲ要件トスル、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ人民ハ絕對ニ主權ニ服従スルコトヲ要件トシテ居ル、我々ハ法律ニ服従スルト言フガ之ハ言葉ノ誤デアアル法律ナルモノハ規則デアアル、意思モナク權力モナイモノデアアル、我々ハ法律ニ服従スルノデナイ、主權ニ服従スルノデアアル、法律ハ主權者ノ命スル所デアアルカラ法律ニ背ク能ハザルノデアアル、是レ言葉ヲ分ケテ言ヘバ三歲ノ童子モ分ルコトデアアルケレドモ之ニ感覺ガ雜ハツテ來テ居ルモノダカラ人ガ誤解ヲ傳フル虞ガアル、我

我ハ憲法トカ法律トカニ服従スルガ、憲法法律以外ノモノニハ一步モ屈シ服従スル義務ハナイナド、云フ様ナコトヲ言フ、之ハ誤デアアル、今ノ現行ノ憲法又ハ法律ハ國家ノ權力ニ依テ何時變更セラル、カモ知レヌ、我々ハ法律ノ變更ヲ拒ム權利ハナイ、新ナル法律ガ制定セラルレバ又之ニ服従セネバナラス、故ニ我々ハ法律ニ服従スルノデハナイ、初ヨリ無限ニ絕對ニ國權其モノニ服従シテ居ルノデアアルカラ縱令上ニ朝令暮改ノ政事ガアツテモ下ニ居ル臣民ハ法理上止ムヲ得ズ右ニ向キ左ニ向キ應接違ナク其命ニ從ハネバナラスノデアアル、此趣意ヲ能ク了解シテ臣民ノ臣民タル法理上ノ性格ヲ知ラネバナリマセヌ、我々ガ契約ニ束縛セラル、事ト法律ニ束縛セラル、事トハ全く意味ヲ異ニシテ居ル、契約ニ由ル束縛ハ其契約ノ效力デアツテ契約存在ノ間ニ限ル、相手方ガ契約ヲ改正變更シテ外ラバ最早更ニ其新契約ニ服従セネバナラス義務ハ固ヨリナイ、故ニ契約以外ノ事ニハ更ニ束縛ガナイト言ハル、法律ハ國家ガ勝手ニ改正變更スル、而モ我々ハ其跡ヲ追フテ追隨シテ服従シ行カネバナラス、故ニ法律ニ依ルニアラズシテ束縛セラル、コトナシト云フ意味ト契約ニ依ルニアラザレバ束縛セラル、コトナシト云フ意味トハ

意味ガ違フ、是等ノ事ハ憲法全體ノ觀念ニ關係スルコトデアルカラ能ク了解ヲシテ置カネバナリマセヌ

以上ノ如ク説明スレバ臣民ハ全ク牛馬ノ如ク奴隸ノ如キモノデアルト看做サルル様デアルガ國法ノ精神ハ全ク其正反對デアツテ、國ノ統治權ハ其性質上國民ヲ保護スル爲ニ存スル權力デアル、故ニ統治權ノ大ナルハ保護ノ大ナル所以デアアル臣民ノ絶對ニ服從スルハ完全ナル保護ヲ受クル所以デアアル、臣民ガ完全ニ服從スルカラ國家ハ完全ニ之ヲ保護スルコトガ出來ルノデアアル、權力ナケレバ保護ナシ保護ノ完キハ權力ノ完キヲ意味スル、此道理ハ憲法全體ヲ貫通スル大原則デアアル主權ト云フハ統治權デアアル、統治ト云フ語其レ自身ガ保護ト云フコトヲ意味シテ居ル、統治權ハ萬能デアルト云フ意味ハ統治權ガ其存在ノ目的ヲ完フスル爲ニ行動スルニ於テ能ハザル所ナシト云フ意味デアアル、若モ國權ハ萬能デアルカラ例ハ君主一個人ノ自己ノ私益ヲ完フスルガ爲ニ之ヲ用キテモ宜シイト云フ様ニ解スル者アラバ是レ統治權ノ統治權タル本來ノ性質ヲ無視スルノ暴言デアアル、例ハ民法テ謂フ親權ト云ヘバ親權ト云フ文字其レ自身ガ子ヲ保護スル爲ニ存スル權力

ト云フコトヲ意味シテ居ル、統治權ト云ヘバ國土、人民ヲ保護スル爲ニ存スル權力ト云フコトハ言ハズシテ明デアアル、我々ガ統治權ハ絶對デアリ萬能デアルト云フコトヲ主張スルヲ聞テ驚テ君主ノ壓制專横ヲ助成スルノ説デアルカノ様ニ思フ者モアルマイガ、併シ附會シテ非難スルハ實ニ統治權ノ何タルヲ全然知ラザルノ罪デアアル

其他尙ホ臣民ノ國籍ト云フコトガアルガ、其國籍ニ付テハ特ニ國籍法ト云フ法律ガ出テ居ル、其法律ノ内容ハ頗ル錯雜シテ居ル、之ハ民法ノ關係モアリ特別法トシテ研究スル必要ガアル、此簡短ナル憲法大意ノ説明ニ於テハ一々其レヲ擧ケテ言フテモ煩雜ニ涉ツテ却テ大體ノ精神ヲ沒却スル様ニ爲ルカラ態ト省テ置キマス國籍法ト云フ法律ハ讀ンデ了解シ難イモノデナイカラ各自分デ通讀シテ置カレタイ

第四章 臣民ノ權利

臣民ハ國權ニ對スル絶對ノ服從者デアルト云フコトヲ述ベタガ、法律ハ又臣民ヲ保護スルガ爲ニ之ニ人格ト權利トヲ與フ、人格トハ自主ノ目的ノ主體タルコトヲ

意味スル、平易ニ言ヘバ自己ノ爲ニ自ラ生存スルト云フコトガ人格ノ人格タル所以デアル、人ハ自己ノ爲ニ自己ガ生活スルモノデアルト云フコトヲ國法ニテ認ムルモノガ即チ法律上ノ人格デアル、權利トハ人ノ利益ヲ法律ニテ保護セルモノデアツテ自主ノ目的ヲ主張スル爲ニ法ガ權利ヲ與フルノデアル、國家ハ人民ヲ保護スルニ人ニ人格ヲ認メ權利ヲ與フルコトニ依テ其保護ノ目的ヲ達スル、臣民ノ臣民タル本來ノ性質ハ絶對ノ服從デアルガ、服從ニ依テ保護ヲ受クル、國法ガ人ニ人格及權利ヲ與フルハ國家ガ人ヲ保護スルノ方法デアル。

權利ヲ分ツテ公權ト私權トスル、公權トハ國家ト一個人トノ間ニ於ケル權力服從ノ關係ニ於テ存在スル權利ノ意味デアル、私權トハ個人平等ノ關係ニ於テ認めラレ、所ノ權利デアル、公權及私權ハ固ヨリ皆法律ノ賜物デアツテ人ガ國家ニ服從スルノ結果デアル、憲法ニ於テ「臣民ノ權利」ト云フハ主トシテ公權ノ關係ニ付テ謂フノデアル、公權ヲ尙ホ詳シク分テバ自ラ自由權ト參政權トノ二様ニ分ル、自由權ト云フハ人ノ身體ノ自由ヲ保障スルヲ目的トスルノ權利デアル、例バ憲法ノ法文ニ列記シテ保障シテアル言論ノ自由デアルトカ、或ハ居住移轉ノ自由デアルト

カ云フ類ノ如ク、國權ノ干涉ヲ受ケズ、自由ニ自己ノ意思ヲ以テ自己ヲ處置スルコトノ許サル、モノヲ意味スルノデアル、我憲法第二章ニ「臣民ノ權利」トシテ保障シテアルハ大體此自由權ノ保障デアル、其外ニ憲法上人民ノ參政權ト稱ヘ來ツテ居ルモノガアル、參政權トハ人民ガ國ノ政治ニ參與スルノ權利ノ意味デアル、例バ選舉ヲ行フ權利ノ如キデアル、是ハ一方ニ於テハ權利ト見ルベク、一方ニ於テハ義務トモ見ルベク、畢竟本人ノ利益ノ爲ニ與ヘタル權利ニハアラズシテ國家公共ノ利益ノ爲ニ一私人ニ行ハシムルノ權利デアル、自由權トハ其性質ガ異ツテ居ル、自由權ハ專ラ本人ノ利益ノ爲ニ與ヘラレタルモノデアル、參政權ハ國家ノ利益ノ爲ニ一私人ニ行ハシムルモノデアル、此故ニ所謂參政權ハ一方ヨリ見レバ臣民ノ國家ニ對スル義務デアル、一方ヨリ見レバ國家ノ政治ニ參與スルノ權利デアル、斯ノ如ク性質ガ異ツテ居ルカラ之ヲ混ジテハナリマセヌ

以上ノ説明ノ如ク憲法ハ人ニ權利ヲ認メ之ヲ保護シテ居ル、人民ノ私權ハ主トシテ民法ノ規定ニ依テ保護サレテアル、又其自由權ハ主トシテ憲法及其原則ニ依リテ定メラレタル各種ノ行政法律ニ依テ保護セラレテアル、而シテ其參政權ハ憲法

及憲法附屬ノ法律、例ハ選舉法ニ依テ保障セラレテアル、是ガ大體ニ於テ臣民ノ各種ノ權利デアアル

統治ノ機關

第四編 統治ノ機關

總論

第一章 總論

統治ノ機關ト云フハ君主ガ帝國ヲ統治スルノ機關ノ意味デアリマス、統治ノ主體ト其機關トノ別ハ言ハズシテ明デアアル、我輩ノ言フ意味ニ於テハ君主ハ統治機關デハナイ、統治者デアアル、政府トカ國會トカ裁判所トカ云フ類ハ統治ノ機關デアアル、君主ガ是等ノ道具設備ヲ以テ之ニ依テ國ヲ統治スルモノデアアルカラデアリマス、或國ニ於テハ君主モ國會モ裁判所モ皆一樣ニ統治機關デアアルト云フケレドモ、我憲法ニ於テハ統治ノ主體ト其機關トノ別ハ判然トシテ明瞭デアアル、統治ノ機關ハ憲法ニ依テ設ケラレ又廢止セラレ得ル、憲法ニ依テ存廢スルモノデアアル、國ノ主權者ハ憲法ノ改正變更ニ依テ存廢セラル、モノデハナイ、機關ノ機關タル所以ハ憲法即チ主權者ノ法律ニ依テ存廢セラル、ト云フコトニ在ル、憲法ヲ以テ廢止スルコトノ出來ヌモノナラバ機關デハナイ、憲法ノ改正ヲ以テ廢止スルコトノ出來ル

モノナラバ機關デアアル、是ニ依テ機關ト主體トノ別ヲ知ルコトガ出來ルデアラウ、機關ト言フ言葉ニ付テ或ハ高遠深遠ナル意味アルガ如ク説ク者モアルガ、我輩ノ言フ意味ハ甚ダ單純デアツテ複雑深遠ノ意味ハナイ、機關トハ設備ノ意味デアアル、尙ホ道具ト云フガ如キノデアアル、人ガ或目的ヲ達スル爲ニ用キルノ機械デアアル、機關其レ自身ガ自主獨立ノ目的ヲ有スルモノデハナイ、若シ自主獨立ノ目的ヲ有スルナラバ是レ機關ニアラズシテ主體デアアル、機關ト云フトキハ他人ノ目的ノ爲ニ存在スルコトヲ意味スル、自己ノ目的ノ爲ニ自ラ存在スルナラバ機關デハナイ、自主ノ本體デアアル、此事能ク了解セネバナリマセヌ、機關ト云フ文字ヲ曖昧ニ解釋シテ此觀念ヲ濫用スルコトガ世上法理論トシテ屢見ル所デアアルガ、我輩ノ採ラザル所デアアル

憲法上ノ機關ハ三ツアル、第一帝國議會、第二政府、第三裁判所、此三ツノ機關ヲ分チ置クコトガ所謂立憲政體ノ原則デアツテ此機關ノ分立ガ自ラ三權分立ノ意味ヲ完ウスルモノデアアル、國會ハ立法權ノ機關タリ、政府ハ行政權ノ機關タリ、裁判所ハ司法權ノ機關タルコトニ依テ所謂權力分立ノ實ヲ成ス、是ガ立憲政體ノ要件デア

リマス、憲法ヲ以テ此三機關ヲ分チ各獨立ノ權限ヲ有ツテ相對峙スルト云フコトガ立憲制度ノ根本ノ概念デアアル、此編ニ於テハ此故ニ此三機關ヲ各別々ニ掲ケ其憲法上ノ地位ト其職權ノ範圍トノ大體ヲ説明シマス

茲ニ憲法上ノ機關ト云フ意味ハ其權限及組織ガ直接ニ憲法ノ規定ニ依テ定マルモノデアツテ普通ノ法律命令ヲ以テ之ヲ動カスコトノ出來スト云フ意味ニテ憲法上ノ機關ト云フノデアリマス、汎ク國家ノ機關ト云フトキハ總テノ行政各官廳モ又ハ市町村ノ如キ自治團體ノ組織モ皆國家ノ機關デアアル、併シ是等ハ多ク一般ノ法令ニ依テ存廢スルモノデアアル、唯憲法ノ直接ニ置クモノデアアル、憲法ノ改正變更ニアラザレバ動カスコトノ出來ヌモノガ憲法上ノ機關デアアル、此意味ニ於テ國會、政府、裁判所ハ憲法上ノ機關デアルト云フノデアリマス

帝國議會

第二章 帝國議會

帝國議會ハ統治機關ノ一ツデアツテ主トシテ立法權ノ行使ニ參與スルモノデアアル、帝國議會ハ其レ自身獨立ノ主體デハナイ、前ニ話ス意味ニテ謂フ機關デアアル、國會ガ國會トシテ獨立ノ目的ト生存トヲ有スルノデハナイ、國家ノ機關トシテ存在

スルノデアアル、恰モ人間ノ心臟トカ肺臟トカ云フモノガ人ノ身體ノ機關トシテ之ニ備ツテ居ルガ如キモノデアアル、國會其レ自身ノ人格、權利ト云フモノハナイ、國家ノ機關デアアル、國家ノ機關トシテ存在スルノデアアルガ、獨立シテ存在スルモノデアアルリマセヌ、又我憲法上國會ハ主權者ニアラザルコト今更辯スルマデモナキコトデアアル、君主ハ統治權ヲ總攬スル、而シテ君主ガ立法權ヲ行フニ付テ國會ト云フ機關ニ依リテ之ヲ行フノデアアル、或國ニ於テハ國會ヲ以テ主權者トスルモノモアリマスガ、是ハ固ヨリ我國體ニアラザルコトハ既ニ第一編ニ於テ精シク説明シテアルト思フ

抑國會ノ制度ハ實ハ我國ノ歴史ニナキ所デアツテ歐羅巴ノ歴史ヨリ採用シタモノデアアルカラ茲ニ歐羅巴ニ於ケル國會思想ノ來歴ヲ參考ノ爲ニ述ベテ置カウト思フ

今ノ歐羅巴民族ノ祖先タルゲルマン人ガ始テ小部落ヲ組織シテ建國ヲシタル當時ヲ見レハ甚ダ純朴ナルモノデアツテ事有ラバ部落ノ者ガ原野ニ集會シテ之ヲ相談シタ、是ガ古ノ國會デアリマス、定ツタル君主モナク、又政府モナク、部落ニ事變

アラバ人民ガ原野ニ集ツテ協議シタト云フノデアアル、後ニ部落ト部落トガ戦争ヲ爲ス事ヨリシテ國會ノ組織ハ自ラ國民軍ノ組織ト關聯スルコト、爲ツテ、國民皆兵デアツテ國民軍ガ集合スルコトガ即チ國會デアツタ、國會ニ於テ和戰ノ議ヲ決シタト云フノハ軍隊ガ之ヲ決シタノデアアル、是ヨリ後ゲルマンノ部落ニ、君主ヲ戴クコト、爲ツタケレドモ本來民會ガ根本ノ制度デアルカラ權力ノ中心ハ民會デアル、是カ抑歐羅巴ノ上代ニ於ケル國會ノ初デアリマス、其後ノ變遷ヲ説ケバ頗ル時間ヲ要スルカラ據ナク省ク

歐羅巴ノ中世各民族ガ分立シテ、例バフランク王國トカ或ハザクソン民族トカ云フモノガ其レ其レ大國ヲ成シタル時代ノ事ヲ主ニ考ヘテ見ルニ國王ノ權力盛ナル時ハ民會制度ハ振ハザリシトハ云ヘ制度トシテ常ニ遺ツテ居ツタ、其レヨリ後引續テ歐羅巴ハ封建時代ト爲ツタ、中世封建時代ノ歐羅巴ハ一般ニ國會政治デアリマシタ、今日ノ如ク平民一般ガ參政權ヲ有ツテ居ル意味デハナイガ、所謂封建ノ大名、小名、地方ニ割據シテ人民ヲ支配スル大小ノ諸侯ガ相集ツテ國會ヲ成シタ、國事ヲ議シタノデアアル、例バ獨逸帝國ニハ帝國議會ガアリ、又獨逸各國ニモ各國會ガ

アル、佛蘭西ハ一時中央集權ガ旺盛デアツタカラ久シク國會ヲ召集セザリシトハ雖モ國會ト云フ制度ハ存在シテ居ツタ、英國ハ初ヨリ國會制度ヲ引續テ行ツテ居ツタ、此時代ノ國會ト云フハ土地ヲ領スルノ大名、小名ノ集合デアアル、貴族ノ會合デアアル、平民ハ與ラナカツタノデアリマス、此有様ニテ歐羅巴ノ十八世紀ノ末マデ引續テ居ツタ然ルニ英國ニ於テハ早クヨリ平民ガ亦國會ニ列席スルコト、爲ツタ其所以ハ國王ト貴族トガ常ニ軋轢爭鬪シタルノ結果國王ノ專横ナル政事ニ對シ貴族ガ平民ト合シテ之ニ對抗スル必要ヲ生ジタノデアアル、國會ト云ヘバ貴族ノミノ集會所デアアルカラ商賈繁昌ナル都府ノ代表人或ハ地方團體ノ代表人等ガ列席スル權ヲ得ルニ至ツタ、先ヅ英國ニ於テ平民的要素ガ國會組織ニ加ハリ、遂ニ歐羅巴全體ノ制度ヲ變更セシメタノデアリマス、十八世紀ノ歐羅巴ヲ顧ミテ見レハ一方ニハ人權論ガ盛デアツタ、一方ニハ君主ノ壓制ヲ排斥スル勢ガ盛デアツタ又一方法ニ於テ工業、商業ノ發達ニ伴フテ土地ノ領主ニアラズシテ財產アリ地位ノアル中等階級ガ起ツタ、是等ノ階級ガ政治上ニ勢ヲ得タ、是等種々ノ原因ヨリシテ國會ノ制度ガ貴族的デアリシモノヲ國民的ニ改造スル機運ト爲ツタ、彼ノ激烈ナル佛

蘭西ノ大革命ガ千八百年代ノ初ニ於テ成シ遂ゲラレテ此風潮ハ實ニ世界ヲ風靡シタノデアアル、十九世紀ノ初ヨリ其中パニ至ル間僅カ五十年計リノ間ニ世界文明國ハ到ル所國會制度ヲ中心トスル立憲政體ニ則ルコト、爲ツタノデアアル遂ニ我東洋ニマデ其勢ヲ及ボシテ先ヅ第一ニ我帝國ガ憲法ヲ布キ國會ヲ開イタノデアアル、是等ノ來歴ハ精ク話ス暇ガナイノデアリマス、併シ國會ノ制度ハ久シキ沿革ノアルコトデアアル、突然學者、政治家等ガ發明シタモノデハナイト云フコトヲ記憶セネバナリマセヌ、先ツ歴史ノ大體ヲ述ベテ置テ國會ノ組織、權限等ノ具體ノ事ハ次ノ章ニ讓ツテ置キマス

第三章 帝國議會ノ地位

帝國議會ハ憲法上ノ統治機關デアアル、憲法上ノ統治機關ト云フ意味ハ憲法ニ依テ設ケラレタルモノデアアル、其地位ハ法律命令ヲ以テ左右スルコトヲ得ザルモノタルコトヲ意味スル、又之ヲ統治機關デアルト云フハ議會其レ自身ガ權力ヲ有スル主體ニハアラズシテ君主ガ國ヲ統治スル機關トシテ設クルモノデアアルコトヲ意味スル、故ニ我憲法上議會ノ地位ハ憲法上ノ統治機關デアツテ、立法及豫算ノコト

帝國議會
ノ地位

ニ參與スルモノデアルト云フノデアリマス、此意味ヲ尙ホ明瞭ニスル爲ニ數言ヲ附加ヘテ置カウト思フ

議會ハ機關デアアル、人格ヲ有スル團體デハナイ、法人組織ノ團體デハナイ、例バ地方自治體ノ如キハ法人組織ノ團體デアアル、自治體モ國會モ公務ニ參與スルモノデアアルケレドモ其性質ハ大イニ異ナツテ居ル、議會ハ議會トシテ權利義務ヲ有スルモノデナイ、權力ヲ有スルモノデモナイ、裁判所或ハ政府各部ノ如ク國家ノ事務ヲ行フ所デアアル、然レドモ議會ヲ組織スル分子ハ被選人デアアル、故ニ議會ガ大政ニ參與スルハ間接ニ議員タル各個人ガ大政ニ參與スルコト、ナル、此故ニ議會ヲ成ス所ノ議員タル人々ノ意思ノ活動ヲ指シテ議會ノ意思デアルトカ權力デアルトカ權利デアルトカ云フ慣習ヲ爲シ來ツタノデアアル、併シ是ハ政治上ノ用語デアツテ、法律上ノ概念デハナイ、法律上議會トシテ意思ヲ有スルモノデナイ、權利ヲ有スルモノデナイ、通常議會ノ職權トカ職務トカ云フコトヲ言フハ、憲法上議會ガ參與スル政務ノ範圍ヲ指ス言葉デアアル、職權トカ職務トカ云フハ實ハ形容ノ語デアツテ議會ヲ人格アルモノ、如クニ想像シテ政府及裁判所等ト對峙スル關係ニ於テ議會

ノ掌ル事務ノ範圍ヲ指シテ議會ノ職權デアルト云フノデアアル、便宜ノ言葉デアアル法律上人ノ權限ト云フ權利ノ範圍ノ意味デハナイ、法文ニモ亦吾々ノ説明ニモ議會ノ職權ト云フコトヲ用キルガ此意味ニテ之ヲ解セネバナリマセヌ、議會ノ政治上ノ地位ノコトハ純粹ナル法律關係ノ問題デハナイガ、憲法ノ精神ヲ知ル爲ニハ簡略ニ説明ヲ加ヘテ置カウト思フ

議會ト國家トノ關係ニ於テハ或國ニアツテハ國會ヲ以テ最高ノ權カトスル、蓋民主主義ヨリ推シテ國會ハ國民ヲ代表スルモノデアアルカラ國會ガ主權者デアアルト云フ想像ヨリ來ルモノデアラウ、民主國體ニ於テハ是ガ憲法ノ根本的思想トナツテ居ルノデアアル、然レドモ是ハ民主國體ニ於ケル國會ノ地位デアツテ國會ナルモノハ當然ニ何レノ國、何レノ時代ヲ問ハズ斯ノ如キ地位ニ在ルモノト思フテハ誤デアアル、英國ノ國會ノ歴史ヲ見テモ國會ノ國法上ノ地位ハ三タビ變ジテ居ル、初メニハ單純ナル國王ノ諮問府デアツテ大臣ニ諮問スルガ如クニ貴族ノ會議ニ政事ヲ問フクノデアアル、後ニハ君主ト國會トガ相對峙スル様ナ關係トナツタ、而シテ前世紀ノ半頃ニ於テハ國會ノ權カ甚ダ盛デアツテ遂ニハ君主、政府ヨリモ之ガ上ニ

立ツ様ナ強大ナル勢力トナツタノデアアル、我國ニ於テハ歷史上、憲法上君主主權主義ヲ絕對ニ維持シテ居ル、此故ニ國會ノ憲法上ノ地位ハ君主ノ國ヲ統治スルニ參與スル機關ノ一ツタルコトニ在ル、之ヲ以テ憲法上最高ノカトスル政體デハナイ、此事ハ英國風及之ニ倣フ佛蘭西風ノ憲法ニ於ケル國會ノ地位ト我帝國議會ノ地位ト大ニ異ル所デアアルカラ混同シテハナリマセヌ

國會ト國民トノ關係ニ就テハ政治上稱々ナル解釋ガアツテ、之ガ純粹ナル法律論ト混同シテ誤解ヲ招ク處ガ多イ、是レ亦一言辯ゼザルヲ得ヌ、最モ普通ナル觀念ハ國會ハ國民ノ代表デアアルト云フコトデアアル、是ハ政治上ノ意味トシテハ誠ニ其通りデアツテ、吾々モ異議ハナイ、國民ノ希望ヲ政治上ニ表ハス爲ニ國會ト云フ制度ガ設ケラレタノデアアル、去レドモ之ヲ法律論トシテ國民ノ代表デアアルカラ、法理上斯ク斯クノ權利アリ地位アリト云フガ如クニ之ヲ法理論ノ前提トスルハ大ナル誤デアアル、法理論トシテ代表ト云フハ一定ノ意味ガアル、人ト人トノ間ニ於ケル特定ノ法律關係デアツテ第三者ニ向ツテ效果ヲ生ズル代理代表ト云フハ本人ノ爲ニ代ツテ權利ヲ行フノ關係デアアル、國民ト云フモ實ハ漠然タル觀念デアツテ與論

ト云フガ如ク政治語トシテハ意味アレドモ法律語トシテハ個々ノ人ヲ指スカ然
 ラザレバ總テノ國民ヲ指スカニアラザレバ唯漠然國民ト云フ權利ノ主體デハナ
 イ、國會モ亦國會トシテハ法人格ヲ有セヌ故ニ國會ガ國會ヲ代表スルト云フハ權
 利義務ヲ行フソ意味ニハアラズシテ唯國會ノ組織ニ依ル時ハ國民ノ希望ガ稍確
 メ得ラル、ト云フ有様ヲ指スニ過ギナイノデアラシ、例バ或新聞紙ガ輿論ヲ代表
 シテ居ルト云フ話ト同ジコトデアアル、何人モ之ヲ以テ民法或ハ公法ニ云フ代理代
 表ノ法律關係ノアルコト、ハ思ハヌ、歸スル所國民ノ代表ト云フコトハ國民ノ議
 論ヲ成ルベク個々ニ集メテ表ハス制度ト云フ意味デ、法律上權利義務ノ關係ハナ
 イ

帝國議會
ノ構成

第四章 帝國議會ノ構成

帝國議會ハ貴族院及衆議院ノ兩院ヲ以テ成立シテ居ル兩院同時ニ成立スルニア
 ラザレバ議會ヲ成サズ、各院各別ニ議決シテ兩院ノ議決ガ一致スル時ニ於テ之ヲ
 帝國議會ノ議定ト稱スルノデアリマス、我國ハ斯ノ如ク兩院制度ヲ採ツテ居ル、議
 會ハ歷史上ニ一院ナルコトアリ或ハ三局部ニ分レタ例モアル、之ハ皆歷史上若ハ便

宜上斯クナリシモノデアアル絶對ニ一院ガ可ナリヤ兩院ガ可ナリヤト云フ利害ノ
 明白ナルモノモナイノデアリマス、唯我憲法ハ歷史上、政治上ノ便宜トニ見テ二院
 制度ヲ採ツタノデアラウ、二院制度ハ素ト歐羅巴ノ社會狀態ニ基テ起ツタ、歐羅巴
 ノ極ク舊キ未開ノ時代ノ國會ハ素ヨリ國民ノ總會デアツテ二局部ニ分ル、ナド
 ト云フコトハナイ、然レド今ノ國會ハ歐羅巴中世ノ封建時代ノ制度ノ餘波ニ出デ
 テ居ル中古封建時代ニハ諸侯ガ勢力ヲ有シタ又諸侯ノ下ニ貴族アツテ社會ノ勢
 カヲ占メテ居ツタ、此故ニ國會ト云フモ實ハ貴族、大地主即チ大名ノ寄合デアアル、平
 民即チ小作人ハ一切與ラナカツタノデアアル、當時商業、工業ハ未ダ發達シテ居ラヌ
 カラ平民ト云ヘバ唯農業若ハ其他ノ勞働ニ從事スルモノデアアル、貴族トハ大地主
 デアル、大名諸侯デアアル、其間ノ地位ガ甚ダ懸隔シテ居ツタカラ國會ト云フモ唯貴
 族ノ會合デアツタ、然ルニ後ニ商業ガ發達シ又平民階級ガ財產知識ニ於テ發達シ
 テ來テ所謂中等社會ガ出來テ來タ、是等ノ者ガ勢ヲ成スニ至ツテ貴族ノ下ニ附イ
 テ政治ニ參與スルコト、ナリ遂ニ國會ノ會員組織ガ分レタ譯デアアル、英國ノ歴史
 ヲ見レハ元ハ貴族ノミノ團體デアツタガ、貴族ト國王トノ軋轢ノ結果、貴族ガ平民

ヲ自己ノ味方ニ誘フテ平民ト共ニ手ヲ携ヘテ國王ニ對抗シタ、併シナガラ當時尙ホ封建ノ時代デアツテ貴族ト平民トガ同列ニ事ヲ議スルハ身分ノ差アツテ憚ル所アルカラ貴族ハ貴族ニテ會合シ、平民ハ平民ニテ會合シタ是ガ國會ガ上下兩院ニ分レタル偶然ノ原因デアアル、近頃ニ至リ亞米利加及歐羅巴大陸諸國ニ於テ英國ニ倣フテ國會ヲ設クルニ付イテ英國ノ如キ歴史ハナケレドモ英國ノ制度ガ模範ヲ爲シテ國會ハ上下兩院ニ分レルコトガ普通ノ例トナツタノデアアル、兩院制度ノ政治上ノ便宜ヨリ言ヘバ、第一ニハ議會ガ二局部ニ分ル、トキハ一院ノ跋扈ハ他ノ一院ノ勢力ニテ壓ヘ上下兩院相節制スルノ便益ガアル、併シ之ト同時ニ相軋轢シテ國務ノ滯滞スル弊ハ伴フ、又第二ニハ兩院制度ニ依ルトキハ法律及豫算ノ議定ハ一院ニ於ケル一氣呵成ノ輕卒ナル議決ヲ以テ議定スルコトヲ防グ、同ジ事ヲ二度審査スルカラ誤ヲ正シ、事ヲ鄭重ニスルノ利益ガアル、併シ之ト同時ニ一院ハ通過シテモ他ノ院ニ於テ拒マル、ト云フコトガアルカラ總テ議案ノ成立ハ困難トナルノデアアル、第三ニハ社會ノ狀態ガ兩院制度ヲ要求スルモノデアアル、若シモ國ニ歴史モナク又甚ダシキ貧富ノ懸隔モナク社會上人民ガ平等デアツタナラバ必

ズシモ兩院ヲ設ケル必要ハナイデモアラウ、去レド歴史アル舊キ社會ニ於テハ人ノ社會ニ於ケル勢力ハ其人ノ地位、聲望、財産、知識其他種々ナル點ニ於テ大ナル差異ガアル、唯頭數ノミニテハ其勢力ヲ眞實ニ寫シ出スコトガ出來ヌ、此故ニ國會ノ一院ハ専ラ頭數ヨリ見テ均シク同一ナル均等ヲ主義トシテ一般ノ選舉ニ依ツテ議員ヲ出サシム、又一院ニ於テハ門閥、知識、財産等ノ社會ニ顯著ナルモノヨリシテ其社會ヲ支配スル勢力ノ大ナルニ願ミテ人數ハ少ナクトモ特別ニ是等ノ元素ヲ集メテ議院ヲ構成スル方法ヲ採ル必要ガアル、此故ニ多クノ國ニ於テ兩院制度ヲ採ルノデアリマス、我國ニ於ケル制度モ此趣意ヨリ來リタルノデアアル、是ヨリ貴族院及衆議院ノ組織ノ大體ヲ述ベテ置カウト思フ、貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族、華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス、憲法ハ貴族院ノ組織ニ付テ皇族、華族及勅任ト云フ要素ヲノミ掲ゲテアツテ、其以外ノ細則ハ之ヲ貴族院令ニ讓ツテ居ル、貴族院令ハ勅令デアアル、君主ノ大權ヲ以テ定ムルノデアアル、此點ガ政治上注目スベキ所デアツテ、諸外國ノ例ヲ以テ言ヘバ、貴族院ノ組織モ衆議院ト同ジ様ニ法律ヲ以テ定メルノデアアルガ、我國ニ於テハ之ヲ大權ニ留保シテア

ル、此故ニ衆議院ガ發議シテ貴族院ノ組織ヲ改ムルコトハ出來ナイ、又貴族院自身モ發議シテ之ヲ改ムルコトハ出來ナイ、大權ノ發議ニノミ依ルノデアアル、是ガ貴族院ノ地位ヲシテ衆議院ヨリ獨立セシムル一ツノ原因デアアル、政治上ハ大ナル影響ヲ有スルコトデアリマス、例ハ英國ニ於テハ貴族院ト衆議院ガ衝突スレバ度々衆議院ニ於テ貴族院廢止ノ法律案ヲ提議スル、蓋威嚇スルノデアラウ、日本憲法ニ於テハ斯ノ如キ事ハ出來ナイ、貴族院令ニ依ツテ今ノ貴族院ノ組織ヲ見ルニ左ノ五ツノ種類ノ議員ヲ以テ組織セラレテアル

第一 皇族

第二 公侯爵

第三 伯子男爵各其同爵者中ヨリ選舉セラレタル者

第四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

第五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業、商業ニ付キ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ内ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

以上ノ五ツノ種類ノ議員ヨリ成ル

皇族ハ男子成年ニ達セラレタル時ハ當然ニ議席ニ列セラル、又皇太子、皇太孫ハ滿十八年其他ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トスル、公侯爵ハ滿二十五年ニ達シタル時ハ當然ニ議員トナル、次ニ伯子男爵ヲ有スル者ハ滿二十五年以上デアツテ各其同爵者中ヨリ選舉シテ七箇年ノ任期ヲ以テ議員トナル、次ニ國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ニシテ滿三十歳以上ノ者ノ中ヨリ勅任セラル、トキハ終身議員トナル、次ニ各府縣ニ於テ多額ノ納稅者ヨリ互選スルモノハ年齡滿三十歳以上ノ男子デアツテ其地方ニテ最モ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員トナル、是等ノ事ハ貴族院令ノ條文ヲ參照シテ此講義ヲ補習セラレムニトヲ乞フ、詳シクハ時間ガ許サヌカラ述ベナイ

衆議院ノ組織ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ成ル、選舉法ハ特別ノ法律デアアル、憲法ハ國民ノ公選ト云フ條件ノミヲ定メテ選舉ノ方法ハ選舉法ニ譲ツテ居ル、蓋選舉ノ方法ハ時勢ニ依ツテ變更ヲ要スル故ニ憲法ノ中ニ載セズ、之ヲ普通ノ法律トシタノデアラウ、併シ國民ノ公選ト云フコトハ憲法上動カ

スベカラザル原則トシテ置カナケレバナラヌ

選舉法ノ内容ハ頗ル混入ツテ居ルカラ選舉法ヲ通讀スルコトヲ要スル、此處ニ大體ノ順序ヲ示スニ止マル、併シ此講義ノ順序ニ依リテ現行法律ヲ通讀セラルレハ事理明白デアラウト思フ、細目ハ述ベナイ、説明ノ大綱目ハ

第一ニ選舉人及被選舉人ノ資格ノ事

第二ニ選舉ノ手續

第三ニ選舉ニ關スル訴訟

此三ツノ事ヲ大要述ヘルノデアリマス

第一 選舉人及被選人タルノ資格ノ事ハ選舉法第二章ニ明文ガアル、選舉人タル

ニハ左ノ三ツノ要件ヲ備フルコトヲ要スル

一 帝國臣民タル男子ニシテ滿二十五年以上タルコト

二 選舉人名簿調製ノ期日前滿三年以上其選舉區内ニ住所ヲ有シ仍引續キ有
スル者

三 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上土地租十圓以上又ハ滿二年以上土地租以

外ノ直接國稅十圓以上若ハ地租ト其他ノ直接國稅トヲ通シテ十圓以上ヲ納
メ仍引續キ納ムル者

以上ノ三ツノ要件ヲ具備スル者ハ選舉權ヲ有スル、年齢ト住所ト十圓以上ノ納
稅ト云フコト、是ダケガ選舉權ヲ有スルニ必要ナル條件デアアル、又被選人タル
資格ハ帝國臣民タル男子ニシテ年齢滿三十年以上ノ者タルコトヲ要スル、三十
年ト云フ年齢ノ制限ノ外ハ他ニ何等住所、財産ニ就テ制限ガナイ、大體ノ記憶ト
シテハ斯ク簡單ニ言ヒ得ル、併シ之ニ對シ種々ナル例外ハアル、是ハ器械的ノコ
トデアツテ暗誦スル必要ハナイ、選舉法ノ明文ヲ參照スレバ講義ニ代フルコト
ガ出來ル、例バ重キ刑罰ニ處セラレタル者ハ選舉權ガナイトカ、或職業例バ或種
類ノ官吏等ハ選舉權ガナイトカ云フ様ナ類ノコトデアアル、夫等ヨリモ法理上ノ
觀念ヲ了解シテ置イテ賞ヒタイ、茲ニ言フ選舉及被選ノ資格ハ之ヲ權利ト見ル
カ義務ト見ルカ種々見解ハ異ツテ居ル、通常選舉權、被選舉權ト稱へ來ツテ居ル
蓋權利ノ意味デアラウ、併シナガラ之ヲ權利ト云フモ私ノ權利ノ意味トハ大イ
ニ異ツテ居ル、私法上ノ權利ノ事ハ無論言フマデモナク之ト性質ヲ異ニシテ居

ルガ公法上ノ權利デアツテモ、實ハ自己ノ利益ノ爲ニ與ヘラレタルモノデアツテ、自己ノ自由意思ニテ之ヲ主張スルコトヲ許サル、ト云フガ權利ノ權利タル本質デアアル、公法、私法ヲ通シテノ性質デアアル、例ハ營業權トカ云フ様ナモノ或ハ言論ノ自由トカ結社ノ自由トカ云フ様ナモノ皆公法上ノ權利デアアル、自己ノ利益ノ爲ニ營業シ或ハ結社ハ利益ヲ目的トスルノデアツテ之ヲ利用スルト否トハ本人ノ自由ノ意思ニ在ル、然ルニ選舉投票トカ云フコトハ本人ノ利益ノ爲ニ法律ガ與ヘタモノデアハナイ、國家ノ公ノ機關ヲ組織スル爲ニ之ヲ與ヘタノデアアル恰モ軍隊ヲ組織スル必要カラ強制シテ人ヲ募ルガ如ク、國會ヲ組織スル必要カラシテ選舉投票ヲセシムルノデアアル、選舉人自身ノ私ノ利益ノ爲ニ行フノデアハナイ、公ノ目的ノ爲ニ之ヲ行フノデアアル、此故ニ選舉權若ハ被選舉權ト云ヒ來ツテハ居ルカ、之ヲ所有權トカ或ハ營業權トカ言論ノ自由トカ集會結社ノ自由トカ云フ様ナ公私ノ權利ト同様ノ性質ノモノト思フテハナリマセヌ、寧ロ性質上義務ニ屬スル、併シナガラ唯現行ノ法律ニ於テハ政府ノ義務ノ様ニ制裁ヲ加ヘテ強制シテ居ラナイ、意ツテ投票ヲ爲サルモ法律カ制裁ヲ加ヘヌト云フノ

デアアル、憲法上國家ハ國民ニ向ツテ投票スベキコトヲ命ジテ居ルノデアアル、性質ハ公ノ務ニ屬スル、唯現行法ハ強制ノ手段ヲ設ケテ居ラヌト云フニ止マル、選舉ト云フコトヲ唯單純ニ權利ト觀念スルトキハ公法及私法上ノ權利ト同一ニ視ル處ガアルカラ、特ニ注意ヲ加ヘテ置ク、殊ニ被選舉權ト云フガ是ハ選舉ニ應ズル資格ガアルト云フ意味デアツテ人ニ選舉シテ貰フコトノ出來得ル權利ガアル意味デアハナイ、被選舉權ハ主張スルコトハ出來ナイ、若シモ幸ニ投票ガ多數デアツタナラバ議員トナリ得ルト云フニ過ギナイノデアアル、商賣ガ成功シタラ金持ニナルト云フ希望ト同ジコトデアアル、之ヲ被選舉權ト云フハ權ノ字ガ餘リ強過ギルノデアアル、誤解ヲ招ク處ガアル

第二 選舉ノ手續ハ左ノ項目ニ依テ順序ヲ逐フテ説明スル

- 一 選舉區及投票區ノ事
- 二 選舉人名簿ノ事
- 三 選舉會及當選人ノ事

大概是等ノ事ヲ述ブレバ選舉ノ法律上ノ手續ガ明瞭デアアル

一「選舉區」ト云フハ衆議院議員ヲ選舉スル爲ニ國內ヲ數多ノ區域ニ分チタルモノデアアル、其區域内ノ選舉人ノ投票ニ依リテ一定ノ數ノ議員ヲ選出セシムルモノデアアル、例バ東京市ハ一選舉區デアツテ若干人ノ議員ヲ選出スルト云フガ如キデアリマス、其選舉區ハ選舉法中ニ別表トシテ定メテアル、選舉區ノ性質ハ唯選舉投票ノ便宜ノ爲ニ設クル區劃タルニ過ギズシテ是ガ自治體又ハ其他ノ人格アル團體ヲ成スモノデハナイ、選舉區ガ議員ヲ出ダスト言ヌハ手短ニ話スニ過ギズシテ法理上議員ガ各個人ノ投票ニ依リテ當選スルノデアアル、選舉區ナルモノガ議員ヲ選ブニモアラズ又選舉區ヲ代表スルモノデモナイ、全ク行政區劃デアアル、恰モ裁判ノ爲ニ裁判所ノ管轄區域アリ、徴兵ノ爲ニ徴兵管區即チ管轄區域アルガ如キト其意味ヲ異ニセザルノデアアル、此事ハ世上ニ誤解ガアル故注意セネバナラヌ、例バ東京市ガ選舉區デアツテ東京市ト云フ自治體ガ議員ヲ選舉スルモノナラバ東京市ノ機關ガアルカラ之ガ當然ニ衆議院ニ列席スレバ満足ナル筈デアアル、例バ市長ガ當然ニ衆議院ニ列席スレバ宜シイ筈デアアル、又ハ市會議員中ヨリ人ヲ選ンデ列席セシムレバ宜シイ

筈デアアル、然ルニ憲法ノ意味ハ東京市ヲ代表セシムルノデハナイ、偶東京ト云フ市區ニ住ンデ居ル人々ノ投票ニ依テ議員ヲ選ビ出ダサシムルト云フノデアアルカラ東京市ガ選舉區デアツテモ市ノ代表以外ニ議員ヲ選バネバナラヌ此例ニテ知ラル、通り、縦令選舉區ガ偶自治體ノ區域ト同一ニ定メラル、トモ自治體其レ自身ガ選舉區タル譯デハナイ

選舉區ノ制度ニ付テハ大選舉區、小選舉區ト云フ區別ヲ爲スコトガ慣例ト爲ツテ居ル、小選舉區トハ一區ヨリ一人ノ議員ヲ出ダス制度デアアル、大選舉區ト云フハ一區ヨリ數個ノ議員ヲ選出セシムル制度デアアル、我國ノ舊選舉法ハ小選舉區主義デアツタガ、現行ノ選舉法ハ大選舉區主義ト爲ツタ大選舉區、小選舉區ノ利害得失ハ頗ル研究ヲ要スル、言フベキ事モ多イガ、併シ是ハ立法問題デアアル茲ニハ憲法解釋トシテハ省テ置ク

「投票區」ト云フハ選舉區内ノ小部分デアアル、大選舉區ハ區域ガ廣イカラ投票人ノ便宜ノ爲ニ之ヲ數多ノ投票區域ニ細分シテ選舉ヲ行フ、是ハ全ク器械的ノ便宜ノ設備デアツテ投票ノ結果ニハ何等影響ヲ生ゼヌ、例バ東京市ガ選舉區

デアルガ、選舉人ノ便宜ノ爲ニ神田ノ區役所ニ於テモ麻布ノ區役所ニ於テモ數多ノ場所ニ投票所ヲ設ケ置クト云フニ過ギナイ、例バ神田區ガ一投票區デアルカラト云フテ神田區選舉人ヨリ一人ノ議員ヲ出ダスト云フ意味デハナイ、各投票區ニテ集マリタル投票ヲ選舉區ノ中央ニ集メテ計算スルノデアリ投票ノ計算ノ場合ニハ投票區ナルモノハ眼中ニハ置カナイ

二 〔選舉人名簿〕ト云フハ選舉人タル資格アル者ノ姓名ヲ記シタル帳簿デアル各市町村長ハ毎年十月一日ノ現在ノ狀況ニ基キ其市町村内ニ住所ヲ有スル選舉資格アル者ヲ調ベテ之ヲ帳簿ニ記入スル、是ガ選舉人名簿デアル、此名簿ヲ一定ノ期間(通常十五日間)公衆ノ縦覽ニ供スル、之ヲ名簿ノ縦覽期間ト稱スル、其縦覽期間中ニハ選舉人ハ自由ニ之ヲ見テ自己ノ事又ハ他人ノ事ニ付テモ其名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ名簿ノ訂正ヲ申立ツルコトヲ得ル、縦覽期間ヲ過グレバ申立ラスルコトガ出來ヌ、故ニ其期間ヲ過グレバ名簿ハ確定ト爲ル、之ヲ確定名簿ト稱ヘテ居ル、名簿ノ訂正ノ申立ハ行政廳ニ申立テ、其裁決ヲ仰ギ、不服ナルトキハ更ニ裁判所ニ訴ヘテ判決ヲ求

ムルコトヲ得ル、是等ノ細カイ手續ハ選舉法ノ參照ヲ要スル、名簿ノ確定タル效力ハ頗ル重キモノデアル、選舉ノ日ニ於テ此名簿ニ記載セラレタル者ニアラザレバ投票ヲ爲スコトヲ得ズ、縦合實際ハ選舉權アル者デアツテモ名簿ニ姓名ガナキトキハ投票ヲ許サレス、是ニ反シテ名簿確定ノトキニハ選舉資格ガアツタガ、其後ニ之ヲ失ヒタル者ハ名簿ニ記載アリト云フ理由ノミデアリ投票ヲ許サレザルノデアル、確定名簿ノ效力ハ排斥的ニ在ル、選舉權アル者モ名簿ニ照シテ記載ナキトハ排斥スル、又縦合名簿ニ記載セラレテアル者ト雖モ資格ノナキ者ハ亦排斥スル、但裁判所ノ判決ヲ示シテ資格アルコトヲ證明スル者ハ名簿ニ記載ナキト雖モ投票ヲ許スコトハアル、其外ノ事ニ於テハ一切許サヌ、其レガ選舉人名簿ノ必要ナル所以デアリ又效力ノ重キ所デアル

三 選舉及當選ノコトニ付テハ先ヅ投票ハ何デアルカヲ是ヨリ説明スル

〔投票〕トハ衆議院議員トスベキ人ノ姓名ヲ記シテ之ヲ投票函ニ投入スルノ行爲デアル、〔選舉〕ト云フハ投票ノ結果ヲ指スコトデアル、通俗ニハ我々個人的ニ人ヲ選舉スルト言フナレドモ實ハ我々個人的ニハ投票スルノミデアツテ選

舉ハ投票ノ結果ヲ指スノデアル、選舉ノ爲ニ投票ヲ行フノデアル、選舉ハ豫メ期日ヲ定メテ勅令ヲ以テ之ヲ發布スル、其期日ニ於テ全國同時ニ投票スルコトヲ原則トシテ居ル、縱令事實上同時ニハ行ハレザルコトモアルガ、併シ法律ノ原則ハ全國同時ニ投票スルコトヲ意味シテ居ツテ、投票トハ唯議員タルニ適當ナル人ヲ指名スルコトニ止マル、投票者ト投票ニ記載セラレタル人トノ間ニハ投票ニ因テ何等ノ法律關係ハ生ゼヌ、投票ト云フ行爲ハ國民ガ法律ノ命スル所ニ依テ公ノ務ヲ行フノデアツテ自己ノ利益ノ爲ニ權利ヲ行フノデハナイ、投票ハ性質上法律上ノ義務デアル、但現行選舉法ニ於テ投票ヲ爲サザル者ニ向ツテ之ヲ強制スルノ手續ヲ執ラザルノミデアル、是ニ關シテモ投票ノ事ヲ少シク詳シク述ブル必要ガアル、憲法ノ誤解ハ多ク此點ニ存スル

元來投票ニハ自由投票ノ制度ト強制投票ノ制度トノ二ツガアル、強制投票トハ刑罰制裁ヲ加ヘテ之ヲ強制シテ投票セシムル制度デアル、自由投票トハ投票ヲ爲サザルモ之ヲ制裁セズ自由ニ任セ置ク制度デアル、我選舉法ハ自由投票ノ制度デアル、之ヲ強制スル規定ガナイ、併シナガラ其性質ハ國民ノ公ノ義務

務ノ一デアル、憲法上ノ機關ノ組織ヲ國民ノ投票ニ依頼シタルモノデアル、後ノ國民ガ其依頼ニ背キ投票ヲ爲サザルナラバ憲法上ノ機關ハ成立セヌ、從テ憲法ハ働カヌ、斯ノ如ク重キモノデアル、何ガ故ニ之ヲ強制セザルカハ唯現今ノ事情ニ於テ強制セズトモ多數ノ人ガ投票スル勢ヒデアルカラ刑罰制裁ヲ加フル必要ガナイト云フニ過ギナイノデアル、其レガ自由投票ト強制投票ノ區別デアル

次ニハ投票ニ單記投票ト連記投票トノ區別ガアル、單記投票トハ一人ガ一票ヲ投ズルノデアル、即チ一人ガ一人ヲ選舉スルノデアル、連記投票トハ一人ガ五人トカ十人トカ云フ如ク數名ノ議員ヲ投票スル制度デアル、我現行法ハ單記投票ノ制デアル、縱令一選舉區カラ十人ノ議員ヲ選出スル場合デアツテモ各選舉人ハ一人ノ議員ヲ指名スルノデアル、各人ガ十名ノ候補者ヲ投票スル譯デハナイ、是ガ我制度特色ノ一ツデアル、歐羅巴諸國ノ選舉法ハ多ク連記投票デアアル、所謂大選舉區デアツテ連記投票ノ制度デアル、是ガ大政黨ニハ都合ノ好キモノデアルガ、從テ大政黨ノミ跋扈スル弊ヲ招ク、我選舉法ハ其弊ニ願

ミテ單記投票ノ制度ヲ採ツテ居ルノデアル
 又投票ニハ祕密投票ト記名投票トノ區別ガアル、祕密投票トハ投票者自身ノ
 氏名ヲ投票用紙ニ記入セザル制度デアル、記名投票トハ投票者ノ氏名ヲ投票
 用紙ニ記入スルモノデアル、記名、無記名ノ利害得失ハ種々議論モアルコトデ
 アルガ、若シモ條理ノミヨリ言ヘバ記名投票ノ制度ガ最モ望マシイノデアル、
 何人ガ何人ニ投票シタト云フコトガ明デアル、公明正大デアル、後ニ投票ノ有
 效無效ヲ審査スル場合ニ正確ニ吟味ガ出來ル、祕密投票ハ不正確デアル、公明
 正大ヲ缺ク、若シモ人間ガ正直デアリ勇氣ガアツテ賄賂請託等ノ爲ニ節操ヲ
 枉グルト云フコトガナイモノト見タナラバ記名投票ガ最モ宜シイ、併シ悲ヒ
 コトニハ多數ノ人ハ賄賂請託ニ依テ動キ或ハ他人ニ怨ヲ買フコトヲ甚ダシ
 ク恐レル、此故ニ眞實ノ意思ハ祕密投票ニ依テ表ハル、ノデアツテ、現今ノ人
 間ノ薄弱ナル節操ヨリ觀レバ寧ロ無記名即チ祕密投票ガ各人ノ本來ノ意思
 ヲ表白スルニ適スル、是ヲ以テ我選舉法ニ於テハ祕密投票ノ制度ヲ採用スル
 コトニ爲ツタ

投票終リタルトキハ其投票ヲ開票シテ當選人ヲ決定スル、選舉會ヲ開テ之ヲ
 定ムルノデアリマス、選舉會トハ投票ヲ計算シ、検査シテ當選人ヲ決定スルノ
 會デアアル、各選舉區ニ之ヲ開ク、有效ナル投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選
 人トスル、但選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ
 總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス、其レガ選舉法
 第七十條ノ規定デアツテ必要ナ點デアルカラ原文ヲ参照セラレムコトヲ請
 フ、此規定ノ意味ハ多數投票ヲ得タル者ガ當選スルト云フ主義デハアルガ、投
 票ノ數ガ餘リニ少ナクシテ唯ダ比較的ニ多數ト云フノミニテハ當選トハ爲
 ラス、投票ヲ得ル點數ノ最少限ヲ定ムルノデアアル、少ナクモ此選舉法第七十條
 ノ但書ノ數以上ヲ得タ者ニシテ比較的ニ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
 ルノデアアル、但書ノ意味ハ選舉區内ノ議員ノ定數、例バ五人トカ十人トカ云フ
 數ヲ以テ其選舉區内ノ選舉人ノ數ヲ割ツテ其五分ノ一以上ノ得點ガ必要デ
 アルト云フ意味デアアル、其當選ガ定ツタルトキハ之ヲ本人ニ通知スル、本人ガ
 承諾スルトキハ二十日以内ニ承諾ヲ届出ヅルコトヲ要スル、此期間内ニ届出

デザルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス、是等ノ種々ノ細目ハ選舉法ヲ御覽ナサイ

第三「選舉ニ關スル訴訟」ハ選舉訴訟ト當選訴訟ノ二種類アル、選舉訴訟トハ選舉ノ效力ニ關シテ異議アル選舉人ガ選舉長ヲ被告トシテ控訴院ニ出訴スルモノデアル、選舉ノ手續ガ不法デアツタト云フ意味ニテ選舉手續ヲ無効ニセントスルノ訴訟デアアル、故ニ選舉長ヲ相手取ル、當選訴訟ト云フハ當選ヲ失ヒタル者、例ハ次點者ガ當選ノ效力ニ關シ異議ヲ唱ヘテ當選人ヲ被告トシテ控訴院ニ出訴スルモノデアアル、選舉手續ヲ攻撃スルノデハナイ、投票ノ計算、或ハ資格等ノ點ヨリシテ彼レガ當選人デナイ、我レガ當選人デアアルト云フコトヲ主張スル訴デアアル、是ハ控訴院ニ於テ裁判スル

以上ノ説明ニテ概略選舉手續ノ法律上ノ要點ガ示サレテアル、其以上ノ細目ハ選舉法及選舉法施行規則等ニ就テ各補充スルコトヲ要スル
以上ハ貴族院及衆議院ノ公選ノ如何ヲ述ベタ、是ヨリ帝國議會全體トシテ如何ニ成立シ如何ニ行動スルカノ點ヲ述ブル

凡ソ議會ヲ召集シ其開會、閉會、停會及衆議院ノ解散ヲ命スルハ君主ノ大權ニ屬シテ居リマス、君主ガ專斷シテ行フ事項デアアルト云フ意味デアアル、召集ト云フハ一定ノ時日ト場所トヲ指シ示シテ兩院ノ議員各箇ヲ呼ビ集ムルコトデアアル、召集ノ勅命ハ開會前少クモ四十日前ニ公布スルコトヲ要スル、尤モ臨時召集ノ場合ニハ必ズシモ此期間ニ依ラナイ、議會ハ毎年召集スル、必要アラバ更ニ臨時議會ヲ開ク、通常會ハ三箇月ヲ會期トスル、必要アラバ延長スルコトヲ得ル、開會ハ成立シタル議會ニ對シ其權限ヲ行フ行動ノ始期ヲ示スコトデアアル、開會ヲ命スルト云フハ議會ノ憲法上ノ行動ヲ始ムル期日ヲ定ムルコトデアアル、閉會ヲ命スルト云フハ其反對デアアル、議會トシテノ行動ノ終ノ期日ヲ命スルノデアアル、停會ト云フハ會期中ニ在ツテ一時議事ヲ中止セシムルノデアアル、議會ノ成立ヲ解クニハアラズシテ議會ノ行動ヲ一時停止スルノデアアル、解散トハ衆議院議員ノ資格ヲ滿期前ニ全員同時ニ解クコトデアアル、各員ノ資格ヲ同時ニ解クカラ衆議院其モノ、成立ガ當然ニ滅失スル、凡テ開會、閉會、停會及解散ハ共ニ君主ノ大權デアアル、勅命ニ依ルニ非ザレバ行フコトヲ得ズ、議院自ラ決議シテ之ヲ行フコトヲ得ザルノデアアル、解散ト云フコト

ハ衆議院ノミニ對シテ行フノデアツテ貴族院ニ對スル解散ハナイ、又如何ナル場合ニ解散ヲ行フカト云フコトハ政策ノ問題デアル、法理上ハ何時ニテモ之ヲ行フコトヲ得ル、別ニ理由ヲ示ス必要ハナイ、

貴衆兩院ニ於テ各議長、副議長アツテ議場ヲ整理シテ居ル、又委員ガアル、常任委員及特別委員又ハ全院委員ノ三種類ガアル、全院委員トハ議員全體ヲ以テ委員トスルノデアアル、常任委員トハ每會期豫メ種類ヲ定メテ之ヲ置クノデアアル、例ハ豫算委員トカ資格審査委員トカ云フ類デアアル、特別委員トハ特別ノ問題、例ハ或法律案ヲ審査スル爲ニ之ヲ置クノデアアル、

議院ノ議事ハ公開ヲ原則トシ政府ノ要求アリ又ハ議院自身ノ決議ヲ以テ秘密會トスルコトヲ得ル、

凡ソ議事ハ多數決ヲ以テ決スル、此多數決ト云フコトハ法律ノ規定ニ依テ多數決ガ效力ヲ生ズルノデアツテ當然ニ多數ガ少數ヨリモ優ルト云フ條理ノ問題デハナイ、或ハ能ク通俗ニハ人ガ集ツテ會議スレバ多數決ガ少數ヲ束縛スルコトヲ以テ當然ノ條理ノコトノ様ニ考ヘル弊ガアルガ、決シテ然ルモノデハナイ、議院ノ議

事ノ場合ニ於テハ法律ノ明文アルカラ多數決ガ效力ヲ生ズルノデアアル、凡ソ議會ノ議事ニハ國務大臣及政府委員ガ何時ニテモ出席シテ發言スルコトヲ得ル、此事ハ政治上頗ル重大ナ事デアアル、英國憲法ノ精神ニテハ議員ニアラザレバ國務大臣ハ議會ニ出席スルコトガ出來ヌ、此故ニ内閣大臣ハ上下兩院中ヨリ選バネバナラヌト云フ慣例ヲ餘儀ナクスルコトデアアル、又米國風ハ國務大臣ガ議院ニ出席スルコトヲ絕對ニ禁ズル、此故ニ議員タル人ガ大臣ト爲ルトキニハ議員ヲ辭サネバナラヌ、英國ト正反對デアアル、我日本ノ制度ハ國務大臣ハ國務大臣トシテ上下兩院ニ何時ニテモ出席シテ發言スルコトガ出來ル、又大臣ハ議員ヲ兼スルコトヲ妨ゲナイ、是等ノ事ハ憲法上頗ル重大ナ結果ヲ生ズル、故ニ我國及獨逸等ノ制度ニ於テハ實際内閣大臣ハ必ズシモ上下兩院ノ人ヲ用ユル必要ガナイ、適任者ヲ其以外ニ選ブ自由ガアル、此關係ノ異ナル爲ニ英國ニ於テハ所謂議員内閣制度ヲ必要トスル、我國ニ於テハ議院ニ關ハラズ大權内閣ノ組織ヲ採ルコトガ出來ル、頗ル重要ナル差異ヲ生ズルノデアリマス、

是デ仕舞ヒノ説明ガ少々省略デアルケレドモ如何ニモ講義ガ遅レテ居ルカラ仕

方ナイ、今ノ帝國議會トシテノ行動ノ事、開會、閉會、停會、解散等ノ事、議事ノ事、委員ノ事、其他ノ事ハ議院法ノ正文ヲ一度讀ンデ御置キニナラナケレバ分リマセス、ソレハ議院法ノ正文ニ讓ツテ置ク

帝國議會
ノ職權

第五章 帝國議會ノ職權

帝國議會ハ憲法上ノ機關デアツテ立法及豫算ノコトニ參與スルモノデアアル、憲法上ノ機關ト云フ意味ハ既ニ述ベテアル通り、國家ガ統治權ヲ行使スル機關デアアル機關其レ自身ガ人格ヲ有シ權利若ハ權力ヲ有スルモノデハナイ、故ニ憲法上ノ機關ノ職權ト云フハ實ハ形容ノ語デアツテ權利アリ若ハ權力アルコトヲ意味スルノデハナクシテ機關ニ依テ行ハル、ノ政務ノ範圍ヲ指ス言葉デアアル、機關ノ職權ト云フハ議會ト云フ機關ニ依テ行ハル、國家事務ノ範圍ヲ指スノデアリマス、何故ニ之ヲ職權トカ權限トカ云フカ、其精神ハ各機關各、掌ル所ガアツテ相對峙スルコト尙ホ各個人ガ各、權利ヲ有ツテ相對峙スルト同様ナ有様ニ在ルカラデアアル且ハ又議會ノ權限ハ議會ヲ組織スル議員自然人ノ意思ニ依テ行ハル、此故ニ議會ヲ組織スル人ノ立場ヨリ觀ルトキハ議會ニテ行フベキ事務ガ即チ其人ノ權力ノ

範圍ナルガ如ク見ラル、此故ニ便宜上機關ノ權限トカ職權トカ云フ語ヲ用ユルニ至ツタノデアアル

帝國議會ノ職權ノ實質ハ立法ニ參與スルコト及豫算ヲ議定スルコトデアアル、先ヅ立法參與ノ事カラ説明シマセウ

第一 憲法ニ「天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ」トアル、又憲法ニ「凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス」トアル、立法權ハ議會ノ協贊ヲ以テ行フト云フハ凡ソ法律ヲ制定スルニハ議會ノ議決ヲ要スルノ意味デアアル、法律トハ國家ガ法則ヲ發表スル特殊ノ形式デアアル、我憲法上法律ト法律ノ内容タル法則トハ別ノ觀念デアアル、佛蘭西風ノ憲法ニ於テハ之ヲ混同シテ居ル、凡ソ法律ハ議會ノ協贊ヲ要スト云フコトヲ彼レニ於テハ凡ソ法則ヲ定ムルハ議會ノ議決ヲ要スルト解シテ居ル、法則ヲ定ムルトハ人ノ權利義務ノ準則ヲ定ムルノ意味デアリマス、我憲法ニ謂フ法律ハ勅令若ハ詔勅ト云フガ如ク國家意思ヲ表示スルノ形式ノ名稱デアアル、法律ハ法則ヲ定ムル爲ニ用ユル器デアアルガ、併シ法律ノミガ法則ヲ定ムルモノデハナイ、勅令ヲ以テモ之ヲ定メ得ル、是ガ我憲法ノ解釋デアリ

マス、法則ハ廣ク實質上人ノ自由ヲ制限シ權利義務ノ準則ヲ指スコトデアアル、法律ハ法則ヲ定ムル、併シ法律ノミガ法則ヲ定ムルノデハナイ、勅令モ亦之ヲ定ムル、此點ガ法律ノ觀念及國會ノ立法權限ニ付テ主義トシテ根本的ニ佛蘭西風ト我國ト異ナル點デアリマス、議會ガ立法ニ協賛スルト云フハ手續ヨリ言ヘハ法律案ヲ議定スルコトデアアル、法律ヲ法律トシテ之ヲ國法トスルノ最終ノ決定ハ大權ノ裁可ニ在ル、議會ハ立法ノ手續ニ參與スルノデアアル、議會自身ガ立法スルノデハナイ、此事モ亦佛蘭西風ノ憲法トハ主義精神ヲ異ニシテ居ル、彼レノ法理ニ於テハ國會ガ立法スル、大統領トカ君主トカハ國會ノ立法ニ對シテ之ヲ否認スル權ヲ有スルニ止マル、立法者ハ國會デアアル、國ノ元首ハ國會ノ立法行為ヲ外部ヨリ妨ゲル權力アルモノト見ルノデアアル、我國ノ國會ノ地位ハ之ト異ツテ居ツテ國會ハ法律案ヲ議定スル、國會ノ議定シタル所ハ尙ホ案デアツテ法律其モノデハナイ、之ヲ大權ヲ以テ裁可スルニ依テ始テ國法タル效力ヲ生ズルノデアリマス、然レドモ議會ガ法律案ヲ議定スルハ唯事務官ガ法律案ヲ起草スル事トバ違ツテ憲法上ノ價が大ニ異ナル、議會ノ草案ニ依ルニ非ザレハ君主ハ立法ス

ルコトガ出來ヌ、是ガ立法ニ參與スルト云フ所以デアアル、例バ各省ガ法律案ヲ調製スルノハ憲法上立法權ニ參與スルノデハナイ、憲法上之ヲ認メザルノデアアル、憲法上法律案ト云フハ特殊ノ效力アルモノデアツテ之ニ裁可ヲ加フレバ法律ト爲リ得ルモノデアアル、又之ニ依ルニ非ザレハ裁可ヲ爲スベカラザルモノデアアル、此故ニ議會ガ立法ニ參與スルハ憲法上立法權ノ行動ニ携ルモノト見ラル、ノデアリマス、議會ハ如何ナル手續ヲ以テ法律ヲ議定スルカ、此問題ハ議會ノ立法手續ノ問題デアアルガ、便宜上次ノ編ニ「法律」ト云フ章ニ於テ立法ノ手續ヲ述ブルコト、スル、故ニ此章ニハ之ヲ省テ置キマス

第二 議會ハ國家ノ歲計豫算ヲ定ムルコトニ協賛スル職權ヲ有スル、憲法第六十四條ニ「國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ」ト定メテアル、豫算ト云フハ一會計年度ニ向フテノ國家ノ歲入歲出ノ見積計算デアリマス、財政及會計上ノ便法トシテ出入相計ツテ其平均ヲ保ツコトヲ必要トスルハ言フマデモナイコトデアアル、歲計豫算ハ唯國家ノ財政事務ノ都合上ヨリ觀レハ必然ニ緊要ナルコトデアアル、併シナガラ立憲政體ニ於テハ唯財政上ノ便宜ノ爲ニ

之ヲ設クルト云フノミナラズ、政府ハ議會ノ承認ヲ經テ之ニ據リテ國庫金ノ出納ヲ爲スト云フコトヲ主義トシテ居ル、豫算制度ハ固ヨリ財政ノ便法ニ出デタルノデアアルガ、立憲政體ニ於テハ政治上政府ガ國庫金ノ出納ヲ爲スニ付テ權力濫用ヲ防ク意味ニテ、政府ヲ監督スルノ意味ニ於テ豫算ハ必ス議會ノ協贊ヲ要スルコト、定ムルニ至ツタノデアアル、豫算ノ性質及其效力等ニ至ツテハ是亦別ニ次ノ編ニ特ニ章ヲ設ケテ説明ヲスル、併シ帝國議會ノ豫算議定權ハ特別ノ制限ガアツテ故ラニ注釋ヲ要スル事ガアルカラ其點ハ茲ニ少シ詳ク述ベテ置クデアリマセウ

凡ソ議會ガ法律ヲ議定スルニハ自由デアアル、何トナレバ新タナル法律ヲ以テ前ノ法律ヲ變更スルコトヲ得ルカラデアアル、然ルニ議會ガ豫算ヲ議定スルニ於テハ議定權ガ制限セラル、自由デナイ、法令ヲ變更セザル限ニ於テ豫算ヲ議定スベキモノデアアル、是ガ豫算議定權ニ付テノ制限デアアル、凡テ制限ガ此一點ニ歸著スル、此制限ハ何ニ由テ生ズルカ、豫算其モノ、性質ヨリ生ズル、豫算トハ文字ノ通り、一年度ニ向フテノ國庫ノ出納ノ見積計算デアアル、國庫ノ出納ハ形式上又實

質上法令ニ依テ爲スベキモノデアアル、豫算ハ其性質上法令ノ範圍内ニ於テ法令ヲ執行スルガ爲ニ設クルモノデアアル、此故ニ議會ガ豫算ヲ議定スルニ當ツテハ法令ノ範圍内ニテ之ヲ議定スルノ自由ガアツテ法令ニ牴觸スル豫算ヲ議定スルコトハ越權デアアル、此事ヲ簡略ニ言ヘバ豫算ハ法律ニアラズ、豫算ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ズト云フコト、爲ル、此原則ヲ尙ホ敷衍シテ言フトキハ議會ノ豫算議定權ハ左ノ三ツノ原則ニ依ル

第一、法律命令ニ於テ歳出歳入ノ目的及金額ガ共ニ定マレルモノハ議會之ヲ變更スルコトヲ得ズ、第二、法律命令ハ歳入歳出ノ目的ヲ定ムルモ其金額ヲ定メザルモノハ議會ハ其目的ヲ變更セザル限リニ於テ其金額ヲ議定スル、第三、目的及金額二ツノモノ共ニ未ダ法律又ハ命令ニテ定マラザルモノハ議會ハ其目的ノ必要如何ヲ審査シ其金額ニ付キ自由ニ議定スル

是ガ議定權ノ原則デアアル、歳出歳入ノ事柄ト金額ト法律命令ノ規定上當然ニ定ツテ居ルモノハ豫算ヲ以テ變更スルコトハ出來ナイ、豫算ハ法律又ハ命令ニアラズ故ニ法令ハ法令ヲ以テノミ變更シ得ベキモノデアアル、豫算ヲ以テ變更スル

コトハ出來ナイ、此故ニ議會ハ法令ノ結果タラザル場合ニ於テノミ議決ヲ爲ス自由ガアルノデアリマス、第一ノ原則ノ場合ハ法令ニ於テ目的モ金額モ定ツテ居ルコトモアル、縦シ金額ガ明言シテナクトモ法令ヨリ割出セバ當然ニ必要ナル金額ノ定マルコトモアル、斯ノ如キモノニ付テハ議會ハ之ヲ動カスコトハ出來ス、之ハ一部分デアル、

第二ノ原則ノ場合ガ頗ル多イ、例バ文部省ヲ置クトカ或ハ陸海軍ヲ置クトカ云事ハ動カスベカラザルノデアアルガ、一年度ニ幾許ノ金ヲ以テ之ヲ維持シ得ベキカハ問題デアル、法令ガ直接ニ定メテ居ラス、此場合ニハ例バ豫算ヲ以テ文部省ヲ廢スト云フコトハ出來ナイ、併シ經費ノ多少ハ自由ニ増減スルコトヲ得ル、是ガ通常ノ行政費ニ付テノ場合デアアル、第三ノ場合ハ全ク自由デアアル、法令ニ何等ノ關係ナク、唯將來ノ見込トシテ某ノ場所ニ港ヲ築クトカ或ハ鐵道ヲ敷クトカ云フ様ナ計畫ガアル、此場合ハ常ニ金額ノ多少ヲ論ジ得ルノミナラズ、其事柄ヲ全然否決スルコトモ出來ル、是ガ自由決ノ場合デアリマス、

右ノ原則上ノ議決權ノ制限ハ憲法ノ明文ヲ竣タズトモ豫算ト法令トノ論理上

ノ關係ニテ當然ニ生ズル制限デアアル、其以外ニ憲法ノ明文ヲ以テ特別ニ制限ヲ示シテアルコトガアル、例バ皇室經費ハ毎年議決ヲ要セスト云フ如キコトデアアル、而シテ其最モ説明ヲ要スルハ憲法第六十七條デアアル、其法文ニ「憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得スト」アル、之ハ前ニ話シタ通り、法律ト豫算トノ性質ノ差異ヨリ生ズル議定權ノ制限デアアルガ、憲法ノ特別明文ヲ以テ特ニ之ヲ示シタノデアアル、前ニ述べタル原則以上ニ更ニ附加ヘテヨリ多クノ制限ヲ示シタノデアアル、此法文ヲ註釋シテ置キマセウ「憲法上ノ大權」トハ憲法ニ列記シテ特ニ君主ノ親裁專斷ニ屬スベキコトヲ示シタル事項ヲ指スノデアリマス、憲法第一章ニ列記セル事項ノ如キデアアル、此精密ナル解釋ハ次ノ編ニ述ブル「憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出」ト云フ意味ハ前年度ノ豫算ニテ既ニ定マレル金額ヲ指スノデアアル、憲法上ノ大權ニ基ツケル歳出ト雖モ新ニ今年見積ルモノハ此條ノ保障ノ外ニ在ル、前年度ノ豫算ニテ既ニ定ツテ居ル費用ハ議會之ヲ自由ニ動カスコトハ出來スト云フノデアアル、

又次ノ「法律ノ結果ニ由ル歳出」トハ法律ノ直接ニ定ムル歳出、即チ法律ガ金額ヲ示セル歳出ハ無論ノコト、法律ヲ執行スルニ必然ニ之ニ伴フノ歳出ヲモ含ム意味デア、必然ニ之ニ伴フト云フハ此費用ナクシテハ此法律ガ效力ヲ全ウセヌト云フ費用デア、法律ガ金額ヲ示シテ居ル場合ハ明白デア、茲ニ謂フ必然ニ伴フ費用ト云フコトハ論理上明白デア、ケレドモ事實上ハ不明デア、然レドモ論理上斯ク解セシバナラヌト思フ

次ノ「法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出」ト云フハ普通ノ財産法上ニ謂フ政府ノ金銭債務ヲ指スノデア、法律上政府ノ債務ニ屬スルモノハ議會ガ自由ニ廢除、削減スルコトハ出來ヌト云フ意味デア、是ハ即チ法律ノ結果デア、例バ公債ノ利子ノ如キ或ハ政府ノ契約上ノ義務ノ如キデア

凡テ是等ノモノハ政府ノ同意ナクシテハ議會ハ廢除、削減スルコトヲ得ナイ、斯ク言ヘバ政府ガ同意サヘ與フレバ絕對ニ廢除、削減スルコトガ出來ルカノ様ニ見ユルガ、憲法ノ意ハ決シテサウデナイ、政府ノ同意ハ唯法令ニ抵觸セザル限りニ於テ政府ノ同意ヲ與ヘ得ルノデア、然ラバ何故ニ此規定ガアルカ、之ハ辯ニ

考ヘテ見レバ實際甚ダ意味ノアルコトデア、議會ノ議定ハ是等ノ費目ニ付テ政府ノ同意ナクシテハ議決ガ成立タヌト云フノデア、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ原案ガ生キテ居ルト云フ意味デア、豫算ハ毎年新ニスルモノデア、カラ豫算ノ總テノ部分ガ積極的ニ新ニ多數決ヲ得ルニアラザレバ成立セザルノデア、然ルニ此憲法第六十七條ノ場合ニ於テハ議會ガ積極的ニ議決セズトモ當然ニ原案ハ議定セラレタルモノト同様ノ效力ヲ有スルト云フ意味デア、若シ之ヲ變更セントナラバ政府ノ同意ヲ要スル、特別ノ議定ヲ要スル、是ガ非常ノ強味デア、ツテ豫算原案ノ強味デア、豫算ノ成立ニ付テ有力ナル便法デア、政治上此便宜ノ爲ニ第六十七條ノ規定ガアル譯デア、

憲法第六十四條第二項ニ「豫算ノ款項ニ超過シ、又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス」トアル、豫算ハ行政官ニ向フテ束縛ノ效力ヲ有スル、然レドモ法令ノ執行上又ハ國家ノ目的ヲ達スル爲ニ豫算以外ノ費用ノ必要ヲ見ルコトガアル、此場合ニハ政府ハ止ムヲ得ズ豫算ニ超過シ又ハ豫算外ニ金銭ヲ支出セザルヲ得ザルコトガアル、此場合ニハ後日帝國議會

ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要スト云フノデアル、是ガ所謂豫算ニ付テノ事後ノ承諾
 デアル、事後承諾ノ意味ハ議會ガ豫算ヲ議定スルニ當ツテ後トヨリ議決ヲ追加
 スルコト、同様ノ結果ヲ見ル、行政官吏ノ會計上ノ責任ニ於テ左様見ル、豫算ノ
 議定内ニテ爲シタル行爲ハ責任ヲ免ル、豫算議定ノ以外ニ於テ爲シタル行爲
 ハ責任ヲ生ズル、故ニ責任ヲ解除スル意味ニテ豫算ニ對スル事後ノ追認ト云フ
 コトガ定メラレテアルノデアル、是ガ立法上ノ精神デアル、併シナガラ此追認ト
 云ヒ承諾ト云フコトニ付テハ日本憲法ノ意味ト佛蘭西風ノ憲法ノ意味トハ政
 治上ノ意味ガ大ニ異ツテ居ル、彼レニ在ツテ大臣ハ議會ニ對シテ責任ヲ負フモ
 ノデアルトスル政體ノ國ニ於テハ豫算ニ對スル事後ノ承諾ハ大臣ガ議會ニ對
 スル責任ヲ問フ方法デアル、我國ニ於テハ行政官ノ會計上ノ責任ハ先ヅ會計檢
 査院ニ向ツテ之ヲ有スル、豫算ハ會計検査ノ基礎ヲ成スノデアル、豫算ニ適合セ
 ル收入支出ハ正常ナルモノト見ラル、豫算ニ據ラザルモノハ豫算官吏ノ責任
 ヲ生ズル、此故ニ事後承諾アルトキハ初ヨリ豫算ニ據リテ支出シタルモノナル
 カノ如ク見ラル、ノデアアル、會計審査ノ權力ニ對シテ責任ノ態度ヲ異ニスルノ

デアアル、我憲法ニ於テハ其結果ヲ見ルノデアツテ豫算外支出ガ直接ニ國會ニ對
 スル大臣ノ責任問題ト爲ルト云フ意味デハアリマセヌ
 豫算ノ議定ニ付テハ法律ノ議定ト同様ニ衆議院、貴族院兩院全ク同權デアル、同
 シ權力ヲ有ツテ居ル、豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スルコトハアルガ、唯提出ノ順序
 デアツテ之ヲ可否シ修正スル權限ハ兩院共同一デアアル、此事ハ會テ上下兩院ノ
 間ニ憲法上ノ爭議ガアツテ大權ノ裁定ニ依テ憲法ノ趣旨明白ニ爲ツテ居ル、歐
 羅巴ニ於テハ貴族院ハ豫算ニ喙ヲ容ル、權ガナイト云フ様ナコトヲ引テ我憲
 法ノ上ニ論ズルコトハ出來ヌ
 豫算ニ付テモ第五編ニ特ニ章ヲ設ケテ其法律上及實際上ノ關係ヲ詳シク説明
 スル積リデアアル、此章ハ是デ措キマス

第六章 政府

茲ニ謂フ「政府」トハ大權ノ行使ニ與ル憲法上ノ統治機關ノ意味デアリマス、憲法ノ
 主義ハ大權、立法權、司法權ヲ分ケテ各異ツタル機關ニ依リテ之ヲ行フト云フコト
 デアル、故ニ立法權ニ付テ國會、司法權ニ付テハ裁判所而シテ大權ノ行使ニ付テハ

政府ト云フ機關ガ備ツテ居ルノデアリマス、政府ハ大權ノ執行ノ爲ニ設ケタル機關デアアル、政府トシテ獨立ノ意思アリ權力アルモノデハナクシテ大權ノ行動ニ付テ輔翼ノ地位ニ在ル機關ヲ總稱スルノデアリマス、「輔翼」ト云フハ文字ノ通り君主ガ大權ヲ行フニ付テ意見ヲ奉ツリ採納ヲ請フノデアアル、國會ハ君主ノ立法ニ付テ協賛スル、協賛ハ國會ノ議決ナクシテハ立法スル能ハズト云フ條件ヲ意味スルノデアリマス、輔翼ト云フハ讀ンデ字ノ如ク、最終ノ自由ノ決定ハ固ヨリ君主ノ大權ニ在ル、而シテ君主ハ政府ト云フ機關ニ諮フテ之ヲ決スルノデアアル、憲法上此關係ガ重大ノモノデアアルカラ特ニ憲法ニ掲ゲテ此關係ヲ明瞭ニシテアルノデアリマス

以上ノ説明ニテ政府ノ憲法上ノ地位ハ明白デアアル、併シナガラ「政府」ト云フ語ハ種種多様ノ意味ニ用キラレ、且ハ又其語ノ變遷ガ自ラ專制政體ヨリ立憲政體ニ遷ルノ憲法歴史ヲ代表スルモノデアアルカラ茲ニ參考ノ爲ニ其事ヲ話シテ置キマス、憲法ノ明文ニハ國務大臣及樞密顧問ヲ掲ケ、之ヲ概括シテ政府ト稱スル表面上ノ規定ハナイ、併シナガラ憲法ヲ分析批評スルト其趣意ハ大權行動ニ與ルノ憲法上

ノ機關即チ國務大臣及樞密顧問ハ議會ニ對シテ政府ノ組織ヲ成スモノト見ネバナラヌ、故ニ我憲法ノ學問的説明トシテハ議會ニ對シテ政府ヲ大權ノ機關トシテ指シ示スノデアリマス、併シ政府ナル言葉ハ專制時代ヨリ種々ナル意味ニ用キラレ來ツタカラ今日ノ法令上ノ用語トシテモ又ハ通常ノ政治、法律上ノ用語トシテモ種々異ツタル意味ニ用キラル、其所以ハ沿革的ニ理由ガアル、專制政治ノ下ニ於テハ萬機皆君主ノ大權ノ親裁デアアル、國會ヲ開カズ、又司法裁判ノコトハアレドモ之ヲ獨立セル機關ト看做スコトガナカツタ、此故ニ立法スルモ行政スルモ又司法裁判スルモ皆君主ノ大權ノ親裁專制デアツタ、是ヲ以テ大權行動ヲ輔翼スルノ機關ハ政府デアアルガ、政府トハ即チ國家機關全體ヲ含蓄スルコトデアツタ、立憲政體前ノ政府ト云フハ總テノ國家政治ノ組織ヲ總轄スル意味ニ用キタ、此故ニ政府ト云フコトガ時トシテハ國家ト言フベキ場合ニモ用キラレタ、國家ト人民ト言フベキ場合ニ政府ト人民ト言フコトガ多ウカツタ、或ハ又君主其人自身ヲ直接ニ指サズシテ政府ト言ヒテ君主ヲ意味シタルコトモアツタ、畢竟專制時代ニハ政府ト云フ語ガ國家ノ政治機關全體ヲ包含シタル總稱ノ語デアツタノデアリマス、此用

語ノ習慣ガ遺ツテ居ルカラ立憲政體ノ下ニ於テモ政府ト云フ語ガ漫然廣クモ用キラレ狭クモ用キラレテ學術語トシテ正確ナラザル弊ヲ見ルノデアリマス、此變遷ハ言葉ノ變遷デアルガ、同時ニ政體ノ變遷ヲ示ス、或國或時代ニ於テ政府ト云フ語ガ如何ナル意味ニ用キラレテアルカハ專制政體ト立憲政體トノ發達ノ程度ヲ閱スルニ便宜ナル標準デアアル、茲ニ謂フ政府ト云フ觀念ノ變遷ニ付テハ唯日本語テ言フノミナラズ、英國ノ政治上ガバルンメントト云フ語ノ觀念ノ變遷モ正シク斯ノ如クデアアル、此故ニ今ノ英國ノ政治上ノ語トシテモ「ガバルンメント」ト云フ語ハ種々ニ用キラレテ頗ル曖昧デアアルハ此故デアリマス、要スルニ君主ノ大權ト云フ觀念ガ狭クナルニ從ツテ政府ト云フ觀念ガ狭ク爲ツテ來タノデアリマス、茲ニ謂フ政府ト云フ觀念ハ大權ノ行動ニ參與スル憲法上ノ機關ヲ指スノデアアル、其機關ハ國務大臣及樞密顧問デアアル、故ニ此二ツノモノニ付テ特別ニ詳ク説クコトガ此目的ニ最モ能ク適フモノデアルト信ズル、此故ニ政府ノ意味ノ大體ヲ示シテ直ニ此各機關ニ移ツテ話シマセウ、其前ニ一言述ベテ置カテバナラヌ事ハ私ガ憲法ヲ説明スルニハ國務大臣ト樞密顧問トヲ共ニ大權行使ノ機關トシテ政府ト云フ

大體組織ノ内ニ在ルモノト見テ居ル、我憲法ノ明文上疑ヒノナキ當然ノ解釋ト思フ併シナガラ度、話ス通り、兎角ニ憲法論ハ歐羅巴ノ法理論ニ拘泥スル弊ガアル、歐羅巴ノ或國ニ於テハ政府ト云ヘバ國務大臣ノ合議體ノミヲ指スモノガアルカラ日本憲法ヲ説明スルニ當テモ政府トハ即チ國務大臣デアアル、樞密顧問ヲ眼中ニ置カヌ様ナ説明方法ガ間々聞ユル、是ハ我現行ノ憲法組織ヲ無視シタルモノデアアルカラ採ルベカラザルノデアリマス、歐羅巴ノ憲法發達ヲ稽ヘテ見レバ英國ニ於テモ又是ニ倣フタル歐羅巴大陸諸國ニ於テモ元樞密顧問ト國務大臣トハ別ノ機關デハナカツタ、樞密顧問即チ國務大臣デアアル、英國ノ憲法ノ表面上ハ樞密顧問アルノミデ其以外ニ國務大臣ト云フモノハナイ、實際ハ國務大臣ノ寄合ヒタル團體タル内閣ノミ活動シテ樞密顧問ハ名有ツテ實無キ有様デアアル、併シ法律上ノ名義ハ樞密顧問ノミアツテ國務大臣ハナイ、又歐羅巴大陸ノ君主國ニ就テ見レハ多クハ憲法上國務大臣ノミアツテ其外ニ樞密顧問ヲ對等ニ並ベテ掲ゲテ居ラヌモノガ多イ、此故ニ英國及歐羅巴諸國ノ憲法ヲ説明スル著書等ニハ國務大臣ノ事ノミ説キテ樞密顧問ノ事ヲ説カス、政府ト云ヘバ即チ國務大臣ノ合議體タル内閣ノ事ト

ノミ看做ス様ノ有様ト爲ツテ居ル、日本憲法ハ憲法上ノ組織ガ之ト異ツテ居リマ
ス、憲法ノ明文上又事實上國務大臣ト樞密顧問ト二ツヲ並べ置テアル、而シテ各權
限ヲ異ニシ地位ヲ異ニシテ居ル、名義ノミナラズ事實ニ於テ異ツタル國家ノ重要
ナル機關デアアル、此故ニ我憲法ノ説明トシテハ政府ト云フ組織ノ内ニハ國務大臣
ト樞密顧問トヲ各々分ケテ對等ノ地位ニ置テ説明セネバナラヌ、是ハ言ハズトモ
分ツテ居ル様デハアルガ、世上或ハ誤解シテ居ル者モ尠ナカラヌ様デアアルカラ特
ニ念ノ爲ニ話シテ置クノデアリマス

國務大臣

第七章 國務大臣

國務大臣ハ大權ノ行使ニ付キ天皇ヲ輔弼スルノ機關デアリマス、憲法第五十五條
ニ國務大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任ストアル、此簡短ナル文章ハ其職掌ト憲法上
ノ地位トヲ最モ能ク明言シテ居ル、文字上ノ意味ハ甚ダ明瞭デアアル、大臣ハ君主ヲ
輔弼スル、君主ノ大權行動ニ付テ意見ヲ述ベ採納ヲ請フノデアアル、固ヨリ大權ヲ行
フハ君主自身デアアル、國務大臣ノ同意承諾ヲ俟ツモノデハナイ、大臣之ヲ否トシテ
モ君主ハ之ヲ可トシテ行フニト多ク得ルハ言フマデモナイ、君主ト大臣トガ一致セ

ネバ何事ヲモ行ヒ得ザルカノ如ク言フノハ法理上全然誤解デアリマス、輔弼ト云
フ文字ニテモ此義ハ明デアアル、同意若ハ承諾ヲ意味スル語デハナイ、人ヲ補助スル
意味デアアル、國務ニ付キ大權ヲ行ハセラル、ニ關シテ諮詢ニ應シテ意見ヲ述ブル
コトモアラウ、加之自ラ進デ政策ヲ獻スルコトモ最モ多イ、斯クシテ君主ノ大權行
動ヲ補助スルモノデアリマス、立憲政體ニ於テ國務大臣ノ輔弼ヲ何が故ニ重ク見
ルカ、今我輩ノ説ク如ク言ヘバ唯他人ニ助言ヲ與フト云フノミデアアル、法律上何等
必然ノ效果ヲ生ズヘキモノデナイカラ甚ダ重要ナラザル様ニ見ユルガ、何故ニ國
務大臣ノ輔弼ト云フコトヲ憲法上重要ナル事ト見ルカ、此問題ニ付テハ大臣ノ輔
弼ガ重要ナリト云フハ憲法ノ此制度ヲ設ケタル精神ニ願ミテ政治上ノ關係ニ於
テ之ヲ重シト云フノデアアル、法律關係ニ於テ重イト云フノデハナイ、法律關係ヨリ
言ヘバ國會ノ協賛ハ立法ノ要件デアアル、故ニ重イ、大臣ノ輔弼ハ大權行動ノ參考ニ
止ル、故ニ輕イ、併シ立憲政體ノ精神ニ付テ見レハ此事甚ダ重イ、凡ソ君主ハ自由ニ
何事ニテモ爲シ能フト云フハ理論ニ於テ當然ノ事デアアルガ、一人萬機ヲ事實上
躬ラスルハ不能ノ事デアアル、故ニ國務大臣ノ輔弼ガ最モ必要デアアル、加之名義ニ於

テハ君主ノ意見ヲ束縛制限スル權利ハナイケレドモ事實ニ於テハ國務大臣ノ輔弼如何ニ依テ大權行動ノ方針ガ定マル、此故ニ事實上甚ダ重イ、又專制政治ノ下ニ在ツテハ君主ノ命令トサヘ言ヘバ何人ヲ通シテ發スルモ有效デアアル、歴史上ニモ例ノアル通り、宮中ノ僕婢ヲ以テ外部ニ内々通ジテモ君主ノ命令デアリサヘスレバ有效デアアルト看做サレタ、故ニ專制政治ノ時代ニ於テモ賢明公平ナル君主ハ内謁ト云フコトヲ特ニ禁ジタ、立憲政體ニ於テハ斯ノ如キ弊ヲ杜絶セント欲スルノデアアル、國ノ大政ハ必ズ國務大臣ノ輔弼ニ依テ行フ、國務大臣ニアラザル者ハ憲法上之ニ與ル職權ヲ有セヌ、大權ノ行動ハ必ズ國務大臣ヲ通フシテ行フ、此事ガ大權行動ヲ節制シテ正當ナル徑路ニ據ラシムルト云フコトノ實益カアル、此故ニ政治上之ヲ重シト云フノデアアル、是等ノ意味カラシテ大臣ノ輔弼ト云フコトハ政治上極メテ重イ、併シ此事ヲ法律論ト混同スルノガ世上ノ誤解デアアル、法律關係トシテハ冷淡ニ考ヘナケレハナラヌ、同意ヲ要スルノデモナイ、權利義務ノ關係デモナイ、唯助言ノ關係デアアル、法律關係トシテハ效果ハ甚ダ薄弱ナルモノデアアル、佛蘭西風ノ憲法論ニ於テハ此政治的意味ヲ強テ法律上ノ關係ニ引付ケテ説明セント欲ス

ルガ故ニ法律論トシテ論理ニ適ハザル解釋ヲ採ル様ニ爲ツタノデアアル、我々ハ其弊ヲ避ケ法律論ト政治論トヲ區別シテ之ヲ考ヘネバナラヌノデアリマス、國務大臣ト云フハ各大臣各獨立セル地位ニ在ツテ各獨立ノ意見ヲ以テ君主ヲ輔弼スルノデアリマス、英國ノ政治ノ實際ヲ見レハ國務大臣ハ「カビネツト」ト云フ一ツノ團體ヲ成シ團體ノ決議ヲ以テ君主ヲ輔弼シテ居ル、各大臣ガ個人的ノ意見ヲ以テ輔弼スルモノデナイ様ニ見ユル、是ハ我憲法ノ解釋トハ異テ居リマス、憲法第五十五條ニ國務大臣ハ天皇ヲ輔弼シ「トアル、諸大臣ガ先ツ内議ヲ開テ議ノ決スル所ヲ以テ君主ヲ輔弼シタヌ」トテ直接ニ憲法違反デハナイガ、併シ其場合ニ於テ憲法ノ期待スル所ハ各大臣各獨立ノ意見ヲ以テ君主ノ參考ノ爲ニ輔弼スルコトガ目的デアアル、故ニ甲大臣ハ之ヲ可トシ乙大臣ハ之ヲ否トスルコトアルモ怪シムベキコトナキノミナラズ、寧ロ斯ノ如ク種々ノ異見ノアルコトハ君主ノ聖明ヲ啓クコトニ於テ公平ヲ期シ便宜デアルト云フ精神デアアル、然ルニ憲法解釋ヲ萬事英國風ニ解釋セントスル一種ノ風潮ガアツテ國務各大臣ハ一身同體デナクテハナラヌ、甲大臣ト乙大臣トガ意見ガ異ナル如キハ非立憲的デアアル杯ト云フ様ナコト

ヲ聞クハ全ク俗論デアアル、憲法上ノ解釋デハナイ、各自各、見ル所ヲ以テ君主ヲ輔弼スルノデアアル、國務各大臣ハ各、同權同等デアアル、今ノ行政制度ニ於テ總理大臣及各省大臣ヲ以テ同時ニ國務大臣トシテ居ルカラ此點ニ付テモ世上ニ誤解ガアル、行政官府トシテハ總理大臣ハ官制上各省大臣ノ上ニ在ル各省大臣ノ處分ヲ總理大臣ガ取消スコトモ出來ル、總理大臣ト各省大臣トノ階級ニ上下ノ差アルハ行政官トシテノ地位ニ於テノコトデアリマス、國務大臣トシテハ皆同様デアリマス、同權タルノミナラズ、意見ヲ奉ツルニ於テ何等制限ハナイ、例ハ文部大臣ガ教育ノ事ヲ掌ルト云フノハ教育行政官トシテノ文部大臣ノ職權權限デアアル、國務大臣トシテハ文部大臣ガ外國トノ宣戰媾和ノ事ニ付テ意見ヲ奉ツテモ何等不思議ノコトハナイ、兎角ニ國務大臣ト行政官府タル地位トヲ混同スルカラ種々ナル誤解ガ起ル今年ノ衆議院ニ於テスラモ甚ダ此點ニ付テ迷ツタ様デアアルガ是等ハ法律論トシテ殆ト特ニ解決ヲ竣タヌ問題デアアル、憲法ニ謂フ國務大臣ハ^{本權ヲ}輔弼シ其責ニ任スト云フコトガ各大臣ノ職務デアリ權限デアアル、各省大臣トシテハ各省官制ガアツテ各、種々ナル權限ヲ有シ種々ナル義務ヲ負フ、是ハ全ク憲法第五十五條トハ

別事デアアル、國務大臣トシテ天皇ヲ輔弼スル場合ニ於テハ各大臣獨立デアリ同權デアルト云フコトヲ忘レテハナリマセヌ

憲法第五十五條ニ國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任スト云フコトガアル、其責ニ任スト云フハ輔弼ノ責ニ任スルノデアアル、輔弼ニ付キ君主ニ對シ責任ヲ有スルト云フ意味デアリマス、此事公平ニ條文ニ讀ンデ何等疑ガナイ、大臣責任論ニ付テ種々錯雜シタル議論ヲ爲シ、何カ此事ガ深遠ナル意味アリサウニ思フノハ皆外國ノ憲法論ガ先入主ト爲ツテ居ルカラデアアル、又之ヲ政治上ノ勢力爭鬪ノ武器トシテ政治的ノ意味ニテ曲解スルノデアアル、憲法法理ノ意味ハ單純デアツテ輔弼ニ付テ君主ニ對シ各大臣各別ニ各、自己ノ行爲ニ付テ責ニ任ズルト云フノデアアル、英國ノ憲法觀念ニ於テハ大臣ハ國會ニ對シテ責任ヲ負フト云フコトガアル、國會ガ大臣ヲ彈劾スル權ガアル、大臣ニ不法ノ所爲アラハ議院ガ之ヲ問責スル權ヲ有シテ居ルト云フコトガ英國ニハ慣例トシテ定ツテ居リ、又或國々ニ於テハ憲法ニ明文ヲ掲ケテ居ル、斯ノ如キ國々ニ於テハ所謂大臣ノ責任ハ君主ニ對スルニアラズ國會ニ對スルノデアアル、大臣ノ責任ヲ問フ者ハ君主ニアラズシテ國會デアアル、是亦明

白ニシテ曲解ヲ許ス餘地ガナイ、是レ即チ其國ノ憲法明文ノ明ニ示ス所デアルカラデアアル、併シナガラ日本憲法ニ於テハ斯ノ如キ明文ガナイ、精神モナイ、大臣ハ君主ヲ輔弼シ其責ニ任ズトアル、之ヲ平易ニ續ンデ見レバ責ニ任スルハ大臣デアアル、責ヲ問フハ君主デアアルベキデアアル、大臣ハ官吏デアアル、官吏ハ君主ノ監督權ノ下ニ在ル、若シ大臣ニ過失アラバ大臣ヲ監督スル、君主ガ其責ヲ問フコトガ當然ノ法理デアアル、故ニ若モ此法理ノ當然ノ順序ヲ逐ハズ特ニ國會ヲシテ問責セシメント欲スルナラバ例外デアアルカラ明文ヲ要スル、憲法ニ國務大臣ハ國會ニ對シテ責任ヲ負フト書カネバナラヌ、此特別明文ナキ以上ハ一般ノ法理ニ依ラネバナラヌ、大臣ヲ任免シ大臣ヲ懲戒スルノ權ハ他ニ明文ナキ以上ハ君主自身デアアルガ當然デアアル、此故ニ大臣ハ君主ニ對シテ責任ヲ負フト云フコトノ解釋ハ法理論トシテ我憲法ニ付テハ疑ヒノナイ所デアラウ、或說ニ大臣ガ君主ニ代テ君主ノ過失ノ責ニ任スルト云フ斯ノ如キ解釋ハ固ヨリ明文ニモ見エズ、且憲法ノ解釋トシテ本末ヲ顛倒スル甚シキ誤解デアアルガ、併シ先入主ト爲ツタル勢ヒハ恐ロシキモノデアアツテ平然トシテ我憲法ノ下ニ斯ノ如キ解釋ヲ採ル者ガアル、凡ソ責任ハ他ニ別段ノ明

言ナキ以上ハ自己ノ所爲ニ付テ其結果ヲ我レニ引受ケル意味デアアル、惡事ヲ爲セバ惡報ヲ受ケネバナラヌノデアアル、自己ノ行爲ニ付テ責ヲ生ズル、若モ他人ノ行爲ニ付テ自ラ責ヲ負ハネハナラヌ場合アラバ法律ノ明文ヲ要スル、大臣ガ君主ニ代テ君主ノ行爲ニ付キ責ヲ負ハネバナラヌト云フナラバ憲法ニ之ヲ明言スルコトヲ要スル、其明言ナクシテ唯單純ニ其責ニ任ス_ト云フトキハ大臣自身ノ行爲ニ依リテ自ラ責ニ任スルモノト見ネバナラヌ、斯ク君主ニ代テ責ニ任スルト云フコト我憲法ニ於テハ全く無意味デアアル、大臣ヲ問責スル者ハ君主デアアルカラ主人ニ代テ主人ニ此責ヲ受ケルト云フハ無意味デアアル、是ハ皆外國ノ或國ニ於テ國會ガ君主ヲ引出シテ懲罰スベキ管ナレドモ其大臣ヲ引出シテ懲戒スルト云フ或國ノ特殊ナル歴史的ノ觀念ヲ見テ之ヲ不當ニ我憲法ノ上ニ用キントスルノデアアル、之ハ法理ノ上ニ於テ許スベカラザルコトデアアル、國體ト皇室ノ尊嚴トニ對シテ斯ノ如キ解釋ハ許スベカラザルモノデアアル、譬メテ避ケネバナリマセヌ、故ニ大臣ノ責任トハ輔弼ニ付テ責任アルノデアアル、大臣ガ君主ヲ輔弼スルハ唯無責任ノ助言ヲ試ムルト云フノデハナイ、其奉ツル所ノ政策ニ誤アラハ奉ツル者其制裁ヲ免ル、コ

トヲ得ザルノデアアル、通常ノ場合ナラバ人ニ助言ヲ與ヘテ惡意ダニナクバ唯助言シタト云フノミデハ責任ハ生ゼザルデアアラウガ、憲法ガ特ニ明文ヲ置キタル意味ハ大臣ハ君主ガ之ヲ採納シタト云フ事、即チ君命ヲ口實トシテ其責ヲ免ル、コトガ出來ヌ精神ニテ特ニ大臣責任ヲ表明シタノデアアル、君主ノ採納ガアツタカラ我輩ハ其責ニ任ゼスト云フコトハ言ハサヌノデアアル、憲法ノ明文ニ特ニ其ノ責任ス「ト書ケル意味ハ自己ノ輔弼シタル事ニ付テハ君主ノ採納アルト否トヲ問ハズ自己ニ於テ責ニ任セネバナラヌコトヲ意味シテ居ルノデアリマス、大臣ノ責任ハ聯帶シテ居ルモノデハナイ、各大臣各別デアアル、意見ヲ奉ツタル者ハ其意見ニ付テ責ヲ負フ、苟モ諸大臣皆同様ニ同一ノ政策ヲ奉ツタナラバ其結果ハ諸大臣同時ニ同様ニ責ニ任ゼネバナラヌノデアアルガ、併シ聯帶責任ト云フノデハナイ、矢張り各自各、自己ノ行爲ニ付テ責ヲ負フノデアリマス、大臣ノ責任ノ起ル所以ハ固ヨリ憲法ニ違反シタル事ハ言フマデモナイガ、法律違反ノ問題ノミナラズ、政策ヲ過マル事ガ責任ノ生ズル原因ノ大ナルモノデアアル、刑罰法ノ問題デモナイ、固ヨリ民事上ノ責任ノ問題デモナイ、是ハ職務上ノ責任ノ問題デアアル、大臣ノ職責ハ唯法律

ニ觸レズト云フノミデハ全カラヌモノデアアル、政策其當ヲ得テ居ルト云フコトガ要件デアアル、故ニ其爲ス所憲法ニ背カズトモ政策ヲ過マルコトアラバ之ガ責任ヲ生スルノ大ナル原因ト爲ルノデアリマス、責ヲ問フ者ハ固ヨリ君主デアアル、而シテ別段ニ制裁ヲ加フル手續方法ガ定ツテ居ラヌ以上ハ君主ハ如何ナル形式方法ニ於テ其責ヲ問フモ自由デアアル、或ハ面責或ハ譴責スルコトモアラウ、或ハ其官職ヲ奪フコトモアルデアアラウ、理ニ於テハ普通ノ官吏ノ懲戒ト異ナルコトハナイ、國務大臣ノ副署ノコトヲ話シテ置キマセウ

憲法第五十五條第二項ニ國務大臣ハ法律勅令及國務ニ關スル詔勅ニ副署スル「トアル、副署ト云フハ御名御璽ニ副ヘテ大臣ノ姓名ヲ記スコトデアアル、法令詔勅ニ副署ヲ要スルハ大權ノ行動ニ付キテ大臣ヲ經由シタルコトヲ外部ニ表ハスノデアアル、併シ副署ハ輔弼トハ同一ノ事デナイ、輔弼シタル者ガ副署スルコトガ最も多キ場合デアラウ、去レド輔弼者ト副署者トハ別人デアアツテモ憲法上違法デハナイ、且又副署ニ依テ責任ヲ生ズルト説ク説モアルガ、是ハ誤デアアル責任ハ輔弼ニ依テ生ズル、副署ハ法律ニ署名スルノデアアツテ必ズシモ輔弼デハナイ、斯ノ如ク歐羅巴デ

ハ輔弼ト云フコトヲ言ハズシテ副署々々トノミ言フカラ精神ハ輔弼ト云フ意味ニテ副署ノコトヲ論ズル弊ガアル、日本ノ學者ハ其弊害ニ染マツテ居ル處ガアル例ハ總テ君主ノ大權ノ行使ハ大臣ノ副署ヲ要スル杯ト云フ議論ガアル、是ハ明ニ間違ヒデアル、君主ハ法令詔勅ヲ發スルノミデハナイ、其他種々ナル形ニ於テ權力ヲ行フ、憲法上必ず副署ヲ要スルハ法令詔勅ニ限ツテ居ル、其他ノモノニモ副署アルコトガ最も適當デハアラウガ、憲法上ノ要件デハナイ、加之書付ヲ以テセズ口頭ニテ命令ヲ傳ヘ權力ヲ行フコトモ固ヨリ爲シ得ルノデアル、或場合ニハ副署ト云フコトノアリ様ガナイ、此故ニ君主ノ行動ハ必ず國務大臣ノ副署ヲ要スルト云フ様ナ説明方法ハ大ナル誤解デアル、斯ノ如ク副署ハ法令詔勅ノ形式的要件デアル或ハ大臣ハ副署ヲ拒ムコトヲ得ルカト云フ問題モアルガ無論大臣ハ之ヲ拒ムコトヲ得ザルノデアリマス、君主ハ副署ヲ命ズルノデアル、副署スルハ大臣ノ義務デアル、同意不同意ヲ謂フノデハナイ、兎角歐羅巴ノ憲法論ニハ大臣ト君主トガ同意スルト云フ様ニ考フルカラ大臣ノ副署ト云フコトヲ契約書ニ調印スルコトノ様ニ考ヘテ、自己ノ意見ニ反シタル事ニ付テハ法令ニ副署ヲ拒ム權カアルト云フ様

ナ解釋ヲ採ル、是ハ其國ニ於テ其制度アラバ別論デアルガ、副署ト云フ事ソレ自身ニ當然ニ伴フ法理デハナイ、又日本憲法ニ於テハ斯ノ如キ法理ハ採ツテ居ラナイノデアリマス、副署ノ解釋ハ頗ル簡短デアル、此外ニ深キ意味ハナイ從來副署ニ餘リ重キヲ措キ過ギル弊ガアル、輔弼ニ重キヲ措クベキノデアル、輔弼ト副署トヲ混同シテハナリマセヌ

是デ大體國務大臣ノ事ノ要件ハ了ツタノデアリマス

樞密顧問

第八章 樞密顧問

樞密顧問ハ憲法上ノ機關ノ一ツデアツテ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議スルヲ職掌トスルモノデアリマス、大權ノ行使ニ付テ諮詢ヲ受ケタルトキニ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ會議ノ結果ヲ以テ奉答スルト云フコトガ樞密顧問ノ趣意デアル、樞密顧問ハ國務大臣ト同様ニ大權ヲ輔翼スルノ機關デアルガ、其異ル所ハ樞密顧問ハ諮詢ヲ竣ツテ意見ヲ奉ルノデアル、自ラ進ンデ政策ヲ定メ意見ヲ述ブルト云フ地位ニ居ラヌノデアアル、又國務大臣ハ各大臣獨立シテ意見ヲ奉ルモノデアアルガ、樞密顧問ハ樞密院ヲ組織シ其會議ヲ以テ諮詢ニ應フルノデアアル、此故ニ憲

法第五十六條ニ「樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ重要ナル國務ヲ審議ス」トアル、何事ヲ諮詢スベキカハ憲法上別ニ制限ハナイ、又事實ニ於テモ種類ヲ限ラズ總テ臨時必要ノ場合ニ意見ヲ諮詢スルノデアアル、憲法ニハ重要ノ國務ヲ審議スト書テアル、國務ノ種類ヲ列記シテアリマセヌ、但現行ノ樞密院官制ニ據テ見ルトキハ左ノ事項ハ必ず樞密院ニ諮詢セラルルモノト爲ツテ居ル

第一 皇室典範ニ依リ特ニ樞密院ニ諮詢スルコトヲ定メタル事項

第二 憲法ノ解釋ノ疑義及憲法ノ改正案其他憲法附屬ノ法律勅令ノ草案

第三 憲法第十四條ノ戒嚴ノ宣告第八條ノ法律ニ代ルノ勅令及第七十條ノ財政

上ノ緊急處分ニ關スル勅令其他罰則ノ規定アル勅令

第四 外國ニ對スル條約及約束

第五 樞密院ノ官制及事務規程ノ改正

以上ノ列舉セル事ハ必ず諮詢スベキモノト爲ツテ居ル、其以外ノ事ハ臨時必要ニ應ジ諮詢セラル、モノト爲ツテ居リマス、併シ此諮詢事項ノ列記ハ樞密院官制ノ列記デアアル、憲法上之ヲ諮詢事項ト限ツテ定メタ譯デハナイ、勅令ヲ以テ如何様ニ

モ變更シ得ルノデアリマス

樞密顧問ノ憲法上ノ地位ニ付テハ法理論トシテハ今簡短ニ述ベタ所ヲ以テ大要ヲ盡シテ居ル、之ヲ憲法ノ精神ニ索ネテ見ルニ國務大臣ノ外ニ樞密顧問ヲ置キタル所以ハ國務大臣ハ忙シキ政治ノ事務ニ當ツテ居ル者デアアル、時ニ或ハ政治上ノ勢ニ驅ラレテ公平ニ慎重ニ事ヲ決スルコトヲ誤ル虞ガアル、此故ニ大臣ノ外ニ樞密顧問ヲ置キ國ノ元老ヲ集メテ冷靜ニ局外ヨリ政務ヲ實施セシムル必要カラ此制度ガアルノデアアル、又一方ニ於テハ立憲政治トシテハ議院ト内閣大臣トノ間ニ若ハ議院相互ノ間ニ憲法上ノ疑義ガ起ル、之ヲ裁決スルハ君主ノ大權デアアル、併シナガラ憲法上ノ爭議ニ於テハ國務大臣ハ多クノ場合ニ於テ其争ノ一方タル地位ニ在ル、故ニ此場合ニ於テ君主ヲ輔弼スル者ハ内閣大臣以外ニ局外ノ地位ニ在ツテ公平ナル憲法ノ解釋ヲ與フル者ガナクテハナラヌ、蓋シ樞密顧問ノ制度ガ憲法ニ存在スルハ此要ノ爲ニスル意味デアラウト想像セラル、且樞密顧問ハ天皇ノ最高ノ顧問デアアル、主トシテ國務ノ爲ニ置イタモノデアアルガ、皇室ノ事務ニ付テモ樞密顧問ハ諮詢ヲ受ケ意見ヲ奉ツテ輔翼ノ任ヲ盡スモノト爲ツテ居ル

以上ノ説明ヲ以テ政府ノ組織ノ大要ヲ述ベ了ツタ、議會ニ對シテ言ヘバ大權ノ行使ニ參與スル機關ハ國務大臣及樞密顧問デアル、此故ニ以上ノ二ツノ者ノ地位、職掌ヲ述ブルコトニ依テ政府ト云フ憲法上ノ機關ノ地位ヲ明ニシタルモノデアル、是ヨリ次ノ裁判所ノコトニ移リマセウ

裁判所

第九章 裁判所

裁判所ハ司法權ヲ行フノ憲法上ノ機關デアル、憲法第五十七條ニ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フトアル、此條文ガ即チ裁判所ノ憲法上ノ地位ヲ示シテ居ル、裁判所ハ元行政官府ト混同サレテ大權ノ下ニ設ケラレテアツタモノデアルガ、之ヲ政府ヨリ分離シ獨立セシムルコトガ立憲政體ノ趣意ノ一ツデアル、權力ノ分立ト云フコトガ立憲制度ノ趣意デアルガ、政府ト國會トノ分立モ其要點デアリ、政府ト裁判所トノ分立モ亦其要點デアル、專制政府ト云フノハ政府ガ唯一ノ機關デアル、其内ニ立法ノ事モ裁判ノ事モ混ジテ含ンデ居ル政體デアル、之ヲ分ツコトガ立憲政體ノ趣意デアル、裁判所ノ獨立ガ憲法ノ要件タル所以ハ茲ニ存スルノデアリマス

裁判所ノ地位ハ憲法第五十七條ノ法文ニテ明白デアル、裁判所ハ天皇ノ名ニ於テ司法權ヲ行フ、此意味ハ歴史的ニ考ヘテ見ナケレバ能ク了解ガ出來ヌデアラウ、司法權ハ元行政權ト混シテ政府ガ行ツタノデアルガ、之ヲ政府ヨリ分離スルニ於テハ問題ガ權力ノ主體ヲ分ツノデアルカ、權力行動ノ機關ヲ分ツノデアルカト云フコトニ存スル、故ニ憲法ハ司法權ノ主體ハ君主タルコト今尙ホ昔ノ如クデアルガ之ヲ行フノ機關ガ政府ヨリ獨立スルモノデアルト云フコトヲ示サント欲スルノデアル、天皇ノ名ニ於テト云フハ一方ニ於テハ其權力ハ天皇ノ權力タルコトヲ意味シ一方ニ於テハ天皇ガ親裁專斷シテ行フモノデナク、裁判所ガ天皇ノ名ニ於テ行フモノデアルト云フコトヲ意味シテ居ル、是ガ憲法上ノ重要ナル觀念デアル、司法權ヲ裁判所ノ權力デアルト見ル觀念ハナイ、天皇ノ統治權ノ行動デアル、獨立ノ權力デハナイ、唯之ヲ獨立ト云フハ關係的ノ意味デアル、絶對的ノ意味デナイ、政府ヨリ獨立セル意味デアル、君主ヨリ獨立セル意味デナイ、是ガ裁判所ノ憲法上ノ地位デアリマス、又第五十七條ノ法文ニ依レバ裁判所ハ法律ニ依リ司法權ヲ行フ、法律ニ依リトアルハ司法權ヲ行使スル方法手續ハ法律ノ規定ニ依ルベキモノデア

ル、命令ヲ以テ左右スルコトヲ許サザル意味デアル、之ハ法律ヲ以テ定ムルト云フハ其精神ハ君主大權ノ干涉ノ外ニ置テ司法權ヲ行フト云フ意味デアル、法律ハ議會ノ協賛ヲ經タル法則デアル、命令ハ君主大權ノ専ラ發スル所デアル、若シ裁判所ガ司法權ヲ行フニ當ツテ命令ノ指圖ノ下ニ之ヲ行フナラバ所謂司法權ノ獨立ヲ失フ、此故ニ必ズ法律ノ規定ニ依ルト云フコトヲ原則トシテ居ルノデアリマス、併シナガラ茲ニ注意スベキハ此法文ノ規定ハ民事、刑事ノ訴訟ヲ裁判スル手續方法ニ付テ謂フモノデアル、裁判所ノ構成トカ民事、刑事ノ訴訟手續トカ云フモノハ必ズ法律ヲ以テ定ムベキノデアアル、命令ヲ以テ定ムベキモノデナイ、司法權ヲ行使スル方法手續ヲ謂フタモノデアル、裁判官ガ事件ヲ審判スルニ蒞ンデ適用スル法則ハ必ズシモ法律ニノミ限ル意味デハナイ、勅令其他ノ命令モ適用セネバナラヌ不文ノ法則慣例モ適用セネバナラヌ、去レド裁判手續ノ規則ハ必ズ法律ニ依ルノデアアル、是ガ此條ノ意味デアリマス、法律ニ依リ司法權ヲ行フトアル、裁判官ハ事件ヲ審判スルニ當ツテ法律關係ヲ決定スルニ付テ勅令以下ノモノハ眼中ニ置カヌト云フ意味デハナイ

裁判所ノ獨立ト云フコトガ立憲ノ要點デアルカラ之ヲ完ウスル爲ニ憲法ハ種々ノ規定ヲ定メテ居ル、其一ニ茲ニ述ベテ置キマス

第一ハ「裁判官ノ任免」ハ法律ニ定メタル方法手續ニノミ依ルモノデアツテ他ノ行政官ノ如ク大權ヲ以テ自由ニ任免スルコトヲ許サザルノデアアル、裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラル、コトナシ、懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムトアル、任免共ニ憲法上ノ保障ガアル、政府ガ自己ノ意ニ適セザル裁判官ヲ自由ニ任免スル權ヲ有セヌノデアアル、是ガ間接ニ司法權ノ獨立公平ヲ維持スルニ必要デアアルカラ憲法上ノ原則トシテ掲ゲタノデアリマス

第二ハ「裁判ノ公開ノ原則」デアル、之ハ憲法第五十九條ニ示シテアリマス、裁判ハ必ズ公開スルヲ原則トシテ居ル、固ヨリ法律上特定ノ場合ニ秘密ニスルコトヲ許スコトモアルガ、公開ガ原則デアル、憲法ニ其原則ヲ掲ゲタルノハ秘密裁判ハ或ハ公平ヲ失フ虞ガアルカラ此保障ヲ與ヘタノデアアル

第三ハ「特別裁判所」ノコトデアル、憲法第六十條ニ規定シテアリマス、特別裁判所ヲ設クルハ必ズ法律ニ依ルト云フ意味デアル、特別裁判所トハ蓋特殊ノ民事、刑事ノ

裁判ノ爲ニ特別ノ法廷ヲ開クコトヲ謂フノデアラウ、何故ニ之ヲ掲ゲヌカト云フト、專制ノ時代ニハ或民事、刑事ノ事件ニ付テハ政府ノ都合ヲ以テ臨時ノ特別裁判所ヲ設ケテ通常裁判官ノ權限ヨリ拔去ツテ自己ノ方針ニ適スル裁判ヲ爲サシメントスル弊ガアツタ、其弊ヲ矯メ、將來ハ若シ特別ノ裁判所ヲ設ケントナラバ法律ヲ以テセネバナラヌ、政府ノ獨斷ヲ以テハ之ヲ設クルコトヲ得ヌト云フ意味ヲ明ニシタノデアリマス、是モ司法權獨立ノ保障ノ意味カラ起ツテ居ル

第四ハ「司法裁判所ト行政裁判所トノ區別」ヲ憲法ニ明ニシテ居ル、第六十一條ニ「行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス」トアリマス、蓋行政裁判所トハ行政ノ處分ニ對スル訴訟ヲ裁判スル所デアル、從來ハ行政權ノ行動ニ對シテハ一切訴訟ヲ許サナカツタ、然ルニ憲法ハ將來行政裁判所ヲ設テ行政訴訟ヲモ許スコトヲ茲ニ宣告シタノデアアル、是ト同時ニ司法裁判所ノ權限ヲ明白ニシタ、司法裁判所ハ行政權ニ對スル訴訟ヲ受理スベキモノニアラズト云フコトガ茲ニ宣告セラレタノデアアル、從來ハ司法裁判所ノ權限

ガ不明デアルカラ民事、刑事ノ訴訟ノミナラズ何事ニテモ行政處分ニ對スル訴訟ヲモ皆混シテ司法裁判所ニ於テ受理スルコトモアツタガ、斯ノ如クニシテハ行政權ト司法權トノ分界ガ立タヌ、行政權ハ又司法權ノ爲ニ蹂躪セラル、コト、爲ル此故ニ行政權ト司法權トノ分界ヲ明ニシ、各々其範圍ヲ守ルベキコトヲ明白ニスル爲ニ憲法ハ特ニ第六十一條ヲ置イタノデアリマセツ

是ヨリ現行ノ裁判所構成法ヲ見合ハシテ裁判所ノ種類權限及裁判手續等ノ事ヲ述ブルガ順序デアアル、併シナガラ裁判所構成法ソレ自身ガ既ニ大部ノ法典デアアル、又裁判手續ハ民事、刑事ノ兩様アツテ其繁雜ナル事一通リデナイ、故ニ理論上ハ憲法ノ説明ノ一部分トナルベキ等デアアルガ講義ノ都合上裁判所ノ構成及權限、裁判手續等ノ事ハ之ヲ別種ノ特別研究ニ讓ラネバナラヌ、從來憲法論トシテ此事ヲ全ク度外ニ置クハ學問上甚ダ不當ノコトデアアル、必ズ憲法ノ一部トシテ研究サレナケレハナラヌモノデアアル、唯講義ノ都合ニテ茲ニ省テ置クノデアリマス、之ハ只今御話スル通り、此處デ一々御話スル暇ガナイ

裁判所ハ通常裁判所ト特別裁判所ニ分レテ居ル通常裁判所ト云フノハ一般ニ民

事、刑事ノ訴訟ヲ受理スル裁判所デアル、特別裁判所ト云フノハ特殊ノ民事若ハ刑事ヲ受理スル裁判所デアル、今ノ裁判所構成法ハ通常裁判所ノ構成ヲ定メタモノデアリマス、而シテ通常裁判所ハ御承知ノ通り、區裁判所、地方裁判所、控訴院、大審院ノ四ツニ分レテ居ル、區裁判所ハ稍輕易ナル民事及刑事ノ訴訟ヲ第一審トシテ受理裁判スル、其外ニ非訟事件ナルモノヲ取扱ツテ居ル、地方裁判所ハ稍重大ナル民事、刑事ノ訴訟ヲ第一審トシテ受理シテ居ル、其外ニ區裁判所ノ判決ニ對スル上訴ヲ受ケテ居ル、控訴院ハ主トシテ地方裁判所ノ裁判ノ不服ナルモノヲ更ニ審判スル所デアル、大審院ハ更ニ進ンデ控訴院ノ裁判ノ不服ナルモノ、上訴ヲ更ニ審判スル所デアル、是等ノ事ハ中々一々短簡ニ述ベ難イノデアリマス、裁判所構成法ヲ能ク讀ミ且又他ノ特別ノ講義ヲ見テ了解セネバナリマセヌ

第五編 統治權ノ作用

第一章 統治權

統治權ノ作用

此編ニ於テハ統治權ガ憲法ノ規定ニ依テ如何ニ行動スルカノ形式ヲ説明シマス、統治權其モノ、本來ノ性質ハ既ニ國家ノ要素トシテ第一編ニ説明シテアルカラ

茲ニハ繰返ヘシマセヌ、又統治權ハ我國體トシテハ天皇ノ權力デアルコトモ既ニ統治ノ主體ノ編ニ於テ明白ニ述ベテアリマス、是レ亦茲ニ再ビ辯明スル必要ハアルマイ

統治權ト云フモノニ付テ或ハ誤解ガアル、憲法ニ依テ生シ憲法ニ依テ範圍ノ定ル權力デアアルカノ如クニ想像スルハ固ヨリ誤解デアアル、國ヲ統治スルノ權力ハ國家其モノト共ニ初ヨリ當然ニ備ハレルモノデアツテ、又其行動ノ範圍モ國家其モノノ性質ニ當然ニ伴フモノデアツテ、此權力ガ憲法ニ依テ作ラレタルニモアラズ又憲法ニ依テ其權力ノ範圍ガ定ルモノデモアリマセヌ、憲法ハ統治權ノ生ミタル子デアアル、憲法ガ統治權ヲ作ルニハアラズシテ統治權ガ憲法ヲ作ツタルノデアアル、從テ憲法ノ規定ハ主權者ガ國ヲ統治スル方法、形式ヲ定ムルモノデアアル、權力其モノヲ生ゼシムル效力ハナイモノデアリマス、又限定スルモノデモアリマセヌ、此編ハ統治權其モノヲ論ズルニハアラズ、統治權ノ行動ノ憲法上ノ形式ヲ説明スルモノデアリマス

「統治」ト云フ語ハ蓋權力ヲ統ベテ國ヲ治ムルト云フ意味ヨリ出デタルノデアラウ

憲法 統治權ノ作用 統治權

統治ト云フ文字ニ顧ミテモ天皇ガ帝國ニ臨ムハ之ヲ一私人ガ其所有物ヲ自己ノ爲ニ利用スルガ如キ關係ニハアラズ、民族團體ノ公ノ事ヲ掌ル意味タルコト明白デアアル、此事ハ我國體ヲ辯ズルニ於テ特ニ注意スベキ所デアアル、古ヨリ我歴史ニハ國土人民ヲ君主ノ私有ノ財産ト見タル概念ハ更ニナイ、歐羅巴ノ中世ノ國家ニ於テハ君主ノ國ヲ有スルハ人ガ土地、家畜ヲ所有スルガ如キ意味ニテ之ヲ有シタル時代ガアル、故ニ歐羅巴ニ於テハ近世國家ト爲ルニ及デ統治權ノ概念ガ更ニ一新シタルモノト云フベキデアアル、我國ニ於テハ封建ノ世ニ諸侯、豪族ガ人民ヲ私シタリト云フコトハ事實ハアツタナレドモ國ノ法トシテ秩序ヲ紊リ王權ヲ侵ス不法ノ事ト看做サレテアツタ、故ニ此封建ノ陋習ヲ破テ王權ヲ一新シタリト云フハ我古來ヨリノ本來ノ國體、政體ノ名實ヲ正シタリト云フノデアツテ國體、政體ヲ變更シタルモノデハナイ、其點ハ我建國ノ性質ヲ知ルニ於テ重大ナル所デアリマス、統治權ハ最高ノ權力デアアル、圓滿ノ權力デアアル、此事既ニ國家ノ性質ノ説明ニ述べテアルト覺ユル、此最高ニシテ圓滿不分ノ全能ノ權力ガ下人民ニ向テ行動スルニ方テ主權者ハ憲法ヲ設ケテ其行動ノ形式ヲ定メ一般人民ヲシテ遵由スル所ヲ明

ニスルモノデアアル、是ガ憲法ノ性質デアリ效用デアリマス、人民ノ統治權ニ服従スルハ絶對ニシテ無限ナルモノデアアル、憲法ニ依テ限ラレタルモノデハナイ、何トナレバ憲法ヲ變更スルトモ統治權ト人民トノ本來ノ關係ハ依然トシテ損益スル所ナク存在スルノデアアル、先ヅ此本來ノ關係ヲ明瞭ニ知ラネバナラヌ、唯今日ハ今日ノ憲法ニ依リテ支配スルト云フコトヲ明言シテアルカラ、現行憲法ノ有效ナル間ハ此有效ノ條規ニ依リテ支配セラル、ト云フコト、ナル是ガ人民ノ方面ヨリ觀レバ權利自由ノ保障デアアル、是ガ主權者ノ方面ヨリ觀レバ權力行動ノ規則デアアル、憲法ハ此意味ニテ重キヲ爲スモノデアリマス、凡ソ權力關係ハ法律、命令ニ依リテモ特別ニ生ズル、例バ軍人ハ軍紀ニ服従スルトカ、官吏ハ監督權ニ服従スルトカ、或ハ未成年ノ子ハ親權ニ服スルトカ云フ類ノコトガアル、之ハ法令ニ依テ更ニ生ズルノ權力服従ノ關係デアツテ獨立絶對ニ存在スルモノデハナイ、統治權ノ人民ニ對スル關係ハ是等ノモノト混同シテハナリマセ、又、國家ノ人民ニ對スル服従ハ法令ニ依リテ生ズルト云フハ語弊ガアル、本來ノ服従ハ法令以上ニ既ニ存在スル、唯法令ハ服従ノ方法、形式、程度ヲ示スモノデアアル、是

レ亦憲法ト統治權ト人民トノ關係ヲ知ルニ於テ誤解ガアツテハナラヌ所デアリ
マス

統治權ノ憲法上ノ行動ノ形式ハ憲法ノ全體ノ規定ニ依テ定ルモノデアアル併シナ
ガラ大體ノ精神ヲ通觀スルトキハ所謂立憲政體ノ憲法ニハ此點ニ付テ二ツノ大
ナル主義ガアル、一ハ三權分立ノ主義デアリ、一ハ法治國ノ制度デアアル、今概略此二
點ヲ説明シ統治權效用ノ大綱目ヲ示スデアリマセウ

我憲法ヲ見ルニ統治權ノ行動ヲ大別シテ君主ノ大權_下立法權_下司法權_下トノ三ツ
トシテ居ル、是レ所謂三權分立ノ精神ニ據ルモノデアアル、大權、立法權、司法權ノコト
ハ夫レ夫レ別ニ是ヨリ章ヲ設ケテ精シク説ク、大體論トシテ此區別ハ立憲政體ノ
大綱目デアアル、此區別ノアルトナキトハ政體ノ種類ヲ定ムルニ付テ大ナル關係ア
ルモノタルコトヲ知ラナケレバナラヌ、元三權分立ト云フコトハ佛蘭西ノ學者カ
唱ヘタル事デアツテ、其説明ガ如何ニモ器械的デアツテ國權ヲ三分スル如ク主張
シタルガ故ニ大ニ近來ノ學說上反對ヲ受ケテ居ル、三權分立ハ主權統一ノ主義ト
反スル、又特ニ我國ノ如キ君主ヲ以テ主權者トスル國體ニ於テハ君主主權ノ主義

ニ矛盾スル、故ニ是等ノ理由ヲ以テ内外ノ學者ノ爲メニ極力排斥セラレテ居ル、殊
ニ獨逸ノ學者ハ所謂三權分立論ハ既ニ學問上ノ價ヲ失ヒテ何人モ眞面目ニ主張
スル者ガナイカラ辯駁スル必要モナイトマデ斷言シテ居ルラバンドノ國法論ニ
此事ガ述ベテアル、我輩ハ敢テ奇ヲ好ム譯デハナイガ、此三權分立ノ精神ヲ度外視
シテハ所謂立憲政體ナルモノハ何等特別ノ意味ヲ爲サルモノトナルト思ヒマ
ス、故ニ年來内外ノ學者ノ反對ニ拘ラズ此精神ヲ以テ憲法ヲ説明シテ居ル
三權分立ヲ以テ國權ヲ三分スルモノト解スルハ固ヨリ不可ナルノデアアル、若シ此
意味ナラバ我憲法ノ容サハルノミナラズ孰レノ國體ニ於テモ不當デアアル、又獨逸
學者ノ多數ノ言フガ如ク三權分立トハ權力ノ區別ニハアラズ同一ノ人ガ同一ノ
權力ヲ有ツテ或ハ立法シ或ハ行政シ或ハ裁判スル事務ノ區別デアアルト見ルナラ
バ何故ニ此三ツノ區別ヲノミ憲法ニ認ムルノデアアルカ、斯ノ如キ區別ハ際限ノナ
キコトデアアル、實用モナイコトデアアル、教育ヲスル權、恩典ヲ與フル權、警察權、租稅權
數ヘ來レバ停止スル所モナイ、事務ノ區別ヲ特ニ憲法ニ掲ゲタラバトテ何等實際
ノ意味ヲ爲スモノデアアリマセヌ、故ニ之ヲ單純ニ事務ノ區別ト見ル説モ我輩ノ

探ラザル所デアリマス、此區別ハ實際ニ權力ノ區別デアアル、特別權力ノ區別デアアルカラ憲法上意味ヲ爲スノデアリマス、此點ハ少シ説明ヲ要スル
 元來立憲政體ナルモノハ一人ノ專制ヲ防グガ爲メニ起リシモノデアアル、一人ノ專制トハ其裏面ヲ謂ヘバ一自然人若ハ許多ノ同一ナル自然人ガ總テノ權力ヲ行フト云フコトデアアル、君主ガ專制スルコトモアリ議院ガ專制スルコトモアル、此專制ヲ防グニハ權力ヲ分タネバナラヌ、併シ國家主權ハ唯一ニシテ分ツベカラザルモノデアアル、然ラバ如何シテ國權ノ統一圓滿ヲ失ハズシテ權力ノ分立ヲ爲シ得ルカ是ガ立憲ノ問題デアアル、此問題ガ所謂三權分立ニ依テ解決セラレテアル、此ニ至リテ我輩ガ常ニ説ク法律意思ト自然意思ノ區別ニ注意セネバナラヌ、國權ト云フハ國家ノ意思デアアル、國家ノ意思ハ一ツデアツテ二ツナク分割スベカラザルモノデアアル、然レドモ元來國家ハ無形ノ物デアアルカラ自然意思ヲ有スルノデハナイ、法律的ニ組立ラレタル意思ヲノミ有スルノデアアル、國權ト云ヒ國家ノ意思ト云フハ實ハ自然人ノ自然意思ニ依リテ組立ラレテ法ノ上ニ現ハル、法律意思デアアル、分ツベカラズト云フハ此法律上ノ國家ノ意思デアアル、國權デアアル、國家ノ法律意思ガ一

アツテ二ナク分ツベカラザルノデアアルガ此法律意思ヲ組立ツル材料タル自然人ノ自然意思ハ分ツコトガ出來ル、自然人ノ自然意思ヲ分ツトハ立法ニ付テ發表スル國家ノ法律意思ノ組立ニハ甲種ノ自然人ノ意思ヲ其構成分子トシ、裁判スル國家ノ法律意思ノ構成ニハ乙種ノ自然人ノ自然意思ヲ其構成分子トスルト云フガ如キ意味デアアル、其構成分子タル自然人ノ自然意思ヲ分離シテ之ヲ分チ混ゼシメズ、各憲法ニ依テ之ガ國家ノ法律意思トシテ唯一ノモノト爲ツテ現ハル、ト云フ此仕組ニテ權力分立ノ目的ガ達セラル、是レガ所謂三權分立ノ精神デアアル、此意味ヲ解釋玩味スルニアラザレバ三權分立ノ主義ハ了解スベカラズ、從テ立憲政體ノ何タルハ其特色ヲ知ル能ハザルコト、爲ルデアラウ、之ニ依テ專制ノ弊カ防レ得ル、法律意思トシテハ國家ノ唯一ノ權力意思デアアルガ、立法スル場合、行政スル場合、裁判スル場合ニ於テ各其裏面ノ構成分子ガ異ルカラ一人若ハ一種類ノ人ガ自由我儘ヲ爲ルコトガ出來ヌト云フ結果ト爲ル、是レガ立憲政體ノ要求デアリマス、憲法ガ特ニ立法、行政、司法ノ三權ヲ分ツト云フハ全ク此意味ニ外ナラヌノデアアル、併シ此事ヲ誤解シテ君主ノ意思ヲ以テ國家ノ意思トスルト云フ大體ノ本則ト矛盾

盾スル説明ナリト見テハナリマセヌ、三權分立ノ趣意ハ三權ニ伴フテ全然絶對ニ別種ノ自然意思ガ働カネバナラヌト云フ意味デモナク、又實際上其必要モナイ、唯一人ノミノ意思ガ獨リ專ニ働カナケレバ其レニテ分權ノ目的ハ達シテ居ル又立法スルモ行政スルモ裁判スルモ歸スル所我政體ニ於テハ君主ノ意思デアル唯君主タル自然人ノ自然意思ニ憲法上他ノ自然意思ガ參加シテ居ル、此參加スル自然意思ガ各異ツテサヘ居レバ君主ノ意思ハ統治全體ニ洽ク通ズルモノトシテ何等分權ノ精神ニ矛盾スル所ハナイ、例バ君主ガ立法スルニハ議會ノ議決ヲ要スル又君主カ司法權ヲ行使スルニハ裁判官ノ判決ニ依ル、而シテ大權ハ君主獨リ之ヲ行フ、總テ皆君主ノ權力、君主ノ意思ノ働デハアルガ、之ニ加味セラレタル自然意思ノ各異ルコトニ依テ分權ノ意味ガ、遠シ遂グ得ラル、此趣意ヲ能ク了解セネバナリマセヌ

「法治國ノ制度」ト云フハ國權ノ特定ノ場合ニ特定ノ人ニ對シテ働ク動作ハ法則ニ遵由セネバナラヌト云フ主義デアル、此事ハ今日我々立憲ノ政治ノ下ニ在テハ殆ド當然ノ如クニ思フガ、此主義ヲ確立スルコトガ立憲政體ノ大主義デアツタノデアリマス、專制ノ時代ニ於ケル弊害ハ豫メ法則ヲ設クルコトナク唯臨機應變ノ處置ヲスル、人ヲ刑罰ニ處スルガ如キ事スラモ豫メ刑法ヲ定ムルト云フ必要ヲ見ナカツタ時代モアル、租稅ヲ取ルモ警察權ヲ行フモ同シ事デアル、又縱シ法則ヲ設クルモ政府ハ法則ニ拘束セラル、ト云フ主義ハ立ツテ居ラナカツタ、時ニ臨ミ便宜ニ應ジテハ法則ニ據ラザル處置ヲ爲シテモ之ガ君主ノ意思デアルトカ、又ハ國權ノ行動デアルトカ云フコトガ證明セラルレバ最早人民ハ何等服從ヲ拒ムコトハ出來ナカツタノデアアル、是ガ專制政體ノ弊害ノ最モ大ナルモノデアアル、之ヲ矯メテ防グガ爲メニ立憲政體ガ起ツタ、即チ國權ノ行動ハ豫メ定メタル法則ニ據ルト云フノ主義デアル、此主義原則アルナレバコン憲法ヲ作レバ之ニ依テ人民ノ自由ガ保障セラル、此主義ハ立憲制度ノ根本ノ基礎デアツテ三權分立ノ主義ト俱ニ政體ノ坤軸ヲ成スモノデアアル

統治權ノ憲法上ノ行動トシテハ此二ツノ主義ヲ能ク了解シテ然ル後ニ細目ヲ論ズベキモノデアアルカラ、時ノ許ス限リ大體ノ御話ヲシテ置イダノデアリマス

統治權ノ憲法ノ上ニ働ク形式ハ分チテ大權ト立法權ト司法權ト三ツノモノトスル此三ツノモノガ各異ツタル機關ニ依テ働クト云フコトガ憲法ノ精神デアリマ
 ス大權ハ國務大臣及樞密顧問ノ輔翼ニ依テ之ヲ行フ立法權ハ議會ノ協賛ニ依リ
 司法權ハ裁判所ニ依リテ行ハシムルノデアアル斯ノ如ク權力ノ行動ヲ分ツト雖モ
 之ハ皆憲法上ノ行動デアツテ其本ヲ謂ヘバ皆君主一人ノ統治權ノ行動デアルコ
 トハ言フヲ竣タザルノデアリマス而シテ各機關ヲ分ツト云フ意味ハ唯機械的ニ
 事務所ヲ分ツト云フ意味ノミテハ機關ヲ組織スル自然人ノ自然意思ヲ分離シ
 テ混同セズト云フコトガ權力ヲ分ツト云フ意味ヲ成スノデアリマス此事ハ前回
 ニ精シク述ベタルコト、思フ

大權トハ天皇ガ親裁專斷シテ行フ憲法上ノ行動ノ意味デアリマス親裁專斷ト云
 フハ統治機關ノ議決ニ拘束セラレズ又ハ統治機關ニ其權力ヲ委任セズ自ラ獨リ
 專ラニ行フノ意味デアリマス前ニ大權ノ行使ニ付テハ國務大臣ノ輔弼アリ又樞
 密顧問ノ諮詢アルト云フコトヲ述ベタガ此輔弼ト諮詢トハ大權ノ親裁專斷ト云
 フコト、抵觸スルモノデハナイ大臣ノ輔弼ハ唯君主ニ意見ヲ奉テ參考ニ供スル

コトデアアル樞密顧問ニ諮詢スルモ固ヨリ同ジ事デアアル立法ノ場合又ハ裁判ノ場
 合ハ唯參考ノ爲メニ議會若ハ裁判所ノ意見ヲ聞クモノデハナイ其決定ニ依ルニ
 アラザレバ法律ヲ制定シ事件ヲ判定スルコトヲ得ザルノデアアル此區別ガアルカ
 ラ大權ハ各大臣及顧問ノ輔弼アリト雖モ君主カ親裁專斷スルト云フコト、抵觸
 セズ斯ク解スベキノデアリマス

抑立憲ノ趣意ヲ考フレバ元前ニハ萬機皆君主ノ專斷デアリシガ其内ノ或事ヲ特
 ニ議會ヲ設ケ又特ニ裁判所ヲ獨立セシメテ之ニ依リテ行ハシメタルノデアリマ
 ス故ニ憲法ニテ特ニ機關ノ權限ニ讓ラザル事ハ尙ホ專制時代ニ於ケルガ如ク君
 主ノ專斷ニテ行フデノアル此事ヲ指シテ君主ノ憲法上ノ大權ト云フノデアリマ
 ス專制ノ政體ニ於テハ特ニ君主ノ大權ト云フ區別ヲ爲ス必要ガナイ總テノ事皆
 大權デアアルカラデアアル此區別ヲ爲スニ至リシハ憲法ヲ定メタルノ結果デアリマ
 ス

我憲法ニ大權ト云フコトハ之ヲ君主ノ法律上ノ特權ト解スルハ誤デアツテ歐羅
 巴ノ國法論ニハ多ク斯ク解スル其レハ彼レノ國體政體ノ觀念ガ我ト異ルカラデ

アル、立法權ヲ以テ國家最高ノ權力トスルカラ法律ヲ以テ特ニ君主ニ委任シテ立法權ガ君主ニ與ヘタル特別例外ノ權利ト看做スノデアアル、之ハ我憲法ニ付テハ全ク本末ヲ顛倒スル見解ト爲ル、寧ロ其反對デアツテ立法權ト云ヒ司法權ト云フハ君主ガ憲法ヲ以テ議會及裁判所ニ特ニ與ヘタルノ權力デアルト見ルベキデアリマス、此故ニ憲法全體ノ解釋トシテ其法文上特ニ議會及裁判所ノ權限ニ附與セザルモノハ總テ皆君主ノ大權ニ屬スルモノト解スベキハデアリマス、外國ノ君主ノ特權ト云フ觀念ト我大權ノ觀念トノ精神ノ差異ハ重要ノ事デアアルカラ記憶セネバナリマセヌ

大權ト云フ觀念ト大權事項ト云フ觀念トハ之ヲ混同シテハナラヌ、大權事項トハ憲法ニ特ニ列記シテ大權ニ屬スル旨ヲ掲ゲタル事項デアリマス、例バ憲法第一章ノ各條ニ天皇ハ陸海軍ヲ統帥ストカ、或ハ天皇ハ條約ヲ締結ストカ、官吏ヲ任免スルトカ種々具體的ニ事物ヲ列舉シテ特ニ天皇之ヲ行フト云フコトヲ明記シテアル、是等ノ列記ノ意味ハ是等ノ事項ハ君主ノ大權ヲ以テ行フコトヲ憲法上ノ要件トスル意味デアツテ議會ノ權力ヲ以テ之ニ干涉スルコトヲ許サザル意味デアアル

憲法列記ノ大權ノ事項ハ固ヨリ大權ヲ以テ之ヲ行ハザルベカラザルモノデアアル然レドモ大權ヲ以テ行フコトヲ得ル事物ハ之ニ止ルノ意味デハナイ、列記以外ノ事デアツテモ大權ヲ以テ之ヲ行フコトヲ妨ケザルノデアリマス、大權ト云フ觀念ハ形式上ノモノデアアル、君主ノ親裁專斷ト云フコトデアアル、故ニ大權事項ノ觀念ヨリハ廣イ、憲法ニ特ニ大權ヲ以テスベク立法權ニ依ルモノニアラズトシタルモノガ所謂憲法上ノ大權事項デアツテ之ハ大權ヲ以テ行フコトヲ要スル政務デアアル此區別ヲ知ルコトガ又甚ダ重要デアリマス

大權ハ之ヲ委任スルコトヲ得ルカ、我輩ノ觀念ニテハ委任スルヲ許サズト解釋シマス、大權ハ君主ノ親裁專斷ニ屬スルト云フ意味ハ君主ガ親裁專斷スルコトヲ憲法カ必要ナリト見テ之ヲ要求シテ居ルモノト思フ、之ヲ議會ノ權限ニ委任スルモ君主ノ自由デアルト云フ意味デハナイ、若シ斯ノ如ク解釋スレバ憲法ガ大權ノ制度ヲ設ケ特ニ大權ノ事項ヲ列記シタルコトガ無意味ト爲ル、且政治上ノ精神ヨリ推シテ考ヘテ見テモ或種類ノ政務ハ特ニ秘密ヲ要シ又特ニ敏速ヲ貴ブ、之ヲ君主以外ノ人ノ專斷ニ任カストカ、之ヲ議會ノ議決ニ付スルトカ云フコトハ政略ノ宜

シキヲ得ザルモノデアルト考ヘテ憲法ハ特ニ之ヲ大權トシタルノデアアル、例ハ法律ヲ裁可スルトカ、陸海軍ヲ統帥スルトカ、條約ヲ締結スルトカ、宣戰講和ヲ爲ストカ云フ類ノ事ハ憲法ハ君主一人ガシテモ議會ニ其權ヲ委ネテモ如何様デモ宜シイト云フ意味ニテ定メタルモノデハナイ、必ズ君主一人ノ專斷ニ依ルコトガ必要デアルト見テ斯ク定メタルモノデアアル、故ニ我輩ノ考ハ大權ハ之ヲ統治ノ機關ニ委任シテ行ハシムルハ憲法ノ意ニアラズト解スル、此意味ヲ確ムルニハ特ニ攝政ノ制度ヲ憲法ニ設ケタルニ由リテモ知ラル、天皇ガ大政ヲ親裁專斷スル能ハザルトキハ特ニ攝政ヲ置テ大權ヲ行ハシム、其レガ唯一ノ例外デアアル、攝政ニアラザレバ君主ニ代リテ君主ノ大權ヲ行フコトヲ許ササルノデアアル、憲法ハ唯此唯一ノ例外ヲ示シテ居ル、之ニ由リテ觀テモ憲法ノ精神ハ君主ガ自己ノ隨意ニ他人ヲシテ自己ニ代テ大權ヲ行ハシムルコトヲ許ササルニ在ルコト恐クハ明白ナラン、是等ノ事ヲ綜合シテ我輩ハ大權ハ之ヲ機關ニ委任スルコトヲ得ザルモノト見ルノデアリマス、此事ニ關シテハ憲法ヲ説ク者ノ内ニ或ハ我輩ト異ツタル意見モアルデアラウ、併シ未ダ此論決ヲ翻スニ足ル有力ナル理由ヲ認メ得ザルノデアリマス

或ハ大權ヲ國會ニ委任スルコトハ出來ヌガ、行政官府ニ委任スルコトハ差支ナイデアラウ、何トナレバ行政機關ハ君主ノ大權ニテ監督シ支配スルモノデアアルカラデアルト云フ見解ガアルカモ知レヌ、之ハ唯我輩カ自ラ想像シテ言フノデアアル、併シ此論ハ論理カ徹底シテ居ラヌ、元、委任スルト云フハ自ラ任意ニ之ヲ與ヘ任意ニ之ヲ奪フ自由アルモノデアアル、若シ行政官府ニ委任スルコトガ差支ナイナラバ立法ノ機關ニ委任スルモ同ジ道理ニテ差支ナキ筈デアアル、委任ヲ濫用スルト思ハバ何時ニテモ委任ヲ取消シ權カヲ恢復シ得ルコトガ委任ノ委任タル本來ノ性質デアアル、之ヲ全然拋棄シ讓渡スコトデハナイ、故ニ行政ノ官府ニ委任シテ差支ナクバ立法ノ官府ニ委任シテモ差支ナキ筈デアアル、然レドモ憲法ノ意味ハ決シテ左様ナルコトデハナイ、政略ノ上ヨリ觀テモ其精神ニアラザルハ明白デアアル、例ハ法律ヲ裁可スルノ大權ヲ大臣トカ知事トカニ委任シテ行ハシムト云フガ如キハ決シテ憲法ノ豫期スルコトデハナイ、故ニ大權ヲ委任スルト云フハ何等ノ機關タルヲ問ハズ攝政ガ代テ行フノ外ハ絶對ニ爲スベカラザルモノデアアルト解スルガ憲法ノ趣旨ヲ得タルモノデアルト思フ、之ガ我輩ノ説デアリマス、併シ世上頗ル反對論モ

アルカラ尙ホ取捨選擇爲サル、ガ宜シイ
 大權ノ範圍ハ前ニ言ヘル通り、憲法上ノ立法事項アリ、又大權自由ノ事項アリ、又憲法上ノ大權事項有テ之ニ依テ消極的ニ積極的ニ自ラ定ツテ居ルモノデアル、憲法上立法事項ト特ニ列記シテアル事項ハ大權ヲ以テ定ムルコトヲ許サハルモノデアル、之ガ消極的ノ限界デアリマス、憲法上ノ大權事項ハ必ズ大權ニ專屬スル事項デアアル、之ガ積極的ノ大權ノ範圍デアアル、而シテ憲法ニ大權ノ事項ナリトモ又ハ立法ノ事項ナリトモ特ニ列記明言セザル事項ハ大權ヲ以テ行フコトヲ得ル範圍デアアル、行フコトヲ得ルト云フハ大權ヲ以テ定ムルモ爲シ能フモノデアアル意味デアリマス、之ハ後ニ立法事項ノコトヲ説明シ法令ノコトヲ説クトキ再ビ精シク述ブレ、是レ所謂法律ト命令トノ共同ノ範圍デアアル、故ニ法律ガ既ニ定メタルコトハ大權ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得ズト云フ原則ガアル、之ニテ二ツノモノ、抵觸ヲ避ケテアル、例バ教育ノコトハ憲法ニ立法事項トモ大權事項トモ明記シテナイ、故ニ法令共同ノ事項デアアル、法律ニ抵觸セザル限リハ大權ヲ以テ之ヲ定メ得ルノデアリマス、斯ノ如クシテ觀レバ大權ノ及ブ範圍ハ豫メ事物ヲ列舉シテ悉ク示スコ

トハ出來ヌ、唯必ズ大權ニノミ依ルベク立法權ヲ以テスベカラザル事項ノミヲ特ニ列舉シテ之ヲ憲法ニ現シタルノデアリマス、實ハ茲ニ大權ノ事項ヲ憲法ノ條文ニ依テ列舉シテ示スベキ筈デアアルガ、講義時間ノ不足ナルカ爲メト又憲法條文ニテ自ラ知ラレ得ルコトデアアルトノ所以ヲ以テ各大權事項ヲ説明スルコトハ省テ置ク、憲法第一章ノ内ニ「天皇ハ何々ス」トカ「何々ノ事ヲ行フ」トカ云ヘル條文ハ即チ大權事項ノ列記デアリマス、固ヨリ其條文中「天皇ハ憲法ニ依リ統治權ヲ行フ」ト云フコトハ之ハ特ニ大權事項ト云フベキデハナイ、統治權ヲ行フハ大權デハナイ、統治權自身ノ行動デアアル、憲法ノ條文ニ依リテ統治權ヲ行フニ付キ其下ニ細別シテ大權トカ立法權トカ司法權トカ云フ區別ガ生ズルノデアアル、此事ハ殆ド言フヲ竣タザルノデアアルガ、之ヲ混シテハナリマセヌ
 大權ハ委任スルコトヲ得ズト云フ説明ヲシタガ、之ニ付テモ一言誤解ヲ防デ置ク大權其モノヲ委任スルコトガ出來ヌト云フ意味デアアル、又大權事項ト列記セラレタル事項ヲ委任スルコトヲ許サズト云フノデアアル、前ニ言フ大權ノ自由ノ事項ハ大權ヲ以テ行フモ大權ヲ以テセザルモ自由ノ事項デアアル、故ニ此自由ノ事項ニ付

テハ大權自ラ定ムル代リニ行政ノ官府ヲシテ定メシムルコトハ何等差支ハナイ
例バ教育ノコトヲ大權ヲ以テ親裁專斷シ勅令ヲ以テ定ムルコトモ之ヲ爲シ得ル
ト同時ニ官府ノ權限ヲ以テ之ヲ定メシムルモ何等差支ハナイ、此事ハ前ニ言ヘル
コト、混ジテハナラヌ、論理ヲ正確ニ言ヘバ此場合ハ實ハ大權其モノヲ委任スル
ノデハナイ大權ニテ定メザルノデアル、若シ論者ガ此事ヲ指シテ大權ヲ委任スル
ト云フナラバ委任ト云フ語ガ或ハ不當デアル、事實ニ於テ爲シ得ルコトデアル

立法權

第二章 立法權

「立法權ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ天皇之ヲ行フ」憲法ニ此條文ガアリマス、先ヅ立法
權ト云フ概念ヲ正確ニスルコトガ必要デアラウ、立法權トハ法律ノ形式ヲ以テ法
則ヲ制定スルノ統治權ノ行動デアリマス、之ガ大體ヲ誤ラザル定義デアル、之ヲ玩
味スレバ自ラ立法權ノ何タルガ了解セラル、
立法權ハ統治權ノ憲法上ノ動作デアリマス、統治權以外ニ立法權ト云フ權力アル
デハナイ、統治權ガ憲法ヲ通ジテ行動スル一ノ形式作用デアアル、立法權ヲ獨立自主
ノ特殊ノ權力ト見ルハ誤デアリマス、併ナガラ之ト同時ニ憲法ガ立法權ト云フ觀

念ヲ特ニ認ムルノ精神ニ、涉テ了解セネバナラヌ學者ガ之ヲ解スルニ二様極端ノ
弊ガアル、一方ニハ立法權ハ獨立自主ノ權力デアルト云フ是レ佛蘭西風ノ憲法論
デアリマス、又一方ニハ立法權ハ權力ト云フベキモノニアラズ、唯國家ノ立法スル
事務ノ區別デアルト見ル者ガアル之ガ近頃獨逸ニテ佛蘭西ノ極端ナル三權分立
論ニ對シテ起レル反動ノ學說デアリマス、單純ニ之ヲ事務ノ區別ト見ルノデアリ
マス、我輩ハ此二ツノ見解共ニ其當ヲ失スルモノト思フ、立法權ハ固ヨリ君主ノ統
治權以外ノ獨立ノ權力ニアラザルコトハ今言ヘルガ如クデアアル、併シ又之ヲ
單純ニ事務ノ區別ト見ルハ憲法ノ精神ヲ知ラザル者デアアル、政府ノ事務ニ「權」ノ字
ヲ附シテ云フハ實際ノナイコトデアアル、警察權トカ租稅ヲ取ル權トカ教育スル權
トカ實際ノナキコトデアアル、之ハ特ニ權力ト云フ必要ハナイ國家ノ統治權カ警察
スルノデアアル、租稅ヲ取ルノデアアル、若シ此意味ニテ法律ヲ制定スル事務ヲ立法權
ト云フナラバ寔ニ獨逸多數學者ノ言フ通り「權」ノ字ハ不用デアアル、立法ト云ヘバ事
足リテ居ル、又憲法ニ特ニ大權、立法權、司法權ト三ツノ區別ヲノミ掲グル必要ハナ
イ、併シ憲法ノ精神ハ此三ツノ區別ヲ特ニ掲ゲテ之ヲ權力ト云ヒ之ヲ分ツコトガ

其本旨デアル、此精神ハ前ニ屢言ヘル通り、唯我輩ノ自説トシテ唱ヘル國家ノ法律意思ト之ヲ成立セシムル自然人ノ自然意思トノ區別ヲ見ルコトニ依リテノミテ了解セラル、例バ警察ヲスルモ、教育ヲスルモ、租税ヲ取立ツルモ皆同ジ人ノ同ジ意思ニテスルコトデアルカラ之ヲ各權力ノ區別ト云フ必要ハナイ、然ルニ立法スル國家ノ法律意思ハ大權ヲ行フ國家ノ法律意思ト之ヲ組立ツル要素タル自然意思ガ異ツテ居ル、大權ハ君主タル一自然人ノ一自然意思ノミヨリ働テ居ル、立法權ハ君主ノ意思ト國會ノ議員タル自然人ノ許多ノ自然意思ガ結合シテ以テ國家ノ法律意思ヲ成立セシメテ居ル、表面ニ現レテ外部ニ對スル場合ニハ此内部ノ區別ハ消滅シテ唯國ノ統治權トシテ行動スル、去レドモ其内部ニ於ケル法律意思ノ成立ノ要素ガ異ツテ居ルカラ此區別ヲ指シテ權力ノ別ト云フノデアアル、此精神ヲ玩味スルニ依テ始テ立法權ト云フ憲法上ノ觀念ガ了解セラル、デアラウ、此意味ニテ茲ニ立法權ハ憲法上ノ權力ノ一デアアルト言フノデアリマス、權力ハ意思デアアル、意思ノ異ルガ故ニ權力ガ異ルト言フノデアリマス、此趣意ハ立法權ノコトノミナラズ、總テノ方面ニ付テ我輩ノ説明ノ根本トナルコトデアアルカラ之ヲ應用シテ推測

シテ了解セラレムコトヲ請ヒマス

立法權ノ性質ハ統治權行動ノ一形式デアアルト云フコトニテ盡サレテアリマス、唯歐羅巴諸國ノ國法論トシテハ種々異リタル彼ノ歴史ニ基クノ特殊ノ思想アルガ故ニ、却テ疑ヲ生ズルコトガアリマス、日本憲法ノ單純ナル解釋ト歐羅巴ノ國法ニ於ケル政治上特殊ノ解釋トハ區別シテ混ゼザルコトヲ要シマス、例バ歐羅巴ニテハ立法權ハ國家最高ノ權デアアルト云ヒマス、恰モ行政權、司法權ハ立法權ノ下ニ在ル第二等ノ權力デアアルカノ如クニ想像シテ居リマス、之ハ我國法ニハ採用スベカラザルノ觀念デアリマス、唯一ノ統治權カ立法シ行政シ裁判スルノデ、三ツノ權力作用ガ獨立シテ存在シ其中ニ就テ上下ノ差等アルモノデアリマセヌ、之ヲ獨立ノ權力ト見ルコトガ本來誤デアリマス、蓋歐羅巴人ノ此觀念アルハ法律ヲ以テ國家最高ノ意思ト看做スカラデアリマス、併シ我國ニ於テハ法律ハ命令ヨリハ力強シト云フベキモ憲法ノ下ニ在ルモノデアリマス、故ニ、國家最高ノ意思ハ法律ニアラズ寧ろ憲法デアリマス、此點ヨリ見テモ立法權ヲ以テ國家最高ノ權ト看做スハ誤デアリマス

或ハ又立法權ヲ直ニ國會ノ權力ト看做ス者ガアリマス、之ハ固ヨリ法理論トシテ不當ナルハ言フヲ俟タザルノデアツテ、我憲法ニテハ國會ハ君主ガ立法權ヲ行フノ機關トナツテ居リマス、立法者ハ君主デアアル、故ニ憲法ノ明文ニモ「天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ」トアリマス、五立法權ヲ行フ所ノ主體ハ君主デアアル議會ハ法律ノ案ニ對シテ協贊スルノデアリマス、君主ト國會トノ關係ヲ論ジテ二ツノ者ガ合同、同行、ヲ爲スノデアルト説ク人モアリマス、合同、同行、ト云フハ二人以上ノ人カ合同シテ對等ノ地位ニ在ツテ共同ノ目的ヲ達スル爲メニ働クノヲ謂フノデアリマス、今君主ト議會トガ合同、同行シテ立法スルト云フハ我憲法第五條ノ明文ニ反シマス、君主ガ立法スルニ付テ議會ノ議決ヲ經ルコトヲ要スルノデアアル、議會ノ同意ガ必要デアアルカラト云フテ立法行爲ソレ自身ヲ君主及議會兩者ノ合同、同行爲デアルト論ズルハ不當デアリマス、事柄ハ大變遷ヒマスケレトモ子ガ婚姻スルニハ親ノ同意ガ必要ナルコトモアル、併シ親子ガ合同シテ婚姻スルノデアリマセス、一人ガ當事者トシテ或事ヲ行フニ付キ其前置條件トシテ、他人ノ同意ヲ必要トスルト云フコトハ珍シカラヌコトデアリマス、其本人ノ行爲タルコトヲ妨ゲザ

ルノデアリマス

立法權ノ範圍ハ憲法ニテ定ツテ居リマス、憲法ニテ之ヲ定ムルニ概シテ二ツノ方法ガアツテ一ツハ原則主義ト云ヒ一ツハ列記主義トデモ稱フベキモノデアリマセウ、實例ヲ以テ云ヘバ佛蘭西系統ノ諸國ノ憲法ニ於テ採用セル主義ト我憲法ノ主義トノ差異デアリマス、原則主義トハ凡ソ人ノ自由ヲ束縛シ權利ヲ制限スルノ法則ハ總テ法律トシテ之ヲ定ムベシト云フノデアリマス、故ニ立法權ノ範圍ハ事荷モ人身ノ自由權利ニ關係スルコトデアアルナラバ必ズ皆之ガ立法事項トナツテ立法權ノ範圍ニ必ズ屬スベキモノデアルト見ルノデアリマス、之ガ佛蘭西系統ノ憲法ノ精神デアリマス、列記主義ト云ヘルハ、自由權利ノ制限束縛ト云フ單純ナル標準ニ依ラズ、箇々別々ノ事項ヲ憲法ニ列記シテ其列記ニ屬スル事項ハ憲法上ノ立法事項デアルトスルモノデアリマス、之カ我憲法ノ採ル所デアリマス我憲法ノ立法權ノ範圍ヲ定ムルハ一方ニハ消極的ニ一方ニハ積極的ニ定メテアリマス、消極的ニト云フハ凡ソ憲法上ノ大權事項トシテ憲法ニ列記セラレタルノ事項ハ、法律ヲ以テ定ムルコトヲ得ズ、立法權以外ノ範圍ニ屬スルトシテ居ルノデ

アリマス、又積極的ニハ憲法ノ條項ヲ以テ必ズ法律ヲ以テ定ムベキコトヲ明言セ
 ルモノハ是レ憲法上ノ立法事項デアル、立法權ニ專屬スルノ範圍デアリマス、而シ
 テ憲法ノ明文ニ大權事項ナリトモ、又ハ立法事項ナリトモ別段明言ナキ事項ハ、所
 謂大權、立法權共通ノ範圍デアル、或ハ法律ヲ以テ定メ、或ハ命令ヲ以テ定ムルコト
 ハ自由デアリマス、之ガ日本憲法ノ主義デアツテ佛蘭西憲法ノ主義ト全ク根據ヲ
 異ニスル點ノ一ツデアリマス
 憲法上ノ立法事項ハ例ハ憲法第二章臣民ノ權利義務ト題スル所ニ列記シテアル
 事項ノ如キデアリマス、例ハ納稅ノ義務、兵役ノ義務、居住及移轉ノ自由、或ハ罰ヲ科
 スルコト、所有權ヲ制限スルコト等ノ如キ、人ノ自由權利ニ關係シテ事ノ重大ナル
 モノハ命令ヲ以テスベカラズ必ズ法律ヲ以テ之ヲ定ムベキコトガ明言シテアリ
 マス、是ガ憲法上ノ立法事項デアル此範圍ハ大權ヲ以テ侵スコトヲ得ザルハ明白
 デアリマス

憲法ハ大權事項ト立法事項トヲ判然列記シテ分テルガ故ニ、大權ト立法權トハ衝
 突矛盾スルコトハナイノデアリマス、大權事項ニモ憲法上ノ立法事項ニモアラザ
 ルモノハ、自由立法ノ事項デアリマス、立法權專屬ノモノデアリマセヌ、法律ヲ以
 テ定ムルコトヲ得ルノデアツテ、法律ニアラザレバ規定スルコトヲ得ザル事項デ
 ハアリマセヌ、此範圍ヲ法令共同ノ範圍トモ云ヒマス、法律命令共ニ働クノ場合デ
 アツテ此大權立法權共同ノ範圍ニ於テハ、法律ハ命令ヨリモ效力ガ強イノデア
 ル、此事ハ後ニ法律ト命令トノ效力ヲ述ブル所デ更ニ説クデアリマセウ

法律

第四章 法律

法律ト云フ觀念ハ狭キ意味ニモ廣キ意味ニモ用キラレマス、憲法ニ法律ト云フト
 キハ狭キ意味デアツテ議會ノ協贊ヲ經テ君主ガ裁可シテ公布スルノ成文ノ法則
 デアリマス、法律ハ國家ノ意思ノ發表ノ形式ノ一ツデアツテ議會ノ協贊ヲ經テ之
 ヲ發表スルト云フコトハ命令ニ對シテノ特色タル所デアリマス、之ヲ解シテ法律
 ハ君主ト議會トノ兩者ノ意思デアアル、命令ハ君主一人ノ意思デアルト云フノハ誤
 解デアリマス、法律又ハ命令トシテ外部ニ現ハル、トキハ總テ皆同一ニ、國家其モ
 ノ、意思ノ表示デアアル、内部ニ於テ如何ナル手續ニテ其意思ガ決定セラル、ニ至
 リシカハ、外部ノ效力ニ付テ關係ナキコトデアリマス、故ニ法令ハ共ニ國家ノ意思

デアル、而シテ我國體ニ於テハ天皇ノ意思即チ國家ノ意思ヲ成スノデアアルカラ、君主ノ裁可ニ依テ之ガ國家ノ意思トナルノデアリマス

法律ハ法則デアアルヤ否ヤト云フコトハ學者論トシテ研究セラル、所デアリマス我輩ハ憲法ノ趣意ハ法則ヲ設クル爲メニ立法權アルノデアルト解釋シテ居リマス、併ナガラ實際ニ於テハ法律ト云フ形式ガ事實法則ノ實質ナキ事ニ準用セラルルコトガアルノデアリマス、素ト法則ヲ設クルニハ議會ノ協賛ヲ要スルト云フ意味デアリシモノガ後ニ變リマシテ、議會ノ議決ヲ經タルモノハ法律デアルト云フコト、ナツタノデアアル、故ニ外國ノ憲法ヲ註釋スルトキニハ特ニ注意ヲ要シマス

佛蘭西語デ「ロア」又ハ獨逸語ニテ「ゲゼツ」ト云フ言葉ハ、通常譯シテ法律ト云ヒマスケレドモ、必ズシモ民法、刑法等ノ如キ權利義務ノ準則タル法則ヲ實質トセズ、單純ナル處分行爲ヲ實質トスルコトガアリマス、例バ某大將ハ戰功アリシニ付キ金幾萬圓ヲ贈與スト云フガ如キ單純ナル議決ガ、外國ニテハ法律第何號トシテ發布セラルノ、デアリマス、故ニ學者ガ法律ニ二種類アリ一ハ實質的法律、一ハ形式的法律デアルト云ヒマス(獨逸ラバント國法論參照)

實質的法律トハ法律ノ形式ヲ具ヘ且法則タル實質アルモノヲ謂ヘルノデアリマス、形式的法律トハ法律ノ形式ハ具ハレドモ法則タル實質ノ具ハラザルモノヲ謂フノデアリマス、例バプロイセンノ憲法ニテ國ノ境ヲ變更スルハ法律ヲ以テスベシト云フ條ガアルガ、其意味ハ國境ノ變更ハ國會ノ議決ヲ經ベシト云フ意味タルニ止ツテ、法則ヲ必要トスルト云フ意味デハナイノデアリマス、我憲法ニ於テモ稍此疑ガアリマス、併ナガラ概シテ之ヲ論ズルトキハ我憲法ニテ謂フ法律ハ所謂實質ト形式ト二ナガラ兼ネ具フル所ノ國家ノ意思ヲ謂ヘルノデアルト解釋シテ誤アリマセス、故ニ法律ヲ斯ノ如ク定義シテ前ニ示シタルノデアリマス、法律ハ成文ノ法則デアツテ議會ノ協賛ヲ經テ裁可シ、公布セラレタル國家ノ意思デアアル、君主ノ命令デアルト解スルノデアリマス

之ヨリ立法ノ手續ヲ説明シマス、立法手續トハ法律ノ成立スル憲法上ノ要件ノ意味デアリマス、此要件ハ四ツアル、**(第一)法律案ノ提出****(第二)法律案ノ議定****(第三)裁可****(第四)公布**デアリマス

第一 法律案ノ提出トハ、法律トナサント欲スルノ草案ヲ議會ノ議ニ付スル意味

デアリマス、法律案ヲ提出スルノ權ハ、政府、貴族院、衆議院此三ツノ者ニ存シマス、此權ハ各平等ニ有シテ區別アリマセヌ、或國ニ於テハ上下兩院提出權ニ付テ權能ニ差異アルモノモアリマス、併シ我憲法ニハ政府、上下兩院三ツノ者ハ平等ニ同一ニ提出權ヲ有スルモノト定メテアリマス、法律案ヲ提出スルモノハ右ノ三ノモノデアツテ、議員何ノ某ト云フ個人ガ提出スル權ヲ有スルモノデハアリマセヌ、通常何ノ某ガ法律案ヲ提出スルト云フハ、實ハ憲法ニ謂フ提出權ノ行使ニハアラズシテ、發議權ヲ行フノデアリマス、之ヲ法律案トシテ他ノ議院ニ提出センコトヲ希望スルノ發議デアリマス、法律案ハ衆議院ヨリ貴族院ニ、又ハ貴族院ヨリ衆議院ニ若ハ政府ヨリ提出スルモノデアツテ、議員タル何ノ某ト云フ個人ガ提出スルモノデハアリマセヌ、發議ノ權ト提出ノ權トヲ混ジテハナリマセヌ、提出權ニ付テハ憲法上唯一ツノ制限ガアリマス、ソレハ憲法第三十九條ニ兩議院ノ一ニ於テ否定シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ストアル、之ハ此文字モ趣意モ明白デアツテ別ニ説明ヲ要セヌト思ヒマス、無用ノ審議ヲ省クノ意ニ外ナラヌノデアリマス、法律案ハ未ダ議定ニ至ラザル前ナラバ提出者ハ之ヲ撤回シテ、再ビ修正

ヲ加ヘテ提出スルコトハ妨ナイノデアリマス、否決セラレタルモノヲ再ビ提出スルノハ許ササルノデアリマス

第二 法律案ノ議定ト云フハ、議會ノ兩院ガ同一ノ案ニ付キ同一ノ議決ヲ爲シタルコトヲ意味スルノデアリマス、一院ノ否トスル所ハ議定ニ至ラザルノデアリマス、兩院同シ議決アルコトヲ要シマス、同一ノ案ニ付キ、兩院ノ議決異リタルトキハ兩院協議會ヲ開クノ制度ガアリマス、協議會ト云フハ各院ヨリ各同數ノ委員ヲ選ミ會合シテ協議セシメ協議會ニテ成立シタル案ヲ再ビ各議院ニ回付シテ修正ヲ加ヘズシテ協議會成立ノ案ニ就キ議決ヲ採ルノデアリマス、若シ斯クシテ兩院ノ議尙ホ一致セザルトキハ固ヨリ廢案デアリマス、之ガ兩院協議會ノ制度デアツテ兩院調和ノ手續ヲ定メタルモノデアリマス

法律案ノ議定ト云フハ國會ノ意思ノ決定デアリマス、併ナガラ國會ノ意思ト云フハ形容ノ言葉デアツテ、法理上議會其モノヲ以テ意思ノ主體ナリト看做ス意味デハアリマセヌ、之ニ付テハ種々異ツタル解釋モアルデアリマセウ、議會ガ意思ノ主體ナリト云フ說モアルデアリマセウ、併シ私ノ解釋シテ居ル所ヲ以テ云ヘバ議會

ヲ組立ツル所ノ議員各個人ハ自然人デアルカラ自然ノ意思ヲ具ヘテ居ルノデア
リマス、其多數ノ意思デ憲法及議院法ノ規定ニ依ツテ議會ノ議決ト名ケラル、ノ
デアアル議員個々別々ノ人ヲ算ヘテ示スコトノ代リニ、總括的ニ議會ノ議定デア
ト云フノデアリマス、議會其モノヲ以テ獨立ノ意思ノ主體トナス譯デハナクシテ
意思ハドコマデモ議員タル各個人ノ意思デアリマス

凡ソ議院ノ議決ハ多數決ニ依ルト云フコトデ現今ノ法律トナツテ居リマス、併シ
之ハ全ク機械的ノ定デアツテ當然ノ條理ト心得ルハ誤デアリマス、或ハ全會一致
ヲ要ストスルモ、三分ノ二以上ノ一致ヲ要ストスルモ多數ノ決ニ從フモ或ハ少數
ノ決ニ從フモ全ク便宜ノ問題デアアル、多數ハ多數ナルガ故ニ少數ヲ壓制シ得ベキ
先天的當然ノ道理アツテ然ルモノデアアルカノ如クニ想像スルハ迷信ノ一ツデア
リマス、何ガ故ニ多數決ニ依ルカト問ハ、法律第何條ノ規定アルカラデアルト答
フルノ外ハナイノデアリマス

第三 裁可ハ法律案ヲ國ノ法律トナス主權者ノ意思ノ表示デアリマス、法律案ハ
議會ノ議定ニテ確定シ而シテ裁可ニ依ツテ之ガ法律タルノデアリマス、裁可ナケ

レバ法律ナク裁可以前ニハ唯法律ノ案ノミデアアルノデアリマス、未ダ法律ナルモ
ノ存在セザルノデアリマス、故ニ裁可ハ立法ノ行爲デアルトモ云ヒマス、立法ト云
フコトヲ法律ノ成就スル瞬間ヲ指スコト、解スレバ裁可ハ即チ立法行爲ナリト
云フテ差支アリマセヌ、唯通常立法ト云フコトヲ法律制定ニ必要ナル條件ヲ履行
スルコトニ充テ、用キマスカラ斯ク解スレバ立法行爲ハ法律案ノ提出ニ始リ種
種ノ階段ヲ經テ成立スルモノデアルト見ルノデアアル、裁可ハ大權ノ行動デアアル、君
主ガ之ヲ可トシテ法律トスルノ行爲デアリマス、尙ホ裁可ニ就テ多少誤解ガアリ
得ルカラ辯解シテ置キマセウ

裁可ハ議會ニ對シテ返答スルコトデアアリマセヌ、英國風ノ憲法ニテハ法律ハ君
主ト上下兩院トノ合意、約束ノ如クニ想像シテ居リマシテ君主ガ議院ノ申込ニ對
シ又ハ請求ニ對シ承諾ヲ與フルコト、想像シテ居リマス、故ニ所謂裁可ハ國會ニ
對シテ同意ヲ表スルコト、見テ居リマス、之ハ我憲法ニハ採用スベカラザルノ觀
念デアアル、裁可ハ寧ロ國民全體ニ對シテ命令スルノ意思ヲ顯スノ方法デアリマス
議會ニ對シテ可否ノ批評ヲ爲スコトデアアリマセヌ、故ニ英國風ノ裁可ニハ裁可

ト云フコト、不裁可ト云フコト、ノ二ツノ方式ガアリマス、議會ニ返答スルコトト見ルカラ同意スルトカ同意セヌトカ云フ、消極積極ノ形式ガアリマス、日本ニハ裁可ノ式アルハミデアツテ不裁可ノ式ハアリマセヌ、不同意ヲ謂フ必要ガアリマセヌ、何トナレバ國會ニ對シテ返答ヲ爲ス趣意デナイカラデアリマス、君主ガ可トスルモノハ裁可シテ之ヲ發表スルノデアアル、可トセザルモノハ唯手許ニ留メ置クノミデアアル、何等外部ニ對シテ返答スル必要ハナイノデアリマス、議會ノ議決ハ君主ノ參考ノ爲メニ意見ヲ述ベタルコトニ止ルノデアリマス

裁可ニハ式ガアツテ公布式ト云フ勅令ノ現行ノ規定ガアリマス、法律ノ成文ニ御名ヲ署シ御璽ヲ鈐シ國務大臣之ニ年月日ヲ記シテ副署ヲスルコトニ依ツテ裁可ノ式ガ終リマス、裁可ニ依ツテ法律ノ原本カ成立スルノデアリマス

第四 公布ハ法律ガ成立シタルコトヲ公ニ示スノ式デアリマス、法律ハ裁可ニ依リテ成リ其成立シタル法律ヲ公布スルノデアリマス、法律ノ成立スル時期ニ付テ學者ノ間ニ二ツノ説ガアリマス、公布ニ依ツテ始テ法律ガ成立スルト云フ説ト、裁可ニ依ツテ成立スルト云フノ説デアリマス、私ハ裁可説ヲ採ツテ之ヲ説明シテ置

キマス、蓋公布説ハ法律ノ人民及官府ニ對シテ執行セラル、ノ時期ガ公布ニ依ツテ定ルコトヲ見テ之ヲ法律ノ成立ナリト云フノデアリマセウ、今詳シクハ批評シマセヌガ之ハ本來ノ趣旨ニ適ハザル説明デアリマス、我輩ノ見ル所ニテハ裁可ニ依ツテ主權者ノ意思ガ決定セラレテ居ルノデアリマス、法律ハ既ニ成立シテ居ルノデアリマス、憲法第六條ニモ明文アル通り天皇ハ法律ヲ裁可シ而シテ其公布及執行ヲ命ズルノデアリマス、官府ガ命ヲ承ケ公布スルノデアアル、公布ニ依ツテ立法スルニハアラズシテ、裁可ニ依ツテ成立セル法律ヲ人民一般ニ知ラシムル爲メニ公布スルノデアリマス、法律案ヲ公布シテ法律トナスニアラズ、既存ノ法律ヲ公布スルノデアリマス、斯ク解スルニアラザレバ公布ニ誤ノアリシトキニ正誤スルト云フコトハ意味ヲ成ササルノデアリマス、法律ノ公布ニ誤ガアツタナラバ正誤ヲスルコトヲ得ルノデアアル、何トナレバ、法律ノ原本ガ其外ニ存スルノデアアル原本ノ寫ヲ官報ニ載セテ公布ヲスルノデアアルカラ、本ト末トノ區別ハ之ニ依ツテモ知ラル、ノデアアル、原本ト公布ト異ル場合ニハ原本ニ依ツテ訂正セザルベカラザルコト、ナルノデアリマス、故ニ裁可ガ法律ノ原本ヲ作ル行爲デアルト見テ差支ナイ

ト思ヒマス、公布ノ意味ハ單純ニ廣ク世上ニ告グルト云フ事實上ノ便宜ノ意味ノミナラズ、法律ノ執行力ヲ起算スル起算點ヲ明ニスルコトハ必要ナリデアリマス、公布ニ依ツテ官府モ人民モ法律ノ成立シタルコトヲ知り、又之ニ依ツテ之ヲ行フベキ義務ヲ負フデアリマス、公布ナキトキハ外部ノ者ハ之ヲ知ルニ由ナク、又外部ニ對シテ效力ヲ生ズルベキ所以ハナイデアリマス、公布ガ其媒介ヲ爲スノデアル、公布ニ依ツテ一方ニハ法律ノ存在ヲ示シ、一方ニハ法律執行ノ起算點ヲ明ニスルノデアリマス、事實上裁可ハ内部ノコトデアツテ公布ハ表面ニ現ハル、行爲デアルカラ裁判官トカ人民トカ云フ地位ニ於テ法律ノ實用ノミヲ見ルトキハ公布ニ重ヲ置キ、官報サヘ見レバ足リルト云フ實際デアアルノデアリマス、唯國法論トシテハ法律ノ原本ハ官報以外ニ成立シテ存在スルト云フコトヲ忘レテハナリマセヌ

公布ノ式ハ現今ハ勅令ニテ定メテアリマシテ、官報ニ載セテ公ニスルコトヲ其式トシテ居リマス、併ナガラ之ハ勅令以下ノ今日ノ規定デアツテ、憲法上ハ如何ナル方法ヲ執ツテ公布スルモ自由デアリマス、序ニ官報ニ於ケル法律命令ノ正誤ハ、現今ノ方法ハ餘リニ簡略ニ失シテ公布ノ精神ニ適ハザルコトヲ一言シテ置キマス之ハ憲法ノ説明トシテ必要ナルコトデモナイガ、裁判官モ人民モ官報ヲ唯一ノ標準トシテ權利義務ヲ論ズルモノデアルカラ、官報ニ於テ法令ノ文章ニ誤アリシトキハ其影響甚ダ重大デアリマス、然ルニモ拘ラズ官報ノ片隅ニ極ク小サク人ノ注意ヲ故ラニ避クルガ如クニ正誤ヲシテ置クト云フガ如キ現今ノ方法ハ甚ダ不満足デアリマス、且公布ハ總理大臣ノ職權トナツテ居リマスカラ、正誤スルモノモ總理大臣ノ名ニ於テスベキノデアリマス、唯各省ノ書記官トカ或ハ官報局ノ屬官トカハ正誤トシテ之ヲ改ムルノハ甚ダ趣意ニ適ハヌコトデアリマス、立法ノ手續ハ概略以上ノ四ツノ條件ヲ以テ成就スルノデアリマス、之ハ憲法上ノ必要ナル手續デアアル、此要件ノ一ツヲ缺カバ法律タルコトヲ得ザルノデアリマス、又法律ノ特殊ノ效力ヲ生ズル所以ハ此手續ヲ經タルコトニ存スルノデアアル、原則トシテ一タビ發セラレタル國家ノ意思ハ之ヲ發シタルト同一ノ手續ニ依ルニアラザレバ之ヲ變更スルコトヲ得ズト云フノデアリマス、之ガ原則デアアル、故ニ法律ハ此手續ヲ經テ發表ヲセラレテアルカラ、法律ヲ變更スルニハ又再ビ同一ノ手續

ヲ經ナケレバナラスト云フノデアリマス、之ガ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ズト云フ原則ノ出ヅル所以デアリマス、法律ト命令トハ本來ソレ自身ノ性質上優劣強弱アル譯デアリマセス、唯各之ヲ制定スル手續ガ異ツテ居ルモノデアルカラ一ヲ以テ他ヲ變更スルコトヲ得ズト云フノデアリマス

第五章 命令

憲法ニ於テ法律ニ對シテ命令ト云ヘルハ議會ノ協賛ヲ經ズシテ君主ノ大權ヲ以テ發スル所ノ國ノ法則デアリマス、特殊ノ形式アル成文ノ法則タル點ニ於テハ法律ト異ルコトハナイノデアアルガ、唯議會ノ協賛ヲ經ルト經ザルトノ點ニ於テ區別アルノデアリマス、此區別ヨリシテ法律ト命令トニ效力ノ差異ヲ生ズルノデアリマス、法律命令共ニ其實質的效力ニ於テハ同ジデアアル、實質的效力ト云フハ人ヲ束縛スル效力即チ人民ノ遵奉スベキ義務ニ於テハ二ツノモノ同一デアリマス、唯形式的效力ニ於テ差ヲ生ジマス、形式的效力トハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ズト云フ一般ノ通則ヲ指シテ云ヘルモノデアリマス、尤モ命令ノ種類ニ依リテ法律ニ對スルノ效力ガ異ツテ居ルモノデアアルカラ、一概ニ命令ハ常ニ必ズ法律ノ

下ニ在ルト云フコトハ云ハレマセス、但議會ノ協賛ヲ經タルモノハ又議會ノ協賛ヲ經ルニアラサレバ之ヲ變更スルコトヲ得ズト云フ一般ノ通則アルガ故ニ法律ト命令トノ間ニ效力ノ差異ヲ生ズルノデアアル、併シ法律ト命令トノ效力ノ區別ハ各種ノ命令ニ就テ各別ニ説クコトヲ必要トシマス

凡ソ命令ハ天皇ノ大權ヲ以テ發スルモノデアリマス、而シテ憲法第九條ニ依リテハ大權ヲ以テ行政官ニ委任シテ命令ヲ發セシムルコトヲモ認メテアリマス、兎ニ角大權ヲ以テ發スルカ若ハ大權ノ委任ニ依ツテ發スルカノモノデアリマス、委任ト云フハ大權其モノヲ委任スル意義ニハアラズシテ、大權ヲ以テ行政官府ニ命令ヲ發セシムルコトヲ謂ヘルノデアリマス

我憲法上ノ命令ヲ別ツテ三ツノ種類トシマス

第一 大權命令

第二 法律ニ代ルノ命令

第三 行政命令

此三ツノ種類ニ就テ各別ニ説明スルコトガ必要デアリマス、何トナレバ命令ノ範

圖モ效力モ各種ニ付テ各異ツテ居ルカラデアアル、歐羅巴ノ教科書風ニ論ズレバ、命令ハ命令トシテ一概ニ同一效力ノモノデアアルカノ如ク看做シテアリマスガ、我憲法ニテハ各其效力ヲ異ニシテ居リマス、之ハ特ニ注意ヲ要スル所デアリマス。

第一 大權命令 トハ憲法上ノ大權事項ヲ其實質トシテ規定スル命令デアリマス。總テ勅令ヲ發スル權ハ素ヨリ大權デアリマス、併シ總テノ勅令ハ必ズシモ茲ニ謂フ大權命令デアリマセス、勅令ヲ以テ大權事項以外ノ事項ヲ定ムルコトモ得ルノデアリマス、而シテ勅令ニシテ其規定スル實質ノ事項ガ所謂憲法上ノ大權事項デアアルモノヲ特ニ名ケテ茲ニ大權命令ト云ヘルノデアリマス、何ガ故ニ特ニ之ヲ大權命令ト名ケテ他ノ命令ト區別スルカト云フニ、他ノ命令ト其效力ヲ異ニスルガ故デアリマス憲法上ノ大權事項ノ何タルカハ既ニ前ニ明瞭ニ説明シテアリマス、茲ニ再ビ説キマセス、例ハ憲法第一章ニ列記セル事項ノ如キデアリマス、此憲法列記ノ大權事項ヲ規定スル命令ハ性質上法律ト對等ノ力ヲ有スルモノデアリマス、大權命令ヲ以テ法律ヲ犯スコトヲ得マセス、而シテ又法律ヲ以テ大權命令ヲ變更スルコトヲモ許シマセス、二ツノ者兩々併立ツテ

相犯スコトヲ得ズト云フ點ガ大權命令ノ特色デアリマス、總テ他ノ命令ハ法律ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得ルノデアリマス、唯大權命令ハ法律ヲ以テ變更スルコトヲ得ザルノデ、之ガ效力ノ特殊ナル所デアリマス、何ガ故ニ然ルカ、理由ハ明白デアリセマツ、既ニ大權事項ヲ辯明シタル所ニ云ヘル通り、憲法列記ノ大權事項ハ議會ノ干涉ノ外ニアツテ君主ノ親裁專斷ニ留保セラレテアル事項デアリマス、法律ヲ以テ定ムルコトヲ許サズ必ズ大權ヲ以テ定ムルコトヲ憲法上要求シテ居ルモノデアリマス、故ニ所謂大權命令ハ立法ノ手續ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得ザル效力ヲ生ズルノデアリマス、又此理由ニテ法律ト大權命令トハ性質上抵觸スベカラザルモノデアリマス、何トナレバ憲法上ノ立法事項ト大權事項トハ事項其モノヲ別チテ各其範圍ヲ異ニシテ居ルカラデアリマス、法律ト大權命令トハ別ノ範圍ニ働イテ居ルカラ相抵觸スル虞ハナイ道理デアリマス、二者各活動ノ範圍ヲ異ニシテ居リマス。

第二 法律ニ代ルノ勅令 ハ憲法第八條ニ依ツテ發スル命令デアリマス、天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲メ緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉

會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス是ガ第八條ノ法文デアツテ此勅令ノ性質ハ明白デアリマス此勅令ノ實質範圍ハ所謂憲法上ノ立法事項デアリマス、法律ヲ以テスルニアラザレハ之ヲ規定スルコトヲ許サザル事項デアリマス而シテ憲法ノ第八條ニ於テ特ニ其例外ヲ設ケ緊急已ムヲ得ザル場合ニハ勅令ヲ以テ立法事項ヲ規定シ得ルコトヲ示シタルノデアリマス、之ガ法律ニ代ルノ勅令デアル此勅令ヲ發スルニハ此條文ニ見ユル通りニツノ條件ガアリマス、一ツハ安寧秩序ノ保持ノ爲メニ緊急ノ必要アルコト又一ツハ帝國議會ノ閉會中ナルコトデアリマス、素ヨリ緊急ノ必要アルニアラザレハ此勅令ヲ發スルコトヲ許サザルノデアアル、併ナガラ緊急デアルト否トノ認定ハ大權ニ存スルノデアリマス、又憲法ノ條文ニ依レバ安寧秩序ノ危害ヲ防グト云フ目的ニノミ限ツテ之ヲ發シ得ルノデアリマス、單ニ社會公益ノ爲メデアルカラト云ツテ之ヲ發スルコトヲ許サザル精神デアアル消極的ニ緊急ノ危害ヲ防グ爲メニノミ之ヲ發シ得ルコト、シテアリマス、狭ク限ツテ災厄ヲ防グノ精神デアリマス、又議會閉會中ニアラザレバ之ヲ發スルコトヲ得ザルノデアアル、之ハ當然ノコトデアツテ開

會中ナラバ普通ノ立法手續ヲ執リ得ベキモノデアリマス併ナガラ憲法第七十條ト財政上ノ緊急處分ノ場合ニハ略之ト相似タル勅令ヲ發スルノデアアルガ議會閉會中ナラバ臨時會ヲ召集スルコトヲ試ミ、召集スル能ハザルトキニ始テ緊急處分ヲ爲シ得ルノデアリマス此第八條ノ場合ニハ故ラニ臨時議會ノ召集ヲ試ミズトモ閉會中ナラバ發シ得ルコト、ナツテ居リマス此勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スベシ若シ議會ニ於テ承諾セザルトキハ政府ハ將來ニ向ツテ其效力ヲ失フコトヲ公布スヘシ之ガ第八條ノ第二項ノ規定デアリマス明文通り此勅令ハ後ニ議會ノ議決ニ附シ承諾ヲ經ナケレバナリマセヌ承諾トハ尙ホ議會ノ協賛ト云ヘルト同ジコトデアアル、歸スル所上下兩院ノ可決ヲ意味スルニ外ナラヌノデアリマス

デ此承諾ヲ求ムルト云ヘバ過去ノ行爲ニ付キ追認ヲ求ムルガ如ク聞エマス、政治上ノ意味ハ或ハ過去ノ政策ヲ後ニ議會ニ諮ツテ追認ヲ求ムルノ政治的意味ヲ含ンデ居ルノデアリマセツ併ナガラ法律上此勅令ノ效力ヲ論ズル點ヨリスレバ承諾ト云フ文字ハ形容ノ語デアツテ單ニ議決ト見ルベキデアリマス、若シ

上下兩院ガ承諾ヲ與フルナラバ此勅令ハ其形ヲモ性質ヲモ改メズシテ當然ニ將來ニ向ツテ引續キ效力ヲ有シマス若シ議會ガ承諾ヲ與ヘザルトキニハ此勅令ハ大權ヲ以テ更ニ廢止セザルベカラザルコト、ナリマス、承諾ヲ得ザルト云フハ議會ガ否決シタルトキ又ハ議會ガ如何ナル理由ニテモ議決セザリシトキヲ含ンデ云ヘルノデアリマス、若シモ茲ニ云フ承諾ガ法理上不法ナリシ行爲ヲ後ニ追認スル意味デアツタナラバ議會ノ不承諾ハ當初ニ遡ツテ其勅令ヲ無効トスルコト、ナラナケレバナラヌノデアリマス、併ナガラ憲法ノ明文ニ依レバ議會ガ否決シテモ將來ニ向ツテノミ勅令ノ效力ヲ奪フ結果ニ止ツテ既往ニ遡ツテ既遂ノ結果ヲ取消スコトヲ得ザルモノトシテアリマスカラ之ニ依テ見テモ茲ニ謂フ承諾ハ法律上ノ見解ヲ以テセバ單純ナル議決デアル、追認ノ意味デナイト云フコトガ明白デアリマス、不承諾ノ場合ニ此勅令ガ效力ヲ失フハ議會ノ議決ノ當然ノ結果ニハアラズシテ、更ニ勅令ヲ以テ之ヲ廢止スル旨ノ公布アルコトヲ要シ其公布ニ依ツテ前ノ勅令ガ廢止セラル、ノデアリマス、通常ノ場合ニ後ノ勅令ヲ以テ前ノ勅令ヲ廢止スルコト、少シモ異ル所ハアリマセヌ

憲法條文ノ解釋ハ之ニテ明瞭デアラウト、思フガ此制度ニ關シテハ外國ノ憲法ノ精神ト異ル重要ノ點ガアリマスカラ附加ヘテ話シテ置キマス、之ト類似ノ規定ハプロイセン或ハ埃地利等ノ憲法ニ在リマス、英國又ハ佛蘭西等ノ憲法ニハ從來明文ヲ以テ之ヲ認メテ居リマセヌ、併シ事實ハ同ジヤウナルコトガアルノデアリマス、之ヲ明文ニ認ムル國ト雖モ其理論ニ至ツテハ我憲法ト異ツテ居リマス、此制度ハ蓋英國風ノ憲法上ノ慣例ニ基ケルモノデアツテ、英國ノ制度ヲ模範トシテ外國ニ及ボシタノデアラウト思ヒマス、併シ英國ノ憲法解釋ハ全ク我ガ憲法ト異ツテ居ル點ガアリマス、簡約ニ要點ヲ話セバ元來英國其他歐羅巴諸國ノ憲法ノ精神ニテハ憲法上ノ立法事項ハ絕對的ニ命令ヲ以テ犯スコトヲ得ザルモノトシテアリマス、併ナガラ國會ハ常ニ開會シテ居ルモノデモナク國家緊急ノ事件ハ不意ニ起ルコトモアルカラ、此場合ニハ單純ナル憲法ノ文字上ヨリ見レバ、政府ハ唯手ヲ拱イテ傍觀シテ居ラナケレバナラヌ譯デアリマス、併シ政治上ノ實際ハ斯ノ如キ迂濶ナルコトヲ許サハルガ故ニ、政府ハ國家緊急ノ危害ヲ救フガ爲メニ已ムヲ得ズ憲法違犯ノ行動ヲ爲シ大權ヲ以テ立法事項ヲ定

ムルノデアリマス、故ニ後ニ國會ニ向ツテ政府ハ連帶ノ責任ヲ以テ已ムヲ得ズ
 憲法違犯ノ行動ヲ爲シタルコトヲ白狀シ國會ガ政府ノ責任ヲ解除センコトヲ
 求ムルノデアリマス、之ガ英國ノ憲法ニ謂フ「ビル、オブ、インデミ」ニテ責任解除ノ
 議決ト云フノデアリマス、國會ガ之ヲ承諾スレバ、責任ガ解除セラル、ノデアアル
 若シ承諾セザレバ政府ノ責任ハ解除セラレザルノデアアル、其憲法違犯ノ措置ハ
 無效トナルノデアリマス、一口ニ云ヘバ政府ガ責任ヲ以テ憲法違犯ノ行動ヲ爲
 スト云フ慣例ガアリマス、之ハ法理論トシテ貫徹セザル主義デアリマス、英國ニ
 於テハ之ガ憲法デアアルカラ外國ノ議論ハ批評セザル所デアアルガ、日本憲法ノ上
 ニ之ヲ移シテ見ルトキニハ法理上甚ダ不當デアアル、若シ憲法違犯ノ行爲デア
 ルナラバ議會ガ議決シタラバトテ憲法違犯ヲ引直シテ適法タラシメ得ルト云
 フ條理ハナイノデアリマス、又如何ニ國務大臣ガ連帶シテ責任ヲ執ルカラト云
 ツテモ、大臣皆切腹シテモ憲法違犯ハドコマデモ憲法違犯デアリマス、大臣ガ責
 ヲ引クナラバ憲法違犯ノ行動ヲ爲シテモ宜イト云フ原則ヲ採ルハ甚ダ危険ナ
 ル法律デアリマス、又一方ヨリ見レバ議會ノ閉會中ハ如何ナル國家ノ危害ガア

ツテモ法律ニ代ル處置ヲ爲スコトガ出來ヌト云フハ愚ノ甚ダシキ至リデアリ
 マス

故ニ我憲法ニテハ英國ノ慣例ヲ認メツ、其法理ヲ採用セズ、緊急ノ場合ニ此命
 令ヲ發スルハ初ヨリ憲法當然ノ處置デアアル、違憲ニアラズト爲シタルノデアアル
 後ニ議會ノ議決ニ附スルハ議會開會後ニ於テモ尙ホ之ヲ繼續スベキヤ否ヤヲ
 問フノデアツテ過去ノ行爲ノ責任ヲ問フ議決ニアラズトシタノデアリマス、之
 ニテ憲法上ノ法理ハ整然トシテ條理アルコト、ナツテ説明明白ニナリマス、プ
 ロイセン、埃地利等ハ之ヲ憲法ニ認メナガラ尙ホ解釋スル者ハ憲法違犯ノ行動
 デアルカラ後ニ議會ノ責任解除ヲ請ハナケレバナラヌト云フノハ、前後ノ條理
 矛盾セル説明デアリマシテ、採用スベカラザルノデアリマス

第三 行政命令 ト云フハ憲法第九條ニ依テ發セラル、モノデアリマス、第九條
 ノ明文ニ在ル通り、天皇ハ法律ヲ執行スル爲メニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ
 及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ命令ヲ發シ又ハ發セシムルノデアリマス、此第
 九條ノ命令ヲ行政命令ト云フハ我輩ガ他ノモノト區別スル爲メニ斯ク名ケタ

ルノデアツテ便宜ノ名稱デアリマス、第九條ノ實質ヲ見レバ即チ行政ノ實質デアリマス、行政トハ法律ノ執行、秩序ノ維持及公益増進ノ爲メニ法律及大權ノ範圍内ニテ活動スル國家ノ行爲デアリマス、之ガ丁度第九條ノ豫見シテ居ル範圍デアリマス、故ニ行政ノ爲メニ發スルノ命令ト見テ誤リマセヌ

大權命令及法律ニ代ル命令ハ立法事項ヲ實質トシテ居リマス、此第九條ノ命令ハ立法事項及大權事項以外ノ政務ヲ實質トシテ居リマス、之ガ即チ行政ノ範圍デアリマス、此命令ハ大權ヲ以テ發シ又ハ大權ヲ以テ行政官ニ發セシムルコトヲ得ルノデアリマス、官制ヲ以テ行政官府ニ命令權ヲ以テ委任スルハ此第九條ノ範圍ニ限ルコトデアリマス、大權命令及法律ニ代ルノ命令ハ之ヲ官府ニ委任シテ發セシムルコトヲ得サルモノデアリマス、此命令ハ法律ヲ變更スルコトヲ得ザルモノデアリ而シテ法律ヲ以テ變更スルコトヲ得ルモノデアリマス、(憲九條ノ命令)大權命令ハ法律ト併立ツテ相犯シ得ザルモノデアリ法律ニ代ル命令ハ法律ヲ變更スルコトヲ得ルト同時ニ又後ノ法律ノ爲メニ變更セラル、ノデアリマス、此行政命令ニ至ツテハ時ノ前後ヲ問ハズ絕對ニ法律ノ下ニ在ル

デアアル、法律ヲ變更スルコトヲ得ズ即チ法律ノ爲メニハ變更ヲ受クルノデアリマス、之ガ效力ノ差デアアルカラ注意シナケレバナリマセヌ
茲ニ尙ホ注意スベキハ歐羅巴ノ國法學ノ教科書ニ於テハ、法律ト命令トヲ併ベテ説明スルニ於テ單ニ廣ク命令ト云ツテ實ハ我憲法ノ第九條ノ命令ノ事ノミヲ意味スルモノガ多イノデアリマス、例ハ命令ハ常ニ必ズ法律ノ下ニ在リト云フガ如キハ、我憲法ニ於テハ第九條ノ場合ニノミ適用セラル、原則デアアルガ、外國ノ教科書ニハ之ヲ絕對ノ原則トシテ掲ゲテ居リマス、之ハ詳シク述ベル暇ハナイガ、前ニ示シタ我憲法全體ノ組立ヨリ來ル差異デアアル、大權事項ト立法トヲ分チ各兩々對峙セシメテ相犯スコトヲ得ザラシムル我憲法ノ組立ヨリシテ命令ハ必ズシモ常ニ法律ノ下ニ在ルモノトハナラザルノデアリマス、又佛蘭西風ノ憲法ノ解釋ニテハ總テ命令ハ法律ノ委任ニ依ルニアラザレバ發スルコトヲ得ズト云フ精神デアリマスガ、我憲法ニ於テハ此狹キ主義ヲ採ラザルノデアリマス、佛蘭西風ニ云ヘバ命令ハ法律ノ執行ノ爲メ及法律ノ委任ニ依リテ之ヲ發スト云フノデアリマス、我憲法ニハ法律ノ執行ノ爲メノミナラズ、公益ノ爲メ秩

序ノ爲メニ獨立シテ命令ヲ發スル權ヲ認メテ居リマス、獨立シテト云フハ法律ヨリ獨立シテノ意義デアツテ、法律ノ委任ナクモ法律ニ牴觸セザル限ハ大權ヲ以テ自由ニ命令ヲ發シ得ルト云フ主義ヲ認メタルノデアリマス、獨逸ノ教科書ニモ此事ヲ論ジテ命令ヲ分ツテ執行命令ト獨立命令トシテ居リマス、法律ノ執行ノ爲メニスルモノト法律ヲ變更セザル限ニ於テ委任ニ依ラズ發スル命令トヲ謂ヘルノデアリマス

我憲法第九條ハ此二ツノモノヲ合、テ居ルト解釋スベキノデアリマス之ヲ以テ憲法上ノ三種ノ命令ノ性質效力ハ略御分リデアリマセウ、之ガ憲法上文上ノ解釋トシテ簡單ナガラ誤ナイノデアリマス

併シ茲ニ注意スベキモノハ、我國法全體ノ議論トシテハ憲法ノ規定ニ依ルノ、外尙ホ廣キ意味ニテ云フ國ノ命令ガアリマス、前ニモ云ヘル通り皇室典範ハ皇室ノ事ヲ定ムル法則デアアル、憲法トハ別ニ設ケテアリマスルガ、我國體上皇室ト統治權ノ主體トハ離ルベカラザルモノデアアルカラ、皇室典範ハ憲法ノ條項ニ依ル命令デハナイガ、國家ノ法則ヲ成シマス、又皇室典範ニ基イテ天皇ノ大權ニテ發セラル、所

ノ命令モアリマス、之ハ所謂皇室令デアアル、例ハ皇室婚嫁令トカ誕生令トカ云フ類デアリマス、之モ素ヨリ典範ニ基ク所ノ國ノ法則デアリマス、是等ノ典範及皇室令ノ效力ハ種々議論モアルデアラウガ、詳シク説明スル時ガナイカラ唯議論ノ結果ノミヲ茲ニ述ベテ置キマス

我輩ノ見ル所ニ依レバ皇室ニ關係スル事ニ付テハ縱令其關係ノ相手方ノ一方ガ人民デアツテモ、皇室典範及之ニ基クノ命令ハ先ヅ第一ニ適用セラル、モノデアアル、之ト牴觸セザル場合若ハ之ニテ認メラレテアル場合ハ普通ノ法律命令ガ適用セラル、モノデアアルト思ヒマス、事皇室ニ關係スルモノニ付テハ普通ノ法律命令ハ適用セズ、典範及典範ニ基ク命令ガ獨立シテ之ヲ定ムルモノデアアルト解スルノデアリマス、而シテ典範ハ國家ノ法則ノ一ツデアアルカラ憲法ト共ニ、人民モ裁判所モ皆認メナケレバナラヌモノデアアルト思フノデアリマス、又此外ニ行政ノ組織上公法人ナルモノガ認メラレテアル、公法人ノ議論ハ今直接ニ述ブル暇ハナイガ、例ハ市町村ノ如キ自治團體デアリマス、是等ノモノガ條例ヲ發シマス、其條例モ國法ニ認ムル所デアアルカラ、實質上行政命令ト同一ノ效力ヲ有シマス、併ナガラ公法人

ガ條例ヲ發スルノ權ハ之ヲ組織スル法律ニテ定ムルモノデアアル、憲法第九條ノ規定ハ直接ニ是等ノ條例ヲ見テ定メタモノデアアリマセヌ、條例ヲ發スルノ權ト其範圍、效力等ハ其權ヲ與フルノ法律ニテ定ルベキモノデアリマス、又尙ホ茲ニ一ツ申述ベナケレバナラヌ事ガアル

以上ノ三種ノ命令ノ外ニ詔勅ト云フ君主ノ意思ノ發表ガアリマス、之ハ憲法上如何ナル事ヲ詔トシ又ハ勅トシテ發スベキカト云フコトハ限定シテアリマセヌ、唯古來ヨリノ慣例ニ就テ見レバ國ノ大事ヲ人民ニ公布スルトキハ詔書ヲ以テスル尋常ノ事ニハ勅書ヲ以テスルト云フ慣例ガアルノデアリマス、君主ノ大權ヲ行フニ當ツテ、憲法ノ條項ニ特別ノ形式ヲ定メザル事ニ付テハ、詔勅ノ形式ニテ發表スルモ妨ナイノデアリマス、而シテ國務ニ關スル詔勅ニハ命令ト同ジャウニ國務大臣ノ副署ヲ要スルコトモ憲法第五十五條ニ見エテ居リマス

第六章 條約

條約

條約ト法律命令トノ關係ノ點ノミガ實際ニ必要デアルカラ、之ノミヲ一言シテ置キマス、條約論ハ種々學說ガアルカラ斷定シ難イノデアアルガ、單純ニ一個ノ私見ヲ

ノミ述ベテ置キマス、

條約ハ國ト國トノ約束デアアルカラ人民相互ノ約束デアアリマセヌ、條約ノ效力、其相手方ノ國家、政府其モノヲ束縛スルノデアアル、人民各個人ガ直接ニ之ニ依ツテ權利ヲ得、義務ヲ負フモノデアアリマセヌ、法律命令ハ人民ニ向ツテ權力ヲ以テ權利義務ノ關係ヲ定ムルモノデアリマス、茲ニ於テ條約ノ效力ト法令ノ效力トハ異ルモノデアアル、相手方ヲ異ニシテ居ルト云フ事ガ明瞭デアアル國ト國トノ關係ハ條約ニテ定ル、國ト個人トノ關係ハ法令ニテ定ル、故ニ法令ヲ以テ外國ニ對スル關係ヲ助スコトヲ得ズ、條約ヲ以テ國家ト人民トノ關係ヲ直接ニ助スコトヲ得ザルノデアリマス、之ガ條約ノ性質デアリマス、併シ實際問題トシテ疑ヲ懷ク者ハ條約ヲ締結シタルトキハ、其條約ヲ國內ニ執行セントスルニ於テ條約ガ人民ニ直接ノ效力ナシトスレバ、甚ダ不便デアアルデハナイカト疑フ者ガアリマス、併シ法理上條約ヲ履行スルガ爲メニ國ノ法律命令ヲ發スベキノデアリマス、條約ヲ以テ法令ニ代フルコトヲ得マセヌ、若シモ外國ニ對シテ或義務ヲ負ヒ其義務ヲ行フガ爲メニ、新ナル法律案ヲ國會ニ提出シタルトキニ國會デ否決スルカモ知レマセヌ、其場合ニハ

憲法 統治權ノ作用 條約